

2020年度

講義要項

メディア・
プロモーション学科

西日本短期大学

メディア・プロモーション学科

<学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）>

DP1 高い倫理観と優れた人格を備え、法律のかつ政治的なものの考え方が出来ること。

DP2 メディアに関する職業意識と専門的な能力を兼ね備えていること。

DP3 グローバル化に対応した教養と実践的な専門知識を有すること。

DP4 社会人また表現者として、十分なコミュニケーション能力を身につけていること。

DP5 国際的なビジネスに携わるための専門知識や、日本語能力を身につけていること。

<ナンバリングについて>

カリキュラムの体系性を示すため、授業科目に適切な番号を付し分類することで、学修の段階や順序等を表したものです。

■学科コード

- | | |
|-----------|---------------------|
| 1 ビジネス法学科 | 4 保育学科 |
| 2 緑地環境学科 | 5 健康スポーツコミュニケーション学科 |
| 3 社会福祉学科 | 6 メディア・プロモーション学科 |

■科目区分

- | | |
|--------|--------|
| B 基礎科目 | S 専門科目 |
| P 実務科目 | Q 資格科目 |

■開講期

- | | | |
|---------|---------|--------|
| 1 一年次科目 | 2 二年次科目 | |
| S 前期科目 | F 後期科目 | Y 通年科目 |

■必修・選択の区分

- | | |
|------|------|
| R 必修 | E 選択 |
|------|------|

■科目ナンバー

二桁の数字

(例)「政治学」の場合

学科コード	科目区分	開講期	必修・選択	科目ナンバー
6	B	1 S	E	01

<メディア・プロモーション学科 1年次開講科目>

区分	授業科目	ナンバリング	学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）					ページ
			DP 1	DP 2	DP 3	DP 4	DP 5	
基礎	政治学	6-B1SE01	○					1
	文学	6-B1SE02			○			2
	パソコンⅠ	6-B1SE03			○			3
	パソコンⅡ	6-B1FE04			○			4
	日本文化基礎演習	6-B1FE05			○			5
	ことばとコミュニケーション	6-B1FE06				○		6
	上級聴解Ⅰ	6-B1SE07					○	7
	上級聴解Ⅱ	6-B1FE08					○	8
	上級日本語総合Ⅰ-A	6-B1SE09					○	9
	上級日本語総合Ⅰ-B	6-B1SE11					○	10
	上級日本語総合Ⅱ-A	6-B1FE12					○	11
	上級日本語総合Ⅱ-B	6-B1FE13					○	12
	検定文法Ⅰ-A	6-B1SE14					○	13
	検定文法Ⅰ-B	6-B1FE15					○	14
	検定文字語彙Ⅰ-A	6-B1SE16					○	15
	検定文字語彙Ⅰ-B	6-B1FE17					○	16
専門	メディアリテラシー	6-S1SE01	○					17
	法の適用	6-S1SE02	○					18
	テレビドラマ映像論	6-S1SE03		○				19
	トータルコーディネイト論	6-S1SE04		○				20
	エスニシティ研究（ヨーロッパ）	6-S1SE05			○			21
	ホテル概論	6-S1SE06					○	22
	観光入門	6-S1SE07					○	23
	異文化コミュニケーション論Ⅰ	6-S1SE08				○		24
	言語コミュニケーション論Ⅰ	6-S1SE09				○	△	25
	言語コミュニケーション論Ⅱ	6-S1SE10				○	△	26
	総合演習Ⅰ	6-S1SE11				○		27
	総合演習Ⅱ	6-S1SE12				○		28
	イベント研修Ⅰ	6-S1SE13		△		○		29
	実務	メイクⅠ	6-P1FE01		○			
アナウンスメントⅠ-A		6-P1FE02		○				31, 32
アナウンスメントⅠ-B		6-P1FE03		○				33, 34
映像演技Ⅰ		6-P1FE04		○				35
映像演技Ⅱ		6-P1FE05		○				36
演劇的所作		6-P1FE06		○				37
ボーカル（声楽）Ⅰ		6-P1FE07		○				38
ボーカル（声楽）Ⅱ		6-P1FE08		○				39
ダンス表現研究Ⅰ		6-P1FE09		○				40
ダンス表現研究Ⅱ		6-P1FE10		○				41
洋舞特演Ⅰ-A		6-P1FE11		○				42
洋舞特演Ⅰ-B		6-P1FE12		○				43
モデルストリートⅠ		6-P1FE13		○				44
マナーと表現		6-P1FE14		○				45
MCトークⅠ		6-P1FE15		○				46
MCトークⅡ		6-P1FE16		○				47
アフレコⅠ		6-P1FE17		○				48
アフレコⅡ		6-P1FE18		○				49
ラジオ番組制作演習Ⅰ		6-P1FE19		○				50, 51
PV制作演習		6-P1FE20		○				52, 53
プロジェクト・プランニング		6-P1FE21				○		54, 55
オーディション対策Ⅰ		6-P1FE22		○				56
キャリア研究Ⅰ		6-P1FE23					○	57
宣材制作演習Ⅰ		6-P1FE24		○				58

○：関連するディプロマ・ポリシー △：次に関連するディプロマ・ポリシー

<メディア・プロモーション学科 2年次開講科目>

区分	授業科目	ナンバリング	学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）					ページ
			DP 1	DP 2	DP 3	DP 4	DP 5	
基礎	日本国憲法	6-B2FE01	○					59
	社会学	6-B2FE02	○					60
	英会話Ⅰ	6-B2FE03			○			61
	英会話Ⅱ	6-B2FE04			○			62
	中国語Ⅰ	6-B2FE05			○			63
	中国語Ⅱ	6-B2FE06			○			64
	茶道文化Ⅱ	6-B2FE07			○			65
	上級読解Ⅰ	6-B2FE08					○	66
	上級読解Ⅱ	6-B2FE09					○	67
	検定文法Ⅱ-A	6-B2FE10					○	68
	検定文法Ⅱ-B	6-B2FE11					○	69
	検定文字語彙Ⅱ-A	6-B2FE12					○	70
	検定文字語彙Ⅱ-B	6-B2FE13					○	71
専門	政治とメディア	6-S2SE01	○					72
	近代日本政治思想史	6-S2SE02	○					73
	知的財産法	6-S2SE03	○					74
	ジャーナリズム論	6-S2SE04	○					75
	表現と身体論	6-S2SE05		○				76
	エスニシティ研究（アジア）	6-S2SE06			○			77
	日本語教授法Ⅰ	6-S2SE07					○	78
	日本語教授法Ⅱ	6-S2SE08					○	79
	日本語教授法Ⅲ	6-S2SE09					○	80
	日本語教授法Ⅳ	6-S2SE10					○	81
	ゼミナール	6-S2SE11		○		△		82~91
	イベント研修Ⅱ	6-S2YE12		△		○		92
実務	ボイス・トレーニングⅠ	6-P2SE01		○				93
	ボイス・トレーニングⅡ	6-P2SE02		○				94
	アナウンスメントⅡ-A	6-P2SE03		○				95
	アナウンスメントⅡ-B	6-P2SE04		○				96
	映像演技Ⅲ	6-P2SE05		○				97
	映像演技Ⅳ	6-P2SE06		○				98
	ボディ・メイキングⅠ	6-P2SE07		○				99
	ボディ・メイキングⅡ	6-P2SE08		○				100
	洋舞特演Ⅱ-A	6-P2SE09		○				101
	洋舞特演Ⅱ-B	6-P2SE10		○				102
	モデルストリートⅡ	6-P2SE11		○				103
	アフレコⅢ	6-P2SE12		○				104
	アフレコⅣ	6-P2SE13		○				105
	ラジオ番組制作演習	6-P2SE14		○				106, 107
	オーディション対策Ⅱ	6-P2SE15		○				108
	宣材制作演習Ⅱ	6-P2SE16		○				109

○：関連するディプロマ・ポリシー △：次に関連するディプロマ・ポリシー

科目名	政治学							Politics		担当者	木下 宏一				
開講年度	2020	学年	2	開講期	後期	単位数	2	授業形態	講義	必修・選択の区分	選択				
授業の到達目標	<p>一、政治学的なものの方見方・考え方を身に付け、それを論理的かつ明快な文章で表現出来るようになる。</p> <p>二、政治学の基礎的な知識を習得し、その意義と目的性を系統立てて説明出来るようになる。</p> <p>三、現代日本政治の諸問題に自分なりの見解を持ち、それを他者と「共有可能」な言葉で議論することが出来るようになる。</p> <p>四、民主国家の一員として確固たる政治参画（投票権の行使）意識を持つことが出来るようになる。</p>														
授業概要	<p>古代ギリシャ以来、政治学は民主主義の社会に生きる市民一人一人にとって必要不可欠な素養です。個々の認識はどうあれ、経済、産業、教育、医療、福祉、安全保障、等々あらゆる面で、われわれの生活は「政治」と無関係ではあり得ません。授業では、政治学の成り立ちと歴史的展開を、世界各国の事例を参照しつつ様々な角度から検討していきます。具体的には、パワーポイントを使用し、スライドに沿って講義を進めます。理解を深めるため、随時その回のテーマに関連した歴史映像や映画の一場面をDVDで鑑賞します。また習熟度を確認するため、第5回目、第10回目、第13回目にそれぞれ小テストを実施します。</p>														
授業計画	授業のテーマ							予習内容・時間		復習内容・時間					
	1	政治学とは何か					インターネットで「政治学」を検索し大体の概要をつかんでおく（2時間）		ノートの整理（2時間）						
	2	日本政治史概観					前回の授業の終わりで指示された参考図書の熟読（2時間）		ノートの整理（2時間）						
	3	中国政治史概観					前回の授業の終わりで指示された参考図書の熟読（2時間）		ノートの整理（2時間）						
	4	欧米政治史概観					前回の授業の終わりで指示された参考図書の熟読（2時間）		ノートの整理（2時間）						
	5	独裁者の論理と心理、小テスト					前回の授業の終わりで指示された参考図書の熟読（2時間）		ノートの整理（2時間）						
	6	20世紀の政治思想① 第一次世界大戦まで					前回の授業の終わりで指示された参考図書の熟読（2時間）		ノートの整理（2時間）						
	7	20世紀の政治思想② ファシズムの台頭					前回の授業の終わりで指示された参考図書の熟読（2時間）		ノートの整理（2時間）						
	8	20世紀の政治思想③ 共産主義の伸長					前回の授業の終わりで指示された参考図書の熟読（2時間）		ノートの整理（2時間）						
	9	20世紀の政治思想④ 第二次世界大戦以降					前回の授業の終わりで指示された参考図書の熟読（2時間）		ノートの整理（2時間）						
	10	ユートピアとディストピア、小テスト					前回の授業の終わりで指示された参考図書の熟読（2時間）		ノートの整理（2時間）						
	11	政治責任と戦争責任—ニュルンベルク裁判と東京裁判					前回の授業の終わりで指示された参考図書の熟読（2時間）		ノートの整理（2時間）						
	12	政治学と哲学—M・ハイデガーの場合					前回の授業の終わりで指示された参考図書の熟読（2時間）		ノートの整理（2時間）						
	13	日本の社会と政治、小テスト					前回の授業の終わりで指示された参考図書の熟読（2時間）		ノートの整理（2時間）						
	14	現代日本政治の課題と展望					前回の授業の終わりで指示された参考図書の熟読（2時間）		ノートの整理（2時間）						
	15	まとめ、期末試験					前回の授業の終わりで指示された参考図書の熟読（2時間）		ノートの整理（2時間）						
成績評価基準	<p>まず、計三回実施する小テスト（政治的テーマ性を持った映像を観て、その感想をレポートにまとめる）において、政治学的なものの方見方・考え方が論述のなかに反映されているかを評価します。その上で、期末試験（筆記試験、ノートのみ持ち込み可）において、政治学の基礎的な知識がどれだけ習得しているか、政治学の意義と目的性をきちんと理解出来ているかを評価します。</p>														
成績評価方法（割合）	筆記試験			レポート			課題			実技		授業の取組		その他（ ）	
	60%			40%											
教科書	使用しない。						参考書		毎回授業の終わりに、次の回までに読んでおくべき参考図書を指示します。						
課題（試験、レポート等）に対するフィードバックの方法	<p>中間試験（レポート）については、実施した次の回で講評します。</p>														

科目名	文学 Literature							担当者	井料洋美		
開講年度	2020	学年	2	開講期	前期	単位数	2	授業形態	講義	必修・選択の区分	基礎・選択
授業の到達目標	『源氏物語』の千年前の時代から人は物語を読み、または語りを聞いていました。なぜ人は物語を求めるのでしょうか。それは物語の中にその時代や人々の喜びや悲しみ、愛、葛藤、悩みなどすべてのものが溶け込んでいるからではないでしょうか。本講座では近代文学を中心に作家とその作品を取り上げ、そこに描かれる人間の普遍的な問題について考えていきます。文学のおもしろさを知り、読書の楽しさを再発見することを目標とします。										
授業概要	近代文学の文豪、夏目漱石や森鷗外をはじめ、芥川龍之介、谷崎潤一郎、川端康成などの作品を読み、解説していきます。映像化されているものは鑑賞し、原作との違いに着目します。また『伊勢物語』『源氏物語』『今昔物語集』などの古典作品にも目を向け、古典と近代、ひいては私たちとの共通点を発見し、人間の本質、普遍性について考えていきます。										
授業計画	授業のテーマ							予習内容・時間	復習内容・時間		
	1	オリエンテーション：授業の進め方、評価、授業の取り組みなどを説明します。					配布資料を読むこと (2時間)	再読し、コメントを書く (2時間)			
	2	恋と孤独、葛藤について：夏目漱石の作品を中心として①					配布資料を読むこと (2時間)	再読し、コメントを書く (2時間)			
	3	恋と孤独、葛藤について：夏目漱石の作品を中心として②					配布資料を読むこと (2時間)	再読し、コメントを書く (2時間)			
	4	恋と孤独、葛藤について：古典作品を中心として①					配布資料を読むこと (2時間)	再読し、コメントを書く (2時間)			
	5	恋と孤独、葛藤について：古典作品を中心として②					配布資料を読むこと (2時間)	再読し、コメントを書く (2時間)			
	6	親子の愛と悲しみ、憎しみについて：森鷗外の作品を中心として①					配布資料を読むこと (2時間)	再読し、コメントを書く (2時間)			
	7	親子の愛と悲しみ、憎しみについて：森鷗外の作品を中心として②					配布資料を読むこと (2時間)	再読し、コメントを書く (2時間)			
	8	映画鑑賞－『山椒大夫』					配布資料を読むこと (2時間)	再読し、コメントを書く (2時間)			
	9	親子の愛と悲しみ、憎しみについて：芥川龍之介の作品を中心として					配布資料を読むこと (2時間)	再読し、コメントを書く (2時間)			
	10	耽美的世界について：谷崎潤一郎の作品を中心として①					配布資料を読むこと (2時間)	再読し、コメントを書く (2時間)			
	11	耽美的世界について：谷崎潤一郎の作品を中心として②					配布資料を読むこと (2時間)	再読し、コメントを書く (2時間)			
	12	映画鑑賞－『春琴抄』					配布資料を読むこと (2時間)	再読し、コメントを書く (2時間)			
	13	現代の作品：金城一紀『Go』					配布資料を読むこと (2時間)	再読し、コメントを書く (2時間)			
	14	リクエスト作品について					配布資料を読むこと (2時間)	再読し、コメントを書く (2時間)			
15	まとめ					配布資料を読むこと (2時間)	再読し、コメントを書く (2時間)				
成績評価基準	毎回の授業コメント(50%)を課題として重視します。自分がどう感じたかを自分のことばで表現してください。そして最後に作品をひとつ選んでレポートとして提出してもらいます。										
成績評価方法(割合%)	筆記試験	レポート	課題	実技	授業の取組	その他()					
		30%	50%		20%						
教科書	三訂版 詳説 日本文学史(高等学校で使用した文学史、または国語便覧を持参できる場合は購入不要) その他プリントを配布する。					参考書	適宜紹介する。				
課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法	提出物は毎回、評価とコメントをつけて返却します。										

科目名	パソコン I Practice in Computer I							担当者	秦 忠 広		
開講年度	2020	学年	1	開講期	前期	単位数	1	授業形態	演習	必修・選択の区分	選択
授業の到達目標	ワード、エクセル、パワーポイントの基本技術の習得する。										
授業概要	ワード、エクセル、パワーポイントの基礎を学びます。社会ではパソコンを使えることは、特別なことではなく、最低限必要な技術となっています。パソコンIでは基礎技術を学び、その活用としてプレゼンテーション能力を高めていく。										
授業計画	授業のテーマ							予習内容・時間	復習内容・時間		
	1	ガイダンス (ログイン・ファイルの保存など)					シラバスに目を通すこと (1時間)	授業で学んだ内容を各自整理しておくこと (1時間)			
	2	Word ①					配布したプリントに目を通し、熟読すること(1時間)	授業で学んだ内容を各自整理しておくこと (1時間)			
	3	Word ②					配布したプリントに目を通し、熟読すること(1時間)	授業で学んだ内容を各自整理しておくこと (1時間)			
	4	インターネット					配布したプリントに目を通し、熟読すること(1時間)	授業で学んだ内容を各自整理しておくこと (1時間)			
	5	Word ③					配布したプリントに目を通し、熟読すること(1時間)	授業で学んだ内容を各自整理しておくこと (1時間)			
	6	Word ④					配布したプリントに目を通し、熟読すること(1時間)	授業で学んだ内容を各自整理しておくこと (1時間)			
	7	Excel ①					配布したプリントに目を通し、熟読すること(1時間)	授業で学んだ内容を各自整理しておくこと (1時間)			
	8	Excel ②					配布したプリントに目を通し、熟読すること(1時間)	授業で学んだ内容を各自整理しておくこと (1時間)			
	9	Excel ③					配布したプリントに目を通し、熟読すること(1時間)	授業で学んだ内容を各自整理しておくこと (1時間)			
	10	Power Point ①					配布したプリントに目を通し、熟読すること(1時間)	授業で学んだ内容を各自整理しておくこと (1時間)			
	11	Power Point ②					配布したプリントに目を通し、熟読すること(1時間)	授業で学んだ内容を各自整理しておくこと (1時間)			
	12	Power Point ③					配布したプリントに目を通し、熟読すること(1時間)	授業で学んだ内容を各自整理しておくこと (1時間)			
	13	総合演習①					配布したプリントに目を通し、熟読すること(1時間)	授業で学んだ内容を各自整理しておくこと (1時間)			
	14	総合演習②					配布したプリントに目を通し、熟読すること(1時間)	授業で学んだ内容を各自整理しておくこと (1時間)			
15	総合演習③					配布したプリントに目を通し、熟読すること(1時間)	授業で学んだ内容を各自整理しておくこと (1時間)				
成績評価基準	主に課題提出と授業の取組によるが、課題提出50%、授業の取組 (参加姿勢) 50%で評価する。										
成績評価方法 (割合%)	筆記試験	レポート	課題	実技	授業の取組	その他 ()					
			50		50						
教科書	プリントを配布する。					参考書	適宜紹介する。				
課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法	2回目以降は前の回に課した課題の講評や振り返りなどを行う。										

科目名	パソコンⅡ Practice in Computer Ⅱ							担当者	秦 忠 広		
開講年度	2020	学年	1	開講期	後期	単位数	1	授業形態	演習	必修・選択の区分	選択
授業の到達目標	ワード、エクセル、パワーポイントの基本技術の習得する。										
授業概要	ワード、エクセル、パワーポイントの基礎を学びます。社会ではパソコンを使えることは、特別なことではなく、最低限必要な技術となっています。パソコンⅡでは基礎技術を学び、その活用としてプレゼンテーション能力を高めていく。										
授業計画	授業のテーマ							予習内容・時間		復習内容・時間	
	1	前期の復習①						シラバスに目を通すこと(1時間)		授業で学んだ内容を各自整理しておくこと(1時間)	
	2	前期の復習②						配布したプリントに目を通し、熟読すること(1時間)		授業で学んだ内容を各自整理しておくこと(1時間)	
	3	前期の復習③						配布したプリントに目を通し、熟読すること(1時間)		授業で学んだ内容を各自整理しておくこと(1時間)	
	4	インターネット						配布したプリントに目を通し、熟読すること(1時間)		授業で学んだ内容を各自整理しておくこと(1時間)	
	5	プレゼンテーション①						配布したプリントに目を通し、熟読すること(1時間)		授業で学んだ内容を各自整理しておくこと(1時間)	
	6	プレゼンテーション②						配布したプリントに目を通し、熟読すること(1時間)		授業で学んだ内容を各自整理しておくこと(1時間)	
	7	プレゼンテーション③						配布したプリントに目を通し、熟読すること(1時間)		授業で学んだ内容を各自整理しておくこと(1時間)	
	8	プレゼンテーション④						配布したプリントに目を通し、熟読すること(1時間)		授業で学んだ内容を各自整理しておくこと(1時間)	
	9	プレゼンテーション⑤						配布したプリントに目を通し、熟読すること(1時間)		授業で学んだ内容を各自整理しておくこと(1時間)	
	10	プレゼンテーション⑥						配布したプリントに目を通し、熟読すること(1時間)		授業で学んだ内容を各自整理しておくこと(1時間)	
	11	総合演習①						配布したプリントに目を通し、熟読すること(1時間)		授業で学んだ内容を各自整理しておくこと(1時間)	
	12	総合演習②						配布したプリントに目を通し、熟読すること(1時間)		授業で学んだ内容を各自整理しておくこと(1時間)	
	13	総合演習③						配布したプリントに目を通し、熟読すること(1時間)		授業で学んだ内容を各自整理しておくこと(1時間)	
	14	総合演習④						配布したプリントに目を通し、熟読すること(1時間)		授業で学んだ内容を各自整理しておくこと(1時間)	
	15	総合演習⑤						配布したプリントに目を通し、熟読すること(1時間)		授業で学んだ内容を各自整理しておくこと(1時間)	
成績評価基準	主に課題提出と授業の取組によるが、課題提出50%、授業の取組(参加姿勢)50%で評価する。										
成績評価方法(割合%)	筆記試験		レポート		課題		実技		授業の取組		その他()
					50				50		
教科書	プリントを配布する。					参考書	適宜紹介する。				
課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法	2回目以降は前の回に課した課題の講評や振り返りなどを行う。										

科目名	日本文化基礎演習 Introduction to Japanese Culture							担当者	徳永 玲子 黒瀬 菜々 日小田幸子				
開講年度	2020	学年	1	開講期	後期	単位数	1	授業形態	演習	必修・選択の区分	選択		
授業の到達目標	①日本の暮らし、文化を理解したうえで、協調しコミュニケーションができるようになる。 ②日本の美術史に関する基礎知識を得るとともに、技法や作家、他文化の作品との比較など多様な視点をもって美術作品を鑑賞することができる。 ③日本の絵巻物からアニメへの歴史的つながりを系統立てて理解する。日本のアニメの中の宗教的表現・概念が発見できる。												
授業概要	感性や芸術に対する好奇心を磨くことは、人生における精神的豊かさにつながります。この授業は3名によるオムニバス形式で、各5回ずつの授業を行います。1回から5回は三味線今藤流名取、日本舞踊花柳流師範、絵本のお話を多数開催してきた講師による日本文化を見て体験する総合的授業です。6回から15回は日本美術史と日本のサブカルチャーをテーマとして、日本美術の歴史的な流れやその先にある現在の日本文化に目を向け、日本文化に関する教養を高めます。												
授業計画	授業のテーマ							予習内容・時間		復習内容・時間			
	1	アニメーションに見る日本の暮らし					シラバスを熟読・理解 (30分)		関連内容についての知識を深める (30分)				
	2	絵本で知る日本の風習					プリント該当部分を熟読し整理 (30分)		関連内容についての知識を深める (30分)				
	3	着物を着て美しい所作を					プリント該当部分を熟読し整理 (30分)		関連内容についての知識を深める (30分)				
	4	和楽器 (三味線) に触れる					プリント該当部分を熟読し整理 (30分)		関連内容についての知識を深める (30分)				
	5	エチュード「接客」					プリント該当部分を熟読し整理 (30分)		関連内容についての知識を深める (30分)				
	6	日本美術史① 日本の歴史と美術					プリント該当部分を熟読し整理 (30分)		作品や作家等について調べ鑑賞 (30分)				
	7	日本美術史② 日本の人物画					プリント該当部分を熟読し整理 (30分)		作品や作家等について調べ鑑賞 (30分)				
	8	日本美術史③ 日本の風景画					プリント該当部分を熟読し整理 (30分)		作品や作家等について調べ鑑賞 (30分)				
	9	日本美術史④ 日本の宗教美術					プリント該当部分を熟読し整理 (30分)		作品や作家等について調べ鑑賞 (30分)				
	10	日本美術史⑤ 日本の工芸と建築					プリント該当部分を熟読し整理 (30分)		作品や作家等について調べ鑑賞 (30分)				
	11	サブカルチャー論① 絵巻物からアニメへ					資料通読・30分		レポート作成・30分				
	12	サブカルチャー論② 日本と海外におけるアニメ史					資料通読・30分		レポート作成・30分				
	13	サブカルチャー論③ アニメ表現論					資料通読・30分		レポート作成・30分				
	14	サブカルチャー論④ 日本のアニメにおける宗教観(1)					資料通読・30分		レポート作成・30分				
	15	サブカルチャー論⑤ 日本のアニメにおける宗教観(2)					資料通読・30分		レポート作成・30分				
成績評価基準	①対話の中から理解度を、実技の中から (特に5回目の授業で) コミュニケーション力を評価する。 ②各回の授業や課題プリント等において積極的に意見や感想を表すこと。 ③授業で積極的に参加・発言し、調査結果などのレポートを作成すること。												
成績評価方法 (割合%)	筆記試験			レポート			課題		実技		授業の取組		その他 ()
				40							60		
教科書	適宜プリントを配布						参考書		『改訂版 西洋・日本美術史の基本』美術検定実行委員会編 (美術出版社) その他適宜紹介				
課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法	レポートは2週間以内にコメントをつけて返却する。												

科目名	ことばとコミュニケーション Language and Communication							担当者	黒瀬菜々				
開講年度	2020	学年	1	開講期	後期	単位数	1	授業形態	演習	必修・選択の区分	選択		
授業の到達目標	1. 社会に出るにあたって必要な文章力や表現力を磨き、場面に応じた日本語表現を使用することができる。 2. 自らの意見や表現したいことを、他者に伝えられるように言葉に表すことができる。 3. 語彙力や表現力を伸ばすために、普段から身の回りにおけることばの表現を調べ、それらを使用できるようにする。												
授業概要	人々の価値観や考え方が多様化している現在、自らの意見や立場を言葉で表明することは社会人として必要なスキルであり、また自己表現の一つとして言葉を使用する機会も多い。日本語は書き言葉や話し言葉、丁寧さや場面などさまざまな使い分けが必要な言語である一方、新しい表現を生み出しやすい言葉でもある。この授業では、さまざまな資料からの日本語表現に多く触れつつ、自らも詩や文章を書き、他者への伝わり方を議論すること等で、コミュニケーションの道具としてのことばを有効に活用できるスキルを磨く。												
授業計画	授業のテーマ							予習内容・時間		復習内容・時間			
	1	オリエンテーション／書き言葉と話し言葉									配布資料熟読（1時間）		
	2	感覚の表現 ①							提示された課題について事前に調べておく(30分)		自らの文章を推敲(30分)		
	3	感覚の表現 ②							提示された課題について事前に調べておく(30分)		自らの文章を推敲(30分)		
	4	広告の表現 ①							提示された課題について事前に調べておく(30分)		自らの文章を推敲(30分)		
	5	広告の表現 ②							提示された課題について事前に調べておく(30分)		自らの文章を推敲(30分)		
	6	季節と色の表現							提示された課題について事前に調べておく(30分)		自らの文章を推敲(30分)		
	7	詩の表現 ①							提示された課題について事前に調べておく(30分)		自らの文章を推敲(30分)		
	8	小説の表現 ①							提示された課題について事前に調べておく(30分)		自らの文章を推敲(30分)		
	9	小説の表現 ②							提示された課題について事前に調べておく(30分)		自らの文章を推敲(30分)		
	10	ビジネスの表現 ①							提示された課題について事前に調べておく(30分)		自らの文章を推敲(30分)		
	11	ビジネスの表現 ②							提示された課題について事前に調べておく(30分)		自らの文章を推敲(30分)		
	12	敬語							提示された課題について事前に調べておく(30分)		自らの文章を推敲(30分)		
	13	マナーとことば							提示された課題について事前に調べておく(30分)		自らの文章を推敲(30分)		
	14	自己PRの文章							自己PRの内容を考えておく(30分)		自らの文章を推敲(30分)		
	15	まとめと期末試験							期末試験課題について熟慮しておく(30分)		提出課題の見直し(30分)		
成績評価基準	1. 予習で事前に表現を調べるなどし、各回における課題に即した文章を作成できていること。 2. 互いに表現したいことが十分に伝わっているか、他者との議論に積極的に参加すること。 3. 各回の冒頭に新しい語彙や表現についてグループ内発表を行うため、そのための事前準備をして臨んでいること。												
成績評価方法(割合%)	筆記試験			レポート			課題		実技		授業の取組		その他()
	40%						30%				30%		
教科書	適宜プリントを配布							参考書	「声に出して読みたい日本語」斎藤孝著(草思社文庫) 「入社1年目ビジネスマナーの教科書」金森たかこ著(プレジデント社)				
課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法	コメントをつけて返却												

科目名	上級聴解 I							Listening I		担当者	久保田 貴子 入江 千治			
開講年度	2020	学年	1	開講期	前期	単位数	1	授業形態	演習	必修・選択の区分	選択			
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 日本語能力試験N3～N2合格を目指し、計画的に準備ができる。 考えを述べたり不明点について質問ができる。 日常的な場面のまとまりのある日本語会話を正確に聞き取り、具体的な内容について述べられる。 日常的に日本語会話で使用される語彙や表現を理解し、使用できる。 定期的に行う小テストに合格できる。 													
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> クラスをレベル別に分け、それぞれのレベルに応じて授業を進めます。聴解力を上げるためには、繰り返し聞きとること、そして会話の中で登場する語彙や表現をしっかりと身につけていくことが重要です。日本語能力試験に合格するだけでなく、実際の日本の生活の中で学んだことを活用できるように、授業の中で練習をしていきます。 													
授業計画	授業のテーマ							予習内容・時間		復習内容・時間				
	1	オリエンテーション / 発音と聞き取りの基礎					発音練習 (30分)		今日学んだことばの復習 (30分)					
	2	縮約形の練習					縮約形練習 (30分)		今日学んだことばの復習 (30分)					
	3	数字を聞き取る					数字に関する言葉 (30分)		今日学んだことばの復習 (30分)					
	4	時間を聞き取る					時間に関する言葉 (30分)		今日学んだことばの復習 (30分)					
	5	順番を聞き取る①					順番に関する言葉 (30分)		今日学んだことばの復習 (30分)					
	6	順番を聞き取る②					順番に関する言葉 (30分)		今日学んだことばの復習 (30分)					
	7	位置を聞き取る①					位置に関する言葉 (30分)		今日学んだことばの復習 (30分)					
	8	位置を聞き取る②					位置に関する言葉 (30分)		今日学んだことばの復習 (30分)					
	9	指示を聞き取る①					指示に関する言葉 (30分)		今日学んだことばの復習 (30分)					
	10	日本語能力試験・模擬試験					模試の準備 (1時間)		模試の復習 (1時間)					
	11	指示を聞き取る②					指示に関する言葉 (30分)		今日学んだことばの復習 (30分)					
	12	論理的説明を聞き取る①					論理的説明に関する言葉 (30分)		今日学んだことばの復習 (30分)					
	13	論理的説明を聞き取る②					論理的説明に関する言葉 (30分)		今日学んだことばの復習 (30分)					
	14	論理的説明を聞き取る③					論理的説明に関する言葉 (30分)		今日学んだことばの復習 (30分)					
15	まとめ					第1回から学んだ言葉の確認		総復習						
成績評価基準	<ul style="list-style-type: none"> 日本語能力試験N3～N2合格を目指し、計画的に準備が出来るか、授業内で確認する。 意見を述べたり不明点について質問ができるか、授業内で確認する。 日常的な場面のまとまりのある日本語会話を正確に聞き取り、具体的な内容について述べられるか、授業内・小テスト・期末試験で確認する。 日常的に日本語会話で使用される語彙や表現を理解し、使用できるか、定期的に行う小テストで確認する。 													
成績評価方法 (割合%)	筆記試験			レポート			課題			実技		授業の取組		その他(小テスト・模試)
	50%											30%		20%
教科書	プリント配布						参考書		日本語能力試験対応短期マスター聴解ドリル 1					
課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法	翌週授業内でフィードバック													

科目名	上級聴解Ⅱ							Listening Ⅱ		担当者	久保田 貴子 入江 千治				
開講年度	2020	学年	1	開講期	後期	単位数	1	授業形態	演習	必修・選択の区分	選択				
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 日本語能力試験N2合格を目指し、計画的に準備ができる。 考えを述べたり不明点に関して質問ができる。 日常的な場面のまとまりのある日本語会話やニュースを正確に聞き取り、具体的な内容について述べられる。 日常的に日本語会話で使用される語彙や表現を理解し、使用できる。 定期的に行う小テストに合格できる。 														
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> クラスをレベル別に分け、それぞれのレベルに応じて授業を進めます。聴解力を上げるためには、繰り返し聞きとること、そして会話の中で登場する語彙や表現をしっかりと身につけていくことが重要です。日本語能力試験に合格するだけでなく、実際の日本の生活の中で学んだことを活用できるように、授業の中で練習をしていきます。 														
授業計画	授業のテーマ							予習内容・時間		復習内容・時間					
	1	オリエンテーション / 課題理解 (音の聞き取り①)					課題理解の新しい言葉① (30分)		今日学んだことばの復習 (30分)						
	2	課題理解 (聴解のための語彙表現①・予測①)					課題理解の新しい言葉② (30分)		今日学んだことばの復習 (30分)						
	3	課題理解 (情報の整理①・まとめの問題)					課題理解の新しい言葉③ (30分)		今日学んだことばの復習 (30分)						
	4	ポイント理解 (音の聞き取り②・聴解のための語彙表現②)					ポイント理解の新しい言葉① (30分)		今日学んだことばの復習 (30分)						
	5	ポイント理解 (予測②・話者の心情を考える②)					ポイント理解の新しい言葉② (30分)		今日学んだことばの復習 (30分)						
	6	ポイント理解 (まとめの問題)・概要理解 (音の聞き取り③)					ポイント理解の新しい言葉③ (30分)		今日学んだことばの復習 (30分)						
	7	概要理解 (聴解のための語彙表現③・予測③)					概要理解の新しい言葉① (30分)		今日学んだことばの復習 (30分)						
	8	概要理解 (情報の整理②・まとめの問題)					概要理解の新しい言葉① (30分)		今日学んだことばの復習 (30分)						
	9	日本語能力試験・模擬試験					模試の準備 (1時間)		模試の復習 (1時間)						
	10	即時応答 (聴解のための語彙表現④)					即時応答の新しい言葉① (30分)		今日学んだことばの復習 (30分)						
	11	即時応答 (話者の心情を考える②・まとめの問題)					即時応答の新しい言葉② (30分)		今日学んだことばの復習 (30分)						
	12	統合理解 (聴解のための語彙表現⑤)					統合理解の新しい言葉① (30分)		今日学んだことばの復習 (30分)						
	13	統合理解 (予測④)					統合理解の新しい言葉② (30分)		今日学んだことばの復習 (30分)						
	14	統合理解 (情報の整理③・まとめの問題)					統合理解の新しい言葉② (30分)		今日学んだことばの復習 (30分)						
15	まとめ					第1回から学んだ言葉の確認		総復習							
成績評価基準	<ul style="list-style-type: none"> 日本語能力試験N2合格を目指し、計画的に準備ができているか、授業内で確認する。 考えを述べたり不明点に関して質問ができるか、授業内で確認する。 日常的な場面のまとまりのある日本語会話やニュースを正確に聞き取り、具体的な内容について述べられるか、授業内・小テスト・期末試験で確認する。 日常的に日本語会話で使用される語彙や表現を理解し使用できるか、定期的に行う小テストで確認する。 														
成績評価方法 (割合%)	筆記試験			レポート			課題			実技			授業の取組		その他(小テスト・模試)
	50%												30%		20%
教科書	プリント配布						参考書		耳から覚える日本語能力試験聴解トレーニングN2						
課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法	翌週授業内でフィードバック														

科目名	上級日本語総合 I -A Advanced Japanese I -A							担当者	黒瀬 菜々 竹ノ内美樹香 入江 千治			
開講年度	2020	学年	1	開講期	前期	単位数	1	授業形態	演習	必修・選択の区分	選択	
授業の到達目標	1. N3～N2レベルの総合的な日本語力を養い、それらを用いてコミュニケーションをとること。 2. 発話練習を通じて適切な発音や表現を身につけ、日常的な日本語会話に役立てられること。 3. ビジネス場面で用いられる表現を学び、日常的な話し言葉等との区別ができること。											
授業概要	上級日本語総合 I -Aと I -Bでは共通のメインテキストを使用し、読む、書く、聞く、話すの四技能を総合的に養います。連続授業となるので、併せて履修するようにしてください。日本企業などで働くにあたっては、それぞれの場面にふさわしいとされる表現や語彙を知っておく必要があります。この授業では、それらを「使える」ようにするための練習も行います。確認テストや課題提出などで評価を行います。また、連続した内容の授業であるため無断遅刻や欠席をしないようにしてください。											
授業計画	授業のテーマ							予習内容・時間		復習内容・時間		
	1	オリエンテーション／第1課 紹介する					該当箇所の語彙の意味と使い方を調べておく (30分)		口頭練習 (30分)			
	2	第1課 紹介する／シャドーイング					該当箇所の語彙の意味と使い方を調べておく (30分)		第1課内容復習 (30分)			
	3	第2課 あいさつをする／シャドーイング／第1課テスト					該当箇所の語彙の意味と使い方を調べておく (30分)		口頭練習 (30分)			
	4	第2課 あいさつをする／シャドーイング					該当箇所の語彙の意味と使い方を調べておく (30分)		口頭練習 (30分)			
	5	作文練習①／シャドーイング					指示された作文テーマについて考える (30分)		第2課内容復習 (30分)			
	6	第3課 電話をかける・受ける／シャドーイング／第2課テスト					該当箇所の語彙の意味と使い方を調べておく (30分)		口頭練習 (30分)			
	7	第3課 電話をかける・受ける／シャドーイング					該当箇所の語彙の意味と使い方を調べておく (30分)		第3課内容復習 (30分)			
	8	第4課 注意する・注意を受ける／シャドーイング／第3課テスト					該当箇所の語彙の意味と使い方を調べておく (30分)		口頭練習 (30分)			
	9	第4課 注意する・注意を受ける／シャドーイング					該当箇所の語彙の意味と使い方を調べておく (30分)		口頭練習 (30分)			
	10	作文練習②／シャドーイング					指示された作文テーマについて考える (30分)		第4課内容復習 (30分)			
	11	第5課 頼む・断る／シャドーイング／第4課テスト					該当箇所の語彙の意味と使い方を調べておく (30分)		口頭練習 (30分)			
	12	第5課 頼む・断る／シャドーイング					該当箇所の語彙の意味と使い方を調べておく (30分)		第5課内容復習 (30分)			
	13	第6課 許可をもらう／シャドーイング／第5課テスト					該当箇所の語彙の意味と使い方を調べておく (30分)		口頭練習 (30分)			
	14	第6課 許可をもらう／シャドーイング					該当箇所の語彙の意味と使い方を調べておく (30分)		口頭練習 (30分)			
	15	まとめと期末試験					試験に向けた復習 (1時間)		解答の確認・復習 (30分)			
成績評価基準	1. 各課ごとのテストにおいて学んだ内容を確認するとともに、授業内外での発話に活かしていること。 2. 会話練習等において、聞き取りやすい発音や適切な表現ができているかどうか。 3. 試験や会話練習、日常的な会話において表現が区別できているかどうか。											
成績評価方法 (割合%)	筆記試験	レポート	課題	実技	授業の取組	その他 ()						
	40%		30%		30%							
教科書	『にはんごで働く！ビジネス日本語30時間』宮崎道子・郷司幸子著 (スリーエーネットワーク)					参考書	『1日10分のシャドーイング！就活・仕事のにはんご会話』AJALT 著 (ask)					
課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法	試験後、解説プリントを配布しフィードバック											

科目名	上級日本語総合 I - B Advanced Japanese I - B							担当者	久保田貴子 志田華奈子 日小田幸子					
	開講年度	2020	学年	1	開講期	前期	単位数		2	授業形態	演習	必修・選択の区分	選択	
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 話し手の使う表現によって、立場・状況・関係などが変わること理解し、会話の要点を聞き取ることができる。 日常でよく使われる表現を使った社会的な話題について書かれた文章を読み、説明することができる。 相手の感情に配慮し、適切な言葉を選んで自分の意見・要望が伝えられる。 経験や印象、自らの意見や抱負などを織り交ぜた文作成を行う。 N3-N2レベルの「聞く・話す・書く・読む」の総合的な力の養成を図る。 													
授業概要	<p>上級日本語総合 I - A と連続授業になるので、併せて履修のこと。テキストの語彙の意味、読み方を確認し、その語を使った短文が作れるように訓練する。会話文に出てくる文法項目や待遇表現などの意味を理解し、さまざまな状況に応じた適切な文が作れるようにする。CD などを使って発音、イントネーションに注意しながら会話文を発話できるようにする。会話文をペアで練習し、動作を交えながら、自然な会話ができるように練習し、状況に合わせた応用会話をつくる。状況説明文、要望文などが書けるように練習する。ある程度長い文を聞き、要点をつかんで聞き取れるように訓練する。ビジネス会話の要点を聞き取り、発話できるようにする。</p>													
授業計画	授業のテーマ							予習内容・時間		復習内容・時間				
	1	オリエンテーション 新日本語の中級11課 語彙・学習項目・ビジネス会話1-①							11課・2時間		11課・2時間			
	2	新日本語の中級11課 会話1・会話2・会話の練習・ビジネス会話1-②							11課・2時間		11課・2時間			
	3	新日本語の中級11課 会話3・会話の練習・活動・ビジネス会話1-③							11課・2時間		11課・2時間			
	4	新日本語の中級11課 読もう・聞こう・ビジネス会話1-④							12課・2時間		11課・2時間			
	5	新日本語の中級12課 語彙・学習項目・ビジネス会話1-⑤							12課・2時間		12課・2時間			
	6	新日本語の中級12課 会話1・会話の練習・ビジネス会話1-⑥							12課・2時間		12課・2時間			
	7	新日本語の中級12課 会話2・会話の練習・ビジネス会話2-①							12課・2時間		12課・2時間			
	8	新日本語の中級12課 活動・ビジネス会話2-②							12課・2時間		12課・2時間			
	9	新日本語の中級12課 読もう・聞こう・ビジネス会話2-②							13課・2時間		12課・2時間			
	10	新日本語の中級13課 語彙・学習項目・ビジネス会話2-③							13課・2時間		13課・2時間			
	11	新日本語の中級13課 会話1・会話の練習・ビジネス会話2-④							13課・2時間		13課・2時間			
	12	新日本語の中級13課 会話2・会話の練習・ビジネス会話2-⑤							13課・2時間		13課・2時間			
	13	新日本語の中級13課 会話3・会話の練習・活動・ビジネス会話2-⑥							13課・2時間		13課・2時間			
	14	新日本語の中級13課 読もう・聞こう・ビジネス会話2-⑧							11～13課・2時間		11～13課・2時間			
15	試験・まとめ							11～13課・2時間		11～13課・2時間				
成績評価基準	授業での語彙・文法・待遇表現などの小テスト、会話などの実技を重視して評価する。													
成績評価方法 (割合%)	筆記試験			レポート			課題			実技		授業の取組		その他()
	30											70		
教科書	「新日本語の中級 本冊」 AOTS スリーエーネットワーク出版							参考書		『就活・仕事のにほんご会話』 『BJT ビジネス日本語能力テスト聴解・聴読解実力養成問題集』				
課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法	試験のフィードバックとして、講評や解説の時間を設ける。													

科目名	上級日本語総合Ⅱ-A Advanced Japanese Ⅱ-A							担当者	黒瀬 菜々 竹ノ内美樹香 入江 千治		
開講年度	2020	学年	1	開講期	前期	単位数	1	授業形態	演習	必修・選択の区分	選択
授業の到達目標	1. N3～N2レベルの総合的な日本語力を養い、それらを用いてコミュニケーションをとること。 2. 発話練習を通じて適切な発音や表現を身につけ、日常的な日本語会話に役立てられること。 3. ビジネス場面で用いられる表現を学び、日常的な話し言葉等との区別ができること。										
授業概要	上級日本語総合Ⅱ-Aでは、前期のⅠ-Aに引き続き、読む、書く、聞く、話すの四技能を総合的に養います。上級日本語Ⅱ-Bと併せて履修するようにしてください。日本企業などで働くにあたっては、それぞれの場面にふさわしいとされる表現や語彙を知っておく必要があります。この授業では、前期で身につけた表現をさらに発展させ、ロールプレイを繰り返し行い練習します。確認テストや課題提出などで評価を行います。また、連続した内容の授業であるため無断遅刻や欠席をしないようにしてください。										
授業計画	授業のテーマ							予習内容・時間		復習内容・時間	
	1	オリエンテーション／第7課 アポイントをとる／シャドーイング					該当箇所の語彙の意味と使い方を調べておく(30分)		口頭練習(30分)		
	2	第7課 アポイントをとる／シャドーイング					該当箇所の語彙の意味と使い方を調べておく(30分)		第7課内容復習(30分)		
	3	第8課 訪問する／シャドーイング／第7課テスト					該当箇所の語彙の意味と使い方を調べておく(30分)		口頭練習(30分)		
	4	第8課 訪問する／シャドーイング					該当箇所の語彙の意味と使い方を調べておく(30分)		第8課内容復習(30分)		
	5	中級ロールプレイで学ぶビジネス日本語 第1課 インターンシップ情報を得る／シャドーイング／第8課テスト					該当箇所の語彙の意味と使い方を調べておく(30分)		口頭練習(30分)		
	6	中級ロールプレイで学ぶビジネス日本語 第1課 インターンシップ情報を得る／シャドーイング					該当箇所の語彙の意味と使い方を調べておく(30分)		口頭練習(30分)		
	7	作文練習①／シャドーイング					指示された作文テーマについて考える(30分)		口頭練習(30分)		
	8	中級ロールプレイで学ぶビジネス日本語 第2課 インターンシップに応募する／シャドーイング					該当箇所の語彙の意味と使い方を調べておく(30分)		第1・2課内容復習(30分)		
	9	中級ロールプレイで学ぶビジネス日本語 第3課 インターンシップに参加する①／シャドーイング／第1・2課テスト					該当箇所の語彙の意味と使い方を調べておく(30分)		口頭練習(30分)		
	10	中級ロールプレイで学ぶビジネス日本語 第4課 インターンシップに参加する／シャドーイング					該当箇所の語彙の意味と使い方を調べておく(30分)		口頭練習(30分)		
	11	作文練習②／シャドーイング					指示された作文テーマについて考える(30分)		第3・4課内容復習(30分)		
	12	中級ロールプレイで学ぶビジネス日本語 第5課 面接を受ける①／シャドーイング／第3・4課テスト					該当箇所の語彙の意味と使い方を調べておく(30分)		口頭練習(30分)		
	13	中級ロールプレイで学ぶビジネス日本語 第6課 面接を受ける②／シャドーイング					該当箇所の語彙の意味と使い方を調べておく(30分)		口頭練習(30分)		
	14	中級ロールプレイで学ぶビジネス日本語 第7課 報告書を書く／シャドーイング					該当箇所の語彙の意味と使い方を調べておく(30分)		口頭練習(30分)		
	15	まとめと期末試験					試験に向けた復習(1時間)		解答の確認・復習(30分)		
成績評価基準	1. 各課ごとのテストにおいて学んだ内容を確認するとともに、授業内外での発話に活かしていること。 2. 会話練習等において、聞き取りやすい発音や適切な表現ができているかどうか。 3. 試験や会話練習、日常的な会話において表現が区別できているかどうか。										
成績評価方法(割合%)	筆記試験		レポート		課題		実技		授業の取組		その他()
	40%				30%				30%		
教科書	『にほんごで働く!ビジネス日本語30時間』宮崎道子・郷司幸子著(スリーエーネットワーク) 『中級ロールプレイで学ぶビジネス日本語』村野節子・山辺真理子・向山陽子著(スリーエーネットワーク)						参考書	『1日10分のシャドーイング!就活・仕事のにほんご会話』AJALT著(ask)			
課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法	試験後、解説プリントを配布しフィードバック										

科目名	上級日本語総合Ⅱ-B Advanced Japanese II-B						担当者	久保田貴子 志田華奈子 日小田幸子			
開講年度	2020	学年	1	開講期	後期	単位数	2	授業形態	演習	必修・選択の区分	選択
授業の到達目標	1. 話し手の使う表現によって、立場・状況・関係などが変わること的理解し、会話の要点を聞き取ることができる。 2. 日常でよく使われる表現を使った社会的な話題について書かれた文章を読み、説明することができる。 3. 相手の感情に配慮し、適切な言葉を選んで自分の意見・要望が伝えられる。 4. 経験や印象、自らの意見や抱負などを織り交ぜた文作成を行う。 5. N2レベルの「聞く・話す・書く・読む」の総合的な力の養成を図る。										
授業概要	上級日本語総合Ⅱ-Aと連続授業になるので、併せて履修のこと。テキストの語彙の意味、読み方を確認し、その語を使った短文が作れるように訓練する。会話文に出てくる文法項目や待遇表現などの意味を理解し、さまざまな状況に応じた適切な文が作れるようにする。CDなどを使って発音、イントネーションに注意しながら会話文を発話できるようにする。会話文をペアで練習し、動作を交えながら、自然な会話ができるように練習し、状況に合わせた応用会話をつくる。状況説明文、要望文などが書けるように練習する。ある程度長い文を聞き、要点をつかんで聞き取れるように訓練する。ビジネス会話の要点を聞き取り、発話できるようにする。										
授業計画	授業のテーマ						予習内容・時間		復習内容・時間		
	1	オリエンテーション 新日本語の中級14課 語彙・学習項目・ビジネス会話3-①					14課・2時間		14課・2時間		
	2	新日本語の中級14課 会話1・会話の練習・ビジネス会話3-②					14課・2時間		14課・2時間		
	3	新日本語の中級14課 会話2・会話の練習・ビジネス会話3-③					14課・2時間		14課・2時間		
	4	新日本語の中級14課 活動・ビジネス会話2-1-①					14課・2時間		14課・2時間		
	5	新日本語の中級14課 読もう・聞こう・ビジネス会話2-1-②					15課・2時間		14課・2時間		
	6	新日本語の中級15課 語彙・学習項目・ビジネス会話2-1-③					15課・2時間		15課・2時間		
	7	新日本語の中級15課 会話1・会話の練習・ビジネス会話2-1-④					15課・2時間		15課・2時間		
	8	新日本語の中級15課 会話2・会話の練習・ビジネス会話2-1-⑤					15課・2時間		15課・2時間		
	9	新日本語の中級15課 活動・ビジネス会話2-1-⑥					15課・2時間		15課・2時間		
	10	新日本語の中級15課 読もう・聞こう・ビジネス会話2-2-①					16課・2時間		15課・2時間		
	11	新日本語の中級16課 語彙・学習項目・ビジネス会話2-2-②					16課・2時間		16課・2時間		
	12	新日本語の中級16課 会話1・会話の練習・ビジネス会話3-1-①					16課・2時間		16課・2時間		
	13	新日本語の中級16課 会話2・会話の練習・活動・ビジネス会話3-1-②					16課・2時間		16課・2時間		
	14	新日本語の中級16課 読もう・聞こう・ビジネス会話3-1-③					14～16課・2時間		14～16課・2時間		
15	試験・まとめ					14～16課・2時間		14～16課・2時間			
成績評価基準	授業での語彙・文法・待遇表現などの小テスト、会話などの実技を重視して評価する。										
成績評価方法 (割合%)	筆記試験		レポート		課題		実技		授業の取組		その他()
	30								70		
教科書	「新日本語の中級 本冊」 AOTS スリーエーネットワーク出版					参考書	「就活・仕事のにほんご会話」 「BJT ビジネス日本語能力テスト聴解・聴読解実力養成問題集」				
課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法	試験のフィードバックとして、講評や解説の時間を設ける。										

科目名	検定文法 I - A Grammar for Certification Test I - A							担当者	志田 華奈子 上中 眞由美		
開講年度	2020	学年	1	開講期	前期	単位数	1	授業形態	演習	必修・選択の区分	選択
授業の到達目標	日常的な場面で使われる日本語を理解し運用できるようになる。日本語で周囲の日本人と円滑にコミュニケーションが取れるようになる。日本語で書かれた文章が読めるようになる。日本語能力試験N3に合格することができる。										
授業概要	日本語文法を「形」「意味・機能」「使い方」を学び、日本語について疑問に思っていたことを一緒に考え使えるようにします。様々な場面でよく使われる機能語と語彙を一緒に覚えます。具体的な表現から抽象的な表現まで広く勉強します。敬語表現を理解し話せるようにします。										
授業計画	授業のテーマ							予習内容・時間	復習内容・時間		
	1	授業の進め方、プレースメントテスト						語彙の意味を調べる 30分	宿題プリント 30分		
	2	ユニット1・宿題プリント FB						語彙の意味を調べる 30分	宿題プリント 30分		
	3	ユニット1・宿題プリント FB・前回の小テスト						語彙の意味を調べる 30分	宿題プリント 30分		
	4	ユニット2・宿題プリント FB・前回の小テスト						語彙の意味を調べる 30分	宿題プリント 30分		
	5	ユニット2・宿題プリント FB・前回の小テスト						語彙の意味を調べる 30分	宿題プリント 30分		
	6	ユニット3・宿題プリント FB・前回の小テスト						語彙の意味を調べる 30分	宿題プリント 30分		
	7	ユニット3・宿題プリント FB・前回の小テスト						語彙の意味を調べる 30分	宿題プリント 30分		
	8	ユニット4・宿題プリント FB・前回の小テスト						語彙の意味を調べる 30分	宿題プリント 30分		
	9	ユニット4・宿題プリント FB・前回の小テスト						語彙の意味を調べる 30分	宿題プリント 30分		
	10	日本語能力試験N3 模擬試験						語彙の意味を調べる 30分	宿題プリント 30分		
	11	ユニット5・宿題プリント FB・模擬試験 FB						語彙の意味を調べる 30分	宿題プリント 30分		
	12	ユニット5・宿題プリント FB・前回の小テスト						語彙の意味を調べる 30分	宿題プリント 30分		
	13	ユニット6・宿題プリント FB・前回の小テスト						語彙の意味を調べる 30分	宿題プリント 30分		
	14	ユニット6・宿題プリント FB・前回の小テスト						語彙の意味を調べる 30分	宿題プリント 30分		
15	期末テスト・まとめ						語彙の意味を調べる 30分	宿題プリント 30分			
成績評価基準	日本語をどの程度理解し運用できるようになったか。日本語で日本人とどの程度コミュニケーションがとれるようになったか。日本語で書かれた文章をどの程度読めるようになったか。能力試験に合格できたか。										
成績評価方法 (割合%)	筆記試験		レポート		課題		実技		授業の取組		その他(小テスト)
	40				20				20		20
教科書	耳から覚える日本語能力試験文法トレーニングN3						参考書				
課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法	授業中に解説します										

科目名	検定文法 I - B Grammar for Certification Test I - B							担当者	志田 華奈子 上中 眞由美		
開講年度	2020	学年	1	開講期	後期	単位数	1	授業形態	演習	必修・選択の区分	選択
授業の到達目標	日常的な場面で使われる日本語を理解し運用できるようになる。日本語で周囲の日本人と円滑にコミュニケーションが取れるようになる。新聞やエッセイ等の文章が読めるようになる。日本語能力試験N2に合格することができる。										
授業概要	日本語文法を「形」「意味・機能」「使い方」を学び、日本語について疑問に思っていたことを一緒に考え使えるようにします。様々な場面でよく使われる機能語と語彙を一緒に覚えます。慣用的な表現を使うようにします。敬語表現を理解し話せるようにします。										
授業計画	授業のテーマ							予習内容・時間		復習内容・時間	
	1	授業の進め方、プレースメントテスト						語彙の意味を調べる 30分		宿題プリント 30分	
	2	ユニット1・宿題プリントFB						語彙の意味を調べる 30分		宿題プリント 30分	
	3	ユニット1・宿題プリントFB・前回の小テスト						語彙の意味を調べる 30分		宿題プリント 30分	
	4	ユニット2・宿題プリントFB・前回の小テスト						語彙の意味を調べる 30分		宿題プリント 30分	
	5	ユニット2・宿題プリントFB・前回の小テスト						語彙の意味を調べる 30分		宿題プリント 30分	
	6	ユニット3・宿題プリントFB・前回の小テスト						語彙の意味を調べる 30分		宿題プリント 30分	
	7	ユニット3・宿題プリントFB・前回の小テスト						語彙の意味を調べる 30分		宿題プリント 30分	
	8	ユニット4・宿題プリントFB・前回の小テスト						語彙の意味を調べる 30分		宿題プリント 30分	
	9	ユニット4・宿題プリントFB・前回の小テスト						語彙の意味を調べる 30分		宿題プリント 30分	
	10	日本語能力試験N2 模擬試験						語彙の意味を調べる 30分		宿題プリント 30分	
	11	ユニット5・宿題プリントFB・模擬試験FB						語彙の意味を調べる 30分		宿題プリント 30分	
	12	ユニット5・宿題プリントFB・前回の小テスト						語彙の意味を調べる 30分		宿題プリント 30分	
	13	ユニット6・宿題プリントFB・前回の小テスト						語彙の意味を調べる 30分		宿題プリント 30分	
	14	ユニット6・宿題プリントFB・前回の小テスト						語彙の意味を調べる 30分		宿題プリント 30分	
15	期末テスト・まとめ						語彙の意味を調べる 30分		宿題プリント 30分		
成績評価基準	日本語をどの程度理解し運用できるようになったか。日本語で日本人とどの程度コミュニケーションがとれるようになったか。日本語で書かれた文章をどの程度読めるようになったか。能力試験に合格できたか。										
成績評価方法 (割合%)	筆記試験		レポート		課題		実技		授業の取組		その他(小テスト)
	40				20				20		20
教科書	耳から覚える日本語能力試験文法トレーニングN2						参考書				
課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法	授業中に解説します										

科目名	検定文字語彙 I - A Kanji and Vocabulary I - A							担当者	高 向 有 理 子 久保田 貴 子		
開講年度	2020	学年	1	開講期	前期	単位数	1	授業形態	演習	必修・選択の区分	基礎・選択
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・日本語能力試験N3～N2レベルの漢字を読むことができる。 ・N3～N2レベルの語彙の意味を調べ、短い文の中で使うことができる。 ・名詞・基本動詞などは、自分で調べ、不明な点を教師に質問できる。 ・日本語能力試験合格を目指し、自主的に取り組むことができる。 										
授業概要	<p>クラスをレベル別に分けN3からN2レベルの教科書に沿って授業を進めます。3000～6000語を習得するためには自宅学習が必須です。予習・復習に時間をかけ、授業では語彙の運用と確認と応用小テストの繰り返しで力をつけていきましょう。語彙力は日本語力向上の第一歩です。</p>										
授業計画	授業のテーマ				予習内容・時間			復習内容・時間			
	1	オリエンテーション、実力テスト				実力テスト準備・2時間			実力テスト復習・30分		
	2	実力テストFB、語彙(社会1)				語彙(社会1)・30分			語彙(社会1)・30分		
	3	語彙(社会2)・短文作成				語彙(社会2)・30分			語彙(社会2)・30分		
	4	小テスト、語彙(社会3)・短文作成				語彙(社会3)・30分			語彙(社会3)・30分		
	5	語彙(自然)・短文作成				語彙(自然)・30分			語彙(自然)・30分		
	6	小テスト、語彙(和語動詞)、短文作成				語彙(和語動詞)・30分			語彙(和語動詞)・30分		
	7	語彙(漢語動詞)、短文作成				語彙(漢語動詞)・30分			語彙(漢語動詞)・30分		
	8	日本語能力試験模擬試験				模試準備・1時間			模試復習・1時間		
	9	小テスト、語彙(形容詞)、短文作成				語彙(形容詞)・30分			語彙(形容詞)・30分		
	10	語彙(副詞)、短文作成				語彙(副詞)・30分			語彙(副詞)・30分		
	11	小テスト、語彙(オノマトベ)、短文作成				語彙(オノマトベ)・30分			語彙(オノマトベ)・30分		
	12	語彙(漢語)、短文作成				語彙(漢語)・30分			語彙(漢語)・30分		
	13	小テスト、語彙(言い換え類義)、短文作成				語彙(言い換え類義)・30分			語彙(言い換え類義)・30分		
	14	語彙(語形成)、短文作成				語彙(語形成)・30分			語彙(語形成)・30分		
	15	期末試験、まとめ				期末準備・2時間			全復習		
成績評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・日本語能力試験N3～N2レベルの漢字を読むことができるか。(小テスト、期末試験) ・N3～N2レベルの語彙の意味を調べ、短い文の中で使うことができるか。(小テスト、期末試験) ・名詞・基本動詞などは、自分で調べ、不明な点を教師に質問できる。(授業中に確認) ・日本語能力試験合格を目指し、自主的に取り組むことができる。(模擬試験) 										
成績評価方法(割合%)	筆記試験		レポート		課題		実技		授業の取組		その他(模試)
	30%				30%				30%		10%
教科書	新完全マスター語彙 日本語能力試験N3～N2(スリーエーネットワーク)					参考書	日本語能力試験関連問題集				
課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法	小テスト、模擬試験は翌週にフィードバックします。										

科目名	検定文字語彙 I - B Kanji and Vocabulary I - B							担当者	高 向 有 理 子 久保田 貴 子			
開講年度	2020	学年	1	開講期	後期	単位数	1	授業形態	演習	必修・選択の区分	基礎・選択	
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・日本語能力試験合格を目指し、語彙力アップの具体的な自習スケジュールを作れるようになる。 ・毎回の小テストに合格できる。 ・副詞や複合動詞やオノマトベなど難しい語彙を理解し、適切に使うことができる。 ・単語帳や例文ノートなど自分なりの学習ツールを工夫し活用することができる。 											
授業概要	<p>クラスをレベル別に分けN3からN2レベルの教科書に沿って授業を進めます。3000～6000語を習得するためには自宅学習が必須です。予習・復習に時間をかけ、授業では語彙の運用と確認と応用小テストの繰り返しで力をつけていきましょう。語彙力は日本語力向上の第一歩です。</p>											
授業計画	授業のテーマ							予習内容・時間		復習内容・時間		
	1	オリエンテーション、語彙（人間）、短文作成						語彙（人間）・30分		語彙（人間）・30分		
	2	小テスト、語彙（食生活・家事）、短文作成						語彙（食生活・家事）・30分		語彙（食生活・家事）・30分		
	3	小テスト、語彙（健康・趣味娯楽）、短文作成						語彙（健康・趣味娯楽）・30分		語彙（健康・趣味娯楽）・30分		
	4	小テスト、語彙（旅行・交通・自然）、短文作成						語彙（旅行・交通・自然）・30分		語彙（旅行・交通・自然）・30分		
	5	小テスト、語彙（学校・仕事）、短文作成						語彙（学校・仕事）・30分		語彙（学校・仕事）・30分		
	6	小テスト、語彙（報道・広告・コンピュータ）、短文作成						語彙（報道・広告・コンピュータ）・30分		語彙（報道・広告・コンピュータ）・30分		
	7	小テスト、語彙（行事・事件・事故）、短文作成						語彙（行事・事件・事故）・30分		語彙（行事・事件・事故）・30分		
	8	日本語能力試験模擬試験						模擬試験準備・1時間		模擬試験復習・1時間		
	9	模試FB、語彙（経済・産業）						語彙（経済・産業）・30分		語彙（経済・産業）・30分		
	10	小テスト、語彙（政治・法律・歴史）、短文作成						語彙（政治・法律・歴史）・30分		語彙（政治・法律・歴史）・30分		
	11	小テスト、語彙（科学・自然）、短文作成						語彙（科学・自然）・30分		語彙（科学・自然）・30分		
	12	小テスト、語彙（オノマトベ）、短文作成						語彙（オノマトベ）・30分		語彙（オノマトベ）・30分		
	13	小テスト、語彙（動詞）、短文作成						語彙（動詞）・30分		語彙（動詞）・30分		
	14	小テスト、語彙（程度）、短文作成						語彙（程度）・30分		語彙（程度）・30分		
15	期末試験、まとめ						期末試験準備		まとめ復習			
成績評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・日本語能力試験合格を目指し、語彙力アップの具体的な自習スケジュールを作れるようになったか。（授業で確認） ・毎回の小テストに合格できる。（小テスト） ・副詞や複合動詞やオノマトベなど難しい語彙を理解し、適切に使うことができる。（小テスト、期末試験） ・単語帳や例文ノートなど自分なりの学習ツールを工夫し活用することができる。（授業で確認） 											
成績評価方法（割合％）	筆記試験	レポート				課題	実技	授業の取組	その他（模擬試験）			
	30%					30%		30%	10%			
教科書	新完全マスター語彙日本語能力試験語彙N3～2（スリーエーネットワーク）						参考書	日本語能力試験関連問題集				
課題（試験、レポート等）に対するフィードバックの方法	小テスト、模擬試験は翌週にフィードバックします。											

科目名	メディアリテラシー Media Literacy						担当者	今木清志 実務家教員			
開講年度	2020	学年	1	開講期	前期	単位数	2	授業形態	講義	必修・選択の区分	選択
授業の到達目標	(1)メディアリテラシーの概念と必要性を説明できる (2)的確な情報受信の方法を説明できる (3)的確な情報発信の方法を説明できる										
授業概要	現代のメディア社会においては、メディアを上手に使いこなす役立てる能力、すなわち「メディアリテラシー」が不可欠である。 この授業では、東京のテレビ局の社員として長年、様々な分野のテレビの仕事を経験してきた教員が、プロデューサーとして多数の番組を制作してきた実務経験を活かし、実際のメディアの現場の現状や課題を踏まえて、メディアリテラシーの概念と必要性を論じ、情報の的確な受信と発信の方法について実践的に講義する。										
授業計画	授業のテーマ						予習内容・時間		復習内容・時間		
	1	ガイダンス（講義の概要） メディアリテラシーとは何か？					テレビ・新聞のニュースに目を通して見解をまとめる（2時間）		授業内容を文章にまとめる（2時間）		
	2	ネット時代の情報キャッチボール①					テレビ・新聞のニュースに目を通して見解をまとめる（2時間）		授業内容を文章にまとめる（2時間）		
	3	ネット時代の情報キャッチボール②					テレビ・新聞のニュースに目を通して見解をまとめる（2時間）		授業内容を文章にまとめる（2時間）		
	4	情報をしっかり受信するための4つの疑問① 「まだ分からないよね？」 結論を即断するな					テレビ・新聞のニュースに目を通して見解をまとめる（2時間）		授業内容を文章にまとめる（2時間）		
	5	情報をしっかり受信するための4つの疑問①<事例> ドラマ『妻よ！松本サリン事件犯人と呼ばれて』（2009年）をもとに考える(1)					テレビ・新聞のニュースに目を通して見解をまとめる（2時間）		授業内容を文章にまとめる（2時間）		
	6	情報をしっかり受信するための4つの疑問①<事例> ドラマ『妻よ！松本サリン事件犯人と呼ばれて』（2009年）をもとに考える(2)					テレビ・新聞のニュースに目を通して見解をまとめる（2時間）		授業内容を文章にまとめる（2時間）		
	7	情報をしっかり受信するための4つの疑問② 「事実か？意見・印象か？」 一緒にたにして鶏呑みにするな					テレビ・新聞のニュースに目を通して見解をまとめる（2時間）		授業内容を文章にまとめる（2時間）		
	8	情報をしっかり受信するための4つの疑問③ 「他の見え方もないか？」 一つの見方に偏るな					テレビ・新聞のニュースに目を通して見解をまとめる（2時間）		授業内容を文章にまとめる（2時間）		
	9	情報をしっかり受信するための4つの疑問④ 「隠れているものはないか？」 スポットライトの周囲を見よ					テレビ・新聞のニュースに目を通して見解をまとめる（2時間）		授業内容を文章にまとめる（2時間）		
	10	情報をしっかり発信するための4つの自問① 「何を伝えたいのか？」 明確さ					テレビ・新聞のニュースに目を通して見解をまとめる（2時間）		授業内容を文章にまとめる（2時間）		
	11	情報をしっかり発信するための4つの自問② 「決めつけていないか？」 正確さ					テレビ・新聞のニュースに目を通して見解をまとめる（2時間）		授業内容を文章にまとめる（2時間）		
	12	情報をしっかり発信するための4つの自問③ 「傷つけていないか？」 優しさ					テレビ・新聞のニュースに目を通して見解をまとめる（2時間）		授業内容を文章にまとめる（2時間）		
	13	情報をしっかり発信するための4つの自問④ 「これで伝わるか？」 易しさ					テレビ・新聞のニュースに目を通して見解をまとめる（2時間）		授業内容を文章にまとめる（2時間）		
	14	情報のキャッチボールが社会をつなぐ					テレビ・新聞のニュースに目を通して見解をまとめる（2時間）		授業内容を文章にまとめる（2時間）		
	15	総括 メディアリテラシーとは何か					これまでの授業内容について見解をまとめる（2時間）		これまでの授業内容をまとめる（2時間）		
成績評価基準	(1)メディアリテラシーの概念と必要性について正確に説明できているか評価する (2)的確な情報受信の方法について正確に説明できているか評価する (3)的確な情報発信の方法について正確に説明できているか評価する										
成績評価方法（割合％）	筆記試験	レポート	課題	実技	授業の取組	その他(リアクションペーパー)					
	30%				30%	40%					
教科書	「10代からの情報キャッチボール入門―使えるメディア・リテラシー」 下村健一著 岩波書店					参考書	適宜紹介する				
課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法	講評や解説の時間を設ける										

科目名	法の適用							Law and Society		担当者	井上しづ恵 実務家教員			
	開講年度	2020	学年	1	開講期	後期	単位数	2	授業形態		講義	必修・選択の区分	選択	
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・社会における具体的な紛争を的確に把握し、具体的に妥当な解決方法を見出ことができる新たな視点をもつ。 ・法律に関連する問題について、論理的に自分の考えを述べることができる。 													
授業概要	<p>日常生活において起こり得る諸問題を事例とし、問題について分析し、その解決方法を探る。自分たちの意見をまとめて発表した後、法令に基づいた考え方について理解する。さらに、類似ケースについて、グループで話し合い、論理的に説明するという方法を基本とする。</p> <p>法律で使う語彙・文法についても、授業に必要な範囲で学ぶ。</p>													
授業計画	授業のテーマ							予習内容・時間		復習内容・時間				
	1	法とは何か 法的思考とは 問題解決のルールなど									レポート作成 (4時間)			
	2	民法②									レポート作成 (4時間)			
	3	民法②									レポート作成 (4時間)			
	4	刑法									レポート作成 (4時間)			
	5	労働法									レポート作成 (4時間)			
	6	民法③									レポート作成 (4時間)			
	7	民法④									レポート作成 (4時間)			
	8	法の適用に関する通則法									レポート作成 (4時間)			
	9	国籍法									レポート作成 (4時間)			
	10	入管法、会社法									レポート作成 (4時間)			
	11	憲法									レポート作成 (4時間)			
	12	不法行為									レポート作成 (4時間)			
	13	不法行為									レポート作成 (4時間)			
	14	裁判について									レポート作成 (4時間)			
	15	総括									レポート作成 (4時間)			
成績評価基準	<p>◇レポート：与えられたテーマでレポートを書く。テーマに沿った内容か、自分の意見等が根拠とともに述べられているかで評価する。 テーマは13回目の講義以降に掲示する。</p> <p>◇課題：講義後、レポートの提出を課題とする。レポートは①講義の内容のまとめ②気づきを記することとし、その内容で評価する。</p> <p>◇授業の取組：ペアワーク・グループワークに能動的に参加し、自分の役割を果たし、仲間と協力できているか。</p>													
成績評価方法 (割合%)	筆記試験			レポート			課題			実技		授業の取組		その他 ()
				30			40					30		
教科書	使用しない 授業は、すべて作成教材を使用するので、教材は各自が整理し、ファイリングすること。							参考書		適宜紹介する				
課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法	課題として提出されたレポートを添削して返却する。													

科目名	テレビドラマ映像論 TV Drama theory						担当者	今木清志 実務家教員			
開講年度	2020	学年	1	開講期	後期	単位数	2	授業形態	講義	必修・選択の区分	選択
授業の到達目標	(1)日本のテレビドラマのジャンルごとの変遷について説明できる (2)日本のテレビドラマの表現技法について、制作された時代と関連づけて説明できる (3)テレビドラマの放つメッセージを読み解くことができる										
授業概要	テレビドラマは時代とともに、ジャンルごとに独自の变遷と進化を果たしている。この授業では、東京のテレビ局の社員として長年、様々な分野のテレビの仕事を経験してきた教員が、プロデューサーとして多数のドラマを制作してきた実務経験を活かし、実際のドラマ制作の現場の状況を踏まえながら、様々な時代のテレビドラマの映像を用いて、ジャンルごとの表現技法の変遷と、制作された時代との関連について分析し、日本のテレビドラマの潮流を概観する。										
授業計画	授業のテーマ						予習内容・時間		復習内容・時間		
	1	ガイダンス（講義の概要） 日本のテレビドラマのジャンルごとの変遷について					周辺作品や放送中のドラマを積極的に視聴する（2時間）		授業内容を文章にまとめる（2時間）		
	2	テレビドラマ創成期論 初期テレビドラマの金字塔『私は貝になりたい』（1958年）の意義①					周辺作品や放送中のドラマを積極的に視聴する（2時間）		授業内容を文章にまとめる（2時間）		
	3	テレビドラマ創成期論 初期テレビドラマの金字塔『私は貝になりたい』（1958年）の意義②					周辺作品や放送中のドラマを積極的に視聴する（2時間）		授業内容を文章にまとめる（2時間）		
	4	ジャンル別テレビドラマ比較論 恋愛ドラマ① 『抱きしめたい！』（1988年） トレンディドラマの興隆					周辺作品や放送中のドラマを積極的に視聴する（2時間）		授業内容を文章にまとめる（2時間）		
	5	ジャンル別テレビドラマ比較論 恋愛ドラマ② 『101回目のプロポーズ』（1991年） ポスト・トレンディの純愛ドラマ					周辺作品や放送中のドラマを積極的に視聴する（2時間）		授業内容を文章にまとめる（2時間）		
	6	ジャンル別テレビドラマ比較論 恋愛ドラマ③ 『逃げるは恥だが役に立つ』（2016年） 恋愛ドラマの現在形					周辺作品や放送中のドラマを積極的に視聴する（2時間）		授業内容を文章にまとめる（2時間）		
	7	ジャンル別テレビドラマ比較論 ホームドラマ① 『寺内貫太郎一家』（1974年） 古き良き昭和の大家族像					周辺作品や放送中のドラマを積極的に視聴する（2時間）		授業内容を文章にまとめる（2時間）		
	8	ジャンル別テレビドラマ比較論 ホームドラマ② 『岸辺のアルバム』（1977年） 家族の解体、そして再生					周辺作品や放送中のドラマを積極的に視聴する（2時間）		授業内容を文章にまとめる（2時間）		
	9	ジャンル別テレビドラマ比較論 ホームドラマ③ 『義母と娘のブルース』（2018年） 多様化する21世紀の大家族像					周辺作品や放送中のドラマを積極的に視聴する（2時間）		授業内容を文章にまとめる（2時間）		
	10	ジャンル別テレビドラマ比較論 警察ドラマ① 『太陽にほえろ！』（1972年～1986年） 初期刑事ドラマの発展					周辺作品や放送中のドラマを積極的に視聴する（2時間）		授業内容を文章にまとめる（2時間）		
	11	ジャンル別テレビドラマ比較論 警察ドラマ② 『踊る大捜査線』（1997年） 刑事ドラマの変革					周辺作品や放送中のドラマを積極的に視聴する（2時間）		授業内容を文章にまとめる（2時間）		
	12	ジャンル別テレビドラマ比較論 警察ドラマ③ 『相棒』（2002年～） 現代における警察ドラマ全盛の理由					周辺作品や放送中のドラマを積極的に視聴する（2時間）		授業内容を文章にまとめる（2時間）		
	13	ジャンル別テレビドラマ比較論 医療ドラマ① 『白い巨塔』（1978年） 男たちの権力闘争					周辺作品や放送中のドラマを積極的に視聴する（2時間）		授業内容を文章にまとめる（2時間）		
	14	ジャンル別テレビドラマ比較論 医療ドラマ② 『ドクターX』（2012年～） 孤高の女性の活躍					周辺作品や放送中のドラマを積極的に視聴する（2時間）		授業内容を文章にまとめる（2時間）		
	15	総括 日本のテレビドラマの潮流					これまでの授業内容について見解をまとめる（2時間）		これまでの授業内容をまとめる（2時間）		
成績評価基準	(1)日本のテレビドラマのジャンルごとの変遷について正確に説明できているか評価する (2)日本のテレビドラマの表現技法について、制作された時代と関連づけて正確に説明できているか評価する (3)テレビドラマの放つメッセージを正確に読み解くことができているか評価する										
成績評価方法（割合％）	筆記試験		レポート		課題		実技		授業の取組		その他(リアクションバー)
	30%								30%		40%
教科書	使用しない					参考書		適宜紹介する			
課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法	講評や解説の時間を設ける										

科目名	トータルコーディネート論 total coordinates theory							担当者	川野 聡子 実務家教員			
開講年度	2020	学年	1年	開講期	前期	単位数	2	授業形態	講義	必修・選択の区分	選択	
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・身だしなみを整えることができる ・TPOに合ったコーディネートができるようになる ・ヘアメイクを含め、おしゃれでバランスの良いコーディネートができるようになる 											
授業概要	<p>プロモデルレッスンコーチがモデルの経験を生かし、コーディネートについて学びます。 毎回テーマを変え、生徒がそのテーマに合わせた洋服を自身でコーディネートし、サイズ感や色合わせ、選び方、ヘアメイクについて、解説をしながら各生徒へアドバイスをします。</p>											
授業計画	授業のテーマ							予習内容・時間	復習内容・時間			
	1	自分を知る、目標設定					どんな自分になりたいかを考える (2時間)	目標を具体的に設定する (2時間)				
	2	身だしなみについて					自分を見つめる (2時間)	洋服のお手入れ (2時間)				
	3	服の種類について					クローゼットの整理 (2時間)	クローゼットの整理 (2時間)				
	4	コーディネート①カジュアル					コーディネートを考える (2時間)	洋服の整理やお手入れ (2時間)				
	5	トータルコーディネート①カジュアル					コーディネートを考える (2時間)	洋服の整理やお手入れ (2時間)				
	6	コーディネート②フェミニン					コーディネートを考える (2時間)	洋服の整理やお手入れ (2時間)				
	7	トータルコーディネート②フェミニン					コーディネートを考える (2時間)	洋服の整理やお手入れ (2時間)				
	8	トータルコーディネート③クール					コーディネートを考える (2時間)	洋服の整理やお手入れ (2時間)				
	9	トータルコーディネート④ストリート					コーディネートを考える (2時間)	洋服の整理やお手入れ (2時間)				
	10	トータルコーディネート⑤リゾート					コーディネートを考える (2時間)	洋服の整理やお手入れ (2時間)				
	11	トータルコーディネート⑥ガーリー					コーディネートを考える (2時間)	洋服の整理やお手入れ (2時間)				
	12	好きなスタイルをトータルコーディネートで					コーディネートを考える (2時間)	洋服の整理やお手入れ (2時間)				
	13	マナー①					コーディネートを考える (2時間)	学んだ事の実践 (2時間)				
	14	マナー②					コーディネートを考える (2時間)	学んだ事の実践 (2時間)				
15	まとめ					コーディネートを考える (2時間)	学んだ事の実践 (2時間)					
成績評価基準	実技試験の結果により評価する											
成績評価方法 (割合%)	筆記試験	レポート	課題	実技	授業の取組	その他 ()						
				70	30							
教科書	使用しない					参考書	ファッション雑誌など					
課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法	試験のフィードバックとして、講評や解説の時間を設ける。											

科目名	エスニシティ研究 (ヨーロッパ) European Ethnicity							担当者	富永真子 実務家教員				
開講年度	2020	学年	1年	開講期	後期	単位数	2単位	授業形態	講義	必修・選択の区分	選択		
授業の到達目標	否応なく進む世界経済のグローバル化の中、ITの発達がさらにそれ加速させています。言語の違いのみならず、それぞれの国情が違う世界を知ることによって国際人としての知識や態度を身につけることを目標とします。ここでは、これまで世界を牽引し、現在も大きな影響力を持つヨーロッパの国々の広く文化や国民性を学びます。												
授業概要	教科書は使いません。毎回のテーマに沿った様々なエピソードを交え興味を持つことでヨーロッパの国々を身近に感じることができるよう進めていきます。また、テーマ毎の課題を発表し、自国との違いなど等を討議しつつ理解を深めていく。												
授業計画	授業のテーマ							予習内容・時間		復習内容・時間			
	1	コースの目標と内容の説明 (エスニシティとは)					「エスニシティ」の定義を調べておく (2時間)		講義中で知った知識をまとめる (2時間)				
	2	①世界の中のヨーロッパ、地理と国々					ヨーロッパの白地図をノートに書いてくる (2時間)		各国の位置、主要都市を覚える (2時間)				
	3	・続き (レポート発表+グループ討議)					主要国1つを選びレポートを書いてくる (2時間)		レポート発表された国について学んだ事を整理しまとめる (2時間)				
	4	②意外と知らないヨーロッパの小さな国々					小国を7つ探し、面積を調べてくる。(2時間)		小国の位置を覚え、講義中で知った知識をまとめる (2時間)				
	5	・続き (レポート発表+グループ討議)					小国を1つ選びレポートを書いてくる (2時間)		レポート発表された国について学んだ事を整理しまとめる (2時間)				
	6	③ EUについて					EUとは何か? 調べておく (2時間)		講義中で知った知識をまとめる (2時間)				
	7	・続き (レポート発表+グループ討議)					EUについてのレポート発表の準備 (2時間)		レポート発表で学んだ事を整理しまとめる (2時間)				
	8	④国や地域ごとの性格 (ステレオタイプ)					「ステレオタイプ」の定義を調べておく (2時間)		講義中で知った知識をまとめる (2時間)				
	9	・続き (レポート発表+グループ討議)					国を一つ選びその国民性についてのレポート発表の準備 (2時間)		レポート発表で学んだ事を整理しまとめる (2時間)				
	10	⑤食文化					ヨーロッパの国々の代表的な食を調べる (2時間)		講義中で知った知識をまとめる (2時間)				
	11	・続き (レポート発表+グループ討議)					国を一つ選び代表的な料理のレポート発表の準備 (2時間)		レポート発表で学んだ事を整理しまとめる (2時間)				
	12	⑥世界中で知られているヨーロッパの国々のあれこれ (豆知識)					興味深いエピソードなどを調べておく (2時間)		講義中で知った知識をまとめる (2時間)				
	13	・続き (レポート発表+グループ討議)					レポート発表の準備 (2時間)		レポート発表で学んだ事を整理しまとめる (2時間)				
	14	⑦英語でひとこと					①から⑥で学んだ内容を一言「I know OO」と言えるよう (2時間)		講義中で知った知識をまとめる (2時間)				
15	総括、筆記テスト					総復習 (4時間)							
成績評価基準	期末テスト (筆記50%) 平常点 (50%) ※レポート発表30%、レポート+課題 (ノート提出20%)												
成績評価方法 (割合%)	筆記試験			レポート			課題			実技		授業の取組	その他 ()
	50%			10%			10%			30%			
教科書	使用しない 必要に応じてプリント配布					参考書		「ヨーロッパ46ヶ国の国民性」PHP 文集					
課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法	レポート発表の際は、「誰の話が一番印象に残ったか? 興味深かったか?」を基準に皆で評価します。												

科目名	ホテル概論 an outline of the modern hotel industry						担当者	中牟田登喜枝 実務家教員			
開講年度	2020	学年	1	開講期	後期	単位数	2	授業形態	講義	必修・選択の区分	選択
授業の到達目標	ホテルビジネスの基本構造を学び、各部門の業務特性と、その流れを説明できるようになる										
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ホテルビジネスの基本を踏まえ、基礎的な知識を習得できるようにまとめ、実技を通して身につけられるようにする ・ホテルのコンシェルジュとしての実務経験をもつ担当教員がその経験を活かし、現実のゲストが求めているサービスについて学生とともに考える 										
授業計画	授業のテーマ							予習内容・時間		復習内容・時間	
	1	ホテルの定義					ホテル業界の現代の動向をネットなどで調べる(2時間)		授業内容をネットなどで検索、復習(2時間)		
	2	ホテルの種類					ホテル業界の現代の動向をネットなどで調べる(2時間)		授業内容をネットなどで検索、復習(2時間)		
	3	ホテル業務の流れ					ホテル業務の流れををネットなどで調べる(2時間)		授業内容をネットなどで検索、復習(2時間)		
	4	ホテル宿泊部門別機能と業務の基本-フロントサービス					フロントサービスをネットなどで調べる(2時間)		授業内容をネットなどで検索、復習(2時間)		
	5	ホテル宿泊部門別機能と業務の基本-ドアマン					ドアマン業務をネットなどで調べる(2時間)		授業内容をネットなどで検索、復習(2時間)		
	6	ホテル宿泊部門別機能と業務の基本-ベルパーソン					ベルパーソン業務をネットなどで調べる(2時間)		授業内容をネットなどで検索、復習(2時間)		
	7	ホテル宿泊部門別機能と業務の基本-ベルパーソン					ベルパーソン業務をネットなどで調べる(2時間)		授業内容をネットなどで検索、復習(2時間)		
	8	ホテル宿泊部門別機能と業務の基本-クローク					ホテルクローク業務をネットなどで調べる(2時間)		授業内容をネットなどで検索、復習(2時間)		
	9	ホテル宿泊部門別機能と業務の基本-ハウスキーピング					ハウスキーパー業務をネットなどで調べる(2時間)		授業内容をネットなどで検索、復習(2時間)		
	10	ホテル宿泊部門別機能と業務の基本-コンシェルジュ					コンシェルジュ業務をネットなどで調べる(2時間)		授業内容をネットなどで検索、復習(2時間)		
	11	ホテル宿泊部門別機能と業務の基本-インフォメーション					ホテルのインフォメーションの種類を調べる(2時間)		授業内容をネットなどで検索、復習(2時間)		
	12	ホテル宿泊部門別機能と業務の基本-客室基本情報					客室種類や料金をネットなどで調べる(2時間)		授業内容をネットなどで検索、復習(2時間)		
	13	ホテル料飲部門別機能と業務の基本-レストランの種類と業務特性					ホテルのレストラン業務の現代の動向をネットなどで調べる(2時間)		授業内容をネットなどで検索、復習(2時間)		
	14	ホテル料飲部門別機能と業務の基本-レストランの種類と業務特性					ホテルのレストラン業務の現代の動向をネットなどで調べる(2時間)		授業内容をネットなどで検索、復習(2時間)		
	15	総括、まとめ、試験					後期の授業内容をプリントを使い、復習(2時間)				
成績評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・最終講義日にまとめの試験(50%)、毎回の授業プリント提出(50%) ・授業への参加態度(悪い場合は5点減点) 										
成績評価方法(割合%)	筆記試験		レポート		課題		実技		授業の取組		その他()
	50%				50%						
教科書	配布プリント					参考書		現代ホテル産業概論、宿泊業務の基礎(日本ホテルスクール発行)			
課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法	課題返却後、解説し、学生それぞれの意見を共有する										

科目名	観光入門 Introduction of Tourism							担当者	挽田雅子 実務家教員		
開講年度	2020	学年	1年	開講期	前期	単位数	2	授業形態	講義	必修・選択の区分	専門
授業の到達目標	観光の現代的意義を説明できる。 日本の観光対象・観光資源について詳しく説明できる。 観光が内包する課題に関して自分の考えを表現できる。										
授業概要	観光は、地域の活性化や雇用をもたらす21世紀のリーディング産業の一つであり、現代人の生活になくなくてはならないものである。 本講義では、観光の基本的な概念について学ぶ。また、日本の観光資源については、教員が旅行業の実務経験を通して身につけた知識を伝えることで、旅の感動を共有しながら、自然、歴史的建造物、文化などについて理解を深める。										
授業計画	授業のテーマ				予習内容・時間			復習内容・時間			
	1	観光の意味と意義			観光に関連する用語を調べる(2時間)			観光の意義について整理する(2時間)			
	2	インバウンド(訪日外国人旅行)			世界の観光統計を調べる(2時間)			インバウンドツアーのプラン作成(2時間)			
	3	現代観光の構成要素			観光が人間にもたらす効果を考える(2時間)			観光媒介について整理する(2時間)			
	4	観光資源と観光対象			自分の身の回りの観光資源を考える(2時間)			観光対象の特徴を整理する(2時間)			
	5	日本の観光資源(九州)			九州の県について名称・位置を調べる(2時間)			九州の観光資源の整理(2時間)			
	6	日本の観光資源(中国・四国)			中国・四国の県について名称・位置を調べる(2時間)			中国四国の観光資源の整理(2時間)			
	7	日本の観光資源(関西)			関西の府・県について名称・位置を調べる(2時間)			関西の観光資源の整理(2時間)			
	8	日本の観光資源(東日本)			東日本の都・道・県について名称・位置を調べる(2時間)			東日本の観光資源の整理(2時間)			
	9	さまざまなツーリズム			サステナブルツーリズムの考え方を調べる(2時間)			新しい観光の例を整理する(2時間)			
	10	観光振興 開発と保護			観光まちづくりとは何か考える(2時間)			観光地の成立条件の整理(2時間)			
	11	観光と旅行業			消費者にとっての旅行会社利用の意義を考える(2時間)			旅行会社の機能を整理する(2時間)			
	12	観光と宿泊 観光と交通			交通の発達が旅行者にもたらす影響を考える(2時間)			ホテルと旅館の違いを整理する(2時間)			
	13	観光と情報			観光者が求める観光情報を考える(2時間)			情報を発信する方法の整理(2時間)			
	14	観光の歴史			旅行が大衆化した原因を考える(2時間)			旅の歴史を整理する(2時間)			
	15	観光事業の人材			ホスピタリティーとは何か調べる(2時間)			ホスピタリティーに接した経験の共有(2時間)			
成績評価基準	観光関連の用語を説明することができる。 インバウンドの実情について述べるすることができる。 日本の観光資源について、説明することができる。 観光業界で求められる人材として実践すべきことを述べるすることができる。 観光が内包する課題に関して自分の考えを表現できる。										
成績評価方法(割合%)	筆記試験		レポート		課題		実技		授業の取組		その他()
	70%		10%		10%				10%		
教科書	教科書は使用しない。 プリントを配布する。					参考書	適宜紹介します。				
課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法	レポート・課題は2週間以内にコメントを付けて返却する。										

科目名	異文化コミュニケーション論 I Intercultural Communication I						担当者	黒瀬 菜々			
開講年度	2020	学年	1	開講期	前期	単位数	2	授業形態	講義	必修・選択の区分	選択
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 普段の生活では気づいていない「文化」を意識化し、相対的に観察できるようになる。 2. 異文化コミュニケーションに関する基本的知識を得て、実生活と関連付けられるようにする。 3. 自文化の伝統や習慣、特徴などを他文化に属する他者に説明できるようにする。 4. コミュニケーションが果たす役割について理解し、実生活において適用できるようにする。 										
授業概要	日本はもとより世界各国で出自や文化背景の異なる人々との交流が活発になっています。文化交流だけではなく、同僚として、友人や隣人として共生していくために、今までは意識していなかった「文化」や「コミュニケーション」に目を向け、客観的な視点で物事を理解し、表現していく力が必要です。この授業では、意識していない「文化」を考える「ものさし」としての知識を得るとともに、授業内においても異文化コミュニケーションを実践する場として、異なる文化を持つ人々と活発に議論していきます。										
授業計画	授業のテーマ						予習内容・時間		復習内容・時間		
	1	オリエンテーション／「文化」とは何か①					シラバス熟読・理解 (1時間)		実生活での具体例を 観察・発見(1時間)		
	2	「文化」とは何か②／コミュニケーションとは何か					発表準備・配布資料 熟読(3時間)		実生活での具体例を 観察・発見(1時間)		
	3	非言語コミュニケーション①					発表準備・配布資料 熟読(3時間)		実生活での具体例を 観察・発見(1時間)		
	4	非言語コミュニケーション②					発表準備・配布資料 熟読(3時間)		実生活での具体例を 観察・発見(1時間)		
	5	個人主義と集団主義					発表準備・配布資料 熟読(3時間)		実生活での具体例を 観察・発見(1時間)		
	6	権力格差・不確実性回避傾向					発表準備・配布資料 熟読(3時間)		実生活での具体例を 観察・発見(1時間)		
	7	コンテクストと文化					発表準備・配布資料 熟読(3時間)		実生活での具体例を 観察・発見(1時間)		
	8	自己開示と文化					発表準備・配布資料 熟読(3時間)		実生活での具体例を 観察・発見(1時間)		
	9	言語コミュニケーション①					発表準備・配布資料 熟読(3時間)		実生活での具体例を 観察・発見(1時間)		
	10	言語コミュニケーション②					発表準備・配布資料 熟読(3時間)		実生活での具体例を 観察・発見(1時間)		
	11	異文化適応とカルチャーショック					発表準備・配布資料 熟読(3時間)		実生活での具体例を 観察・発見(1時間)		
	12	ステレオタイプと差別					発表準備・配布資料 熟読(3時間)		実生活での具体例を 観察・発見(1時間)		
	13	異文化間コンフリクト・マネジメント					発表準備・配布資料 熟読(3時間)		実生活での具体例を 観察・発見(1時間)		
	14	異文化コミュニケーション・トレーニング					発表準備・配布資料 熟読(3時間)		実生活での具体例を 観察・発見(1時間)		
	15	期末試験と総括					授業内容を整理し、理 解しておく(4時間)		解説を読み復習(2 時間)		
成績評価基準	<ol style="list-style-type: none"> 1. 毎回配布する課題プリントに、各回における自分自身の意見や新しい発見等を記入し提出すること 2. 授業で得た知識を、実生活の中で関連付けられるか具体例を示して説明できていること 3. 授業内でのグループワーク、発表等で自らの文化や価値観について積極的に説明しようと努力していること 4. 授業内の発言や課題プリントにおいて、身の回りのコミュニケーションについて具体的な例を挙げて授業に積極的に参加すること 										
成績評価方法 (割合%)	筆記試験		レポート		課題		実技		授業の取組		その他()
	40%				30%				30%		
教科書	適宜プリントを配布する					参考書	・「異文化トレーニング―ボーダレス社会を 生きる」八代京子他著(三修社) ・「異文化理解入門」原沢伊都夫著(研究社)				
課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法	試験後、解説プリントを配布しフィードバック										

科目名	言語コミュニケーション論 I Verbal Communication I						担当者	黒瀬 菜々			
開講年度	2020	学年	1	開講期	前期	単位数	2	授業形態	講義	必修・選択の区分	選択
授業の到達目標	1. 自らの意見や物事に関する説明を、言葉で分かりやすく表して伝えることができる。 2. 相手の話を聞く態度を養い、積極的に意見交換に参加する。 3. 時事問題や国際情勢など、情報を正しく得ることができる。										
授業概要	この科目は留学生向けの内容です。社会に出るにあたって、社会で起きている出来事を客観的に理解し、自らの意見を述べられる力が必要です。この授業では初めに各回数人ずつニュースの概要や意見を発表し、それに関する意見交換を行います。そして語彙や表現を増やす習慣づけのため、毎回ノートに語彙を記録しておくという課題があります。ニュースやCM映像など多様な日本語メディアに触れつつ日本語表現を身につけていくこと、時事問題などについて自分で考える習慣を身につけることを目指します。										
授業計画	授業のテーマ						予習内容・時間		復習内容・時間		
	1	オリエンテーション／授業内容と課題について							時事問題を調べる／表現の復習(2時間)		
	2	日本語の発音について					発表準備／新しい言葉を調べて記録する(2時間)		時事問題を調べる／表現の復習(2時間)		
	3	日本語表現を増やす①(翻訳)					発表準備／新しい言葉を調べて記録する(2時間)		時事問題を調べる／表現の復習(2時間)		
	4	日本語表現を増やす②(翻訳)					発表準備／新しい言葉を調べて記録する(2時間)		時事問題を調べる／表現の復習(2時間)		
	5	日本語表現を増やす③(翻訳)					発表準備／新しい言葉を調べて記録する(2時間)		時事問題を調べる／表現の復習(2時間)		
	6	日本語表現を増やす④(翻訳)					発表準備／新しい言葉を調べて記録する(2時間)		時事問題を調べる／表現の復習(2時間)		
	7	ニュース記事の要約と記述①					発表準備／新しい言葉を調べて記録する(2時間)		時事問題を調べる／表現の復習(2時間)		
	8	ニュース記事の要約と記述②					発表準備／新しい言葉を調べて記録する(2時間)		時事問題を調べる／表現の復習(2時間)		
	9	ニュース記事の要約と記述③					発表準備／新しい言葉を調べて記録する(2時間)		時事問題を調べる／表現の復習(2時間)		
	10	ニュース記事の要約と記述④					発表準備／新しい言葉を調べて記録する(2時間)		時事問題を調べる／表現の復習(2時間)		
	11	映像から言葉へ①(ストーリーを記述する)					発表準備／新しい言葉を調べて記録する(2時間)		時事問題を調べる／表現の復習(2時間)		
	12	映像から言葉へ②(ストーリーを記述する)					発表準備／新しい言葉を調べて記録する(2時間)		時事問題を調べる／表現の復習(2時間)		
	13	映像から言葉へ③(ストーリーを記述する)					発表準備／新しい言葉を調べて記録する(2時間)		時事問題を調べる／表現の復習(2時間)		
	14	映像から言葉へ④(ストーリーを記述する)					発表準備／新しい言葉を調べて記録する(2時間)		時事問題を調べる／表現の復習(2時間)		
	15	まとめと期末試験					試験のための課題に取り組む(4時間)		時事問題を調べる／表現の復習(2時間)		
成績評価基準	1. 各回に行うニュースの発表において、きちんと準備し練習して臨むこと、また各回の課題に自らの言葉で具体的に答えること。 2. 意見交換や発表時に、質問や意見を積極的に述べること。 3. 信頼できる情報元がどのようなものかを考え、発表時には注意して情報を得ること。										
成績評価方法(割合%)	筆記試験		レポート		課題		実技		授業の取組		その他()
	30%				30%				40%		
教科書	適宜プリントを配布する						参考書	『シャドーイング日本語を話そう就職・アルバイト・進学面接編』 斎藤仁志他著(くろしお出版)			
課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法											

科目名	言語コミュニケーション論Ⅱ Verbal Communication II							担当者	黒瀬 菜々					
開講年度	2020	学年	1	開講期	後期	単位数	2	授業形態	講義	必修・選択の区分		選択		
授業の到達目標	1. 自らの意見や物事に関する説明を、言葉で分かりやすく表して伝えることができる。 2. 敬語を使った表現に慣れ、場面に合わせて使用できるようにする。 3. メールや文章作成などの基本的なルールを身につけて実践する。													
授業概要	この科目は留学生向けの内容です。敬語表現や日常的な日本語の語彙を増やすこと、メールや文章作成にあたって必要な知識を得ることは、日本社会で働くにあたって重要です。また、日常生活でトラブルが起きたとき、適切に対処するにはどのような表現がよいか考えます。この授業では初めに各回数人ずつスピーチを行い、それに関する意見交換を行います。そして語彙や表現を増やす習慣づけのため、毎回ノートに語彙を記録しておくという課題があります。													
授業計画	授業のテーマ							予習内容・時間	復習内容・時間					
	1	オリエンテーション／授業内容と課題について								時事問題を調べる／表現の復習(2時間)				
	2	日本語の発音について							発表準備／新しい言葉を調べて記録する(2時間)	時事問題を調べる／表現の復習(2時間)				
	3	敬語／ケース・スタディ① 人間関係のトラブル							発表準備／新しい言葉を調べて記録する(2時間)	時事問題を調べる／表現の復習(2時間)				
	4	敬語／ケース・スタディ② 事故・病気などのトラブル							発表準備／新しい言葉を調べて記録する(2時間)	時事問題を調べる／表現の復習(2時間)				
	5	敬語／ケース・スタディ③ 会社でのトラブル							発表準備／新しい言葉を調べて記録する(2時間)	時事問題を調べる／表現の復習(2時間)				
	6	敬語／ケース・スタディ④ 店でのトラブル							発表準備／新しい言葉を調べて記録する(2時間)	時事問題を調べる／表現の復習(2時間)				
	7	敬語／ニュースと伝わる意見の述べ方①							発表準備／新しい言葉を調べて記録する(2時間)	時事問題を調べる／表現の復習(2時間)				
	8	敬語／ニュースと伝わる意見の述べ方②							発表準備／新しい言葉を調べて記録する(2時間)	時事問題を調べる／表現の復習(2時間)				
	9	敬語／ニュースと伝わる意見の述べ方③							発表準備／新しい言葉を調べて記録する(2時間)	時事問題を調べる／表現の復習(2時間)				
	10	敬語／ニュースと伝わる意見の述べ方④							発表準備／新しい言葉を調べて記録する(2時間)	時事問題を調べる／表現の復習(2時間)				
	11	日本語メールと文章作成① 基本的なメールマナー							発表準備／新しい言葉を調べて記録する(2時間)	時事問題を調べる／表現の復習(2時間)				
	12	日本語メールと文章作成② メール作成							発表準備／新しい言葉を調べて記録する(2時間)	時事問題を調べる／表現の復習(2時間)				
	13	日本語メールと文章作成③ 書類作成							発表準備／新しい言葉を調べて記録する(2時間)	時事問題を調べる／表現の復習(2時間)				
	14	日本語メールと文章作成④ 添付メール、その他							発表準備／新しい言葉を調べて記録する(2時間)	時事問題を調べる／表現の復習(2時間)				
	15	まとめと期末試験							試験のための課題に取り組む(4時間)	時事問題を調べる／表現の復習(2時間)				
成績評価基準	1. 各回に行うスピーチにおいて、きちんと準備し練習して臨むこと、また各回の課題に自らの言葉で具体的に答えること。 2. 各回の提出プリントや試験において、場面や人物に応じて適切な敬語表現を使用できること。 3. 各回の提出プリントや試験において、学んだルールに即したメールが作成できること。													
成績評価方法(割合%)	筆記試験			レポート			課題		実技		授業の取組		その他()	
	30%						30%				40%			
教科書	適宜プリントを配布する							参考書	『留学生のためのケースで学ぶ日本語：問題発見解決能力を伸ばす』江後千香子他著(コ出版)					
課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法														

科目名	総合演習 I						General Practioce I			担当者	今木 清志 宮谷未知子 黒瀬 菜々 実務家教員		
開講年度	2020	学年	2	開講期	前期	単位数	1	授業形態	演習	必修・選択の区分	必修	必修	
授業の到達目標	本演習の目的は、第一に2年間のキャンパスライフを楽しく有意義に送るために必要とされる基本的な知識や教養、マナーの習得であり、第二にメディア業界で活躍するために必要とされるインターネットライブ配信サービス「SHOWROOM」での配信に習熟する事である。												
授業概要	本学科は、対外イベントの開催、TV局やラジオ番組からの取材依頼、芸能事務所からの問い合わせが多いので、それらに学科全体として対応しつつ、イベント準備・メディアからの情報の周知を行う。それ以外に学校全体のテーマ、たとえば進路指導、保健室からの伝達、就職模擬テストなどにも対応する。												
授業計画	授業のテーマ						予習内容・時間			復習内容・時間			
	1	情況説明 1					学内の年間行事、制度等を確認すること (30分)			説明を受けた内容をメモし、見直す (30分)			
	2	情況説明 2					ライブ配信内容の企画案作成 (30分)			説明を受けた内容をメモし、見直す (30分)			
	3	「SHOWROOM」学科配信								配信の反省点をレポートにまとめる (30分)			
	4												
	5												
	6												
	7												
	8												
	9												
	10												
	11	就職模擬試験 (第一スタジオ)					一般的なSPIの自主学習を行う (30分)			模擬試験の自己採点を行う (30分)			
	12	「SHOWROOM」学科配信					ライブ配信内容の企画案作成 (30分)			配信の反省点をレポートにまとめる (30分)			
	13	「SHOWROOM」学科配信					ライブ配信内容の企画案作成 (30分)			配信の反省点をレポートにまとめる (30分)			
	14	夏のオープンキャンパス準備 1					オープンキャンパスで行う企画案の作成 (30分)			準備の進行状況の確認 (30分)			
15	夏のオープンキャンパス準備 2					オープンキャンパスで行う企画案の作成 (30分)			準備の進行状況の確認 (30分)				
成績評価基準	「SHOWROOM」は、3つのグループを形成して配信し、各グループに配信内容の企画案および反省点のレポートを提出させる。その内容および配信への取り組みを評価する。												
成績評価方法 (割合%)	筆記試験		レポート		課題		実技		授業の取組		その他 ()		
			40						60				
教科書	なし					参考書	「街場のメディア論」 著書：内田樹						
課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法	企画案および反省点のレポートに対し、講評の時間を設ける。												

科目名	総合演習Ⅱ							General Practioce Ⅱ		担当者	今木 清志 宮谷未知子 黒瀬 菜々 実務家教員		
開講年度	2020	学年	2	開講期	後期	単位数	1	授業形態	演習	必修・選択の区分	必修		
授業の到達目標	本演習の目的は、第一に2年間のキャンパスライフを楽しく有意義に送るために必要とされる基本的な知識や教養、マナーの習得であり、第二にメディア業界で活躍するために必要とされるインターネットライブ配信サービス「SHOWROOM」での配信に習熟する事である。												
授業概要	本学科は、対外イベントの開催、TV局やラジオ番組からの取材依頼、芸能事務所からの問い合わせが多いので、それらに学科全体として対応しつつ、イベント準備・メディアからの情報の周知を行う。それ以外に学校全体のテーマ、たとえば進路指導、保健室からの伝達、就職模擬テストなどにも対応する。												
授業計画	授業のテーマ							予習内容・時間		復習内容・時間			
	1	「SHOWROOM」学科配信					ライブ配信内容の企画案作成(30分)		配信の反省点をレポートにまとめる(30分)				
	2	「SHOWROOM」学科配信					ライブ配信内容の企画案作成(30分)		配信の反省点をレポートにまとめる(30分)				
	3	適性検査(進路指導部・第一スタジオ)					適性検査のための自己分析を行う(30分)						
	4	文化祭準備1					文化祭で実施したい企画をまとめておく(30分)		準備の進行状況をまとめる(30分)				
	5	文化祭準備2					文化祭で実施したい企画をまとめておく(30分)		準備の進行状況をまとめる(30分)				
	6	適性検査結果配布および解説(進路指導部・052教室)					ライブ配信内容の企画案作成(30分)		適性検査結果の見直しを行う(30分)				
	7	「SHOWROOM」学科配信							配信の反省点をレポートにまとめる(30分)				
	8												
	9						・個人面談						
	10						・個人面談						
	11						・個人面談						
	12						・個人面談						
	13						・個人面談						
	14						・個人面談						
15						・個人面談							
成績評価基準	「SHOWROOM」は、3つのグループを形成して配信し、各グループに配信内容の企画案および反省点のレポートを提出させる。その内容および配信への取り組みを評価する。												
成績評価方法(割合%)	筆記試験		レポート		課題		実技		授業の取組		その他()		
			40						60				
教科書	なし					参考書	「街場のメディア論」 著書：内田樹						
課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法	企画案および反省点のレポートに対し、講評の時間を設ける。												

科目名	イベント研修 I Training for Ivent I							担当者	徳永 玲子 今木 清志 宮谷未知子 黒瀬 菜々 <small>実務家教員</small>			
開講年度	2020	学年	1	開講期	通年	単位数	2	授業形態		必修・選択の区分	必修	
授業の到達目標	本学科はあくまで「デビューの名に値するデビューを目指す」学科である。対外的イベントを展開しうるだけの基礎的資質を有した学生に対して、ジャンル別の特訓を課し、学科主催のイベントという総合的なエンターテイメントショーを構成できる水準にまで上昇せしめることを目的とする。											
授業概要	本学科は対外ライブを年3回程度開催、対外発表会を年1回開催し、ダンスユニット・声優ユニット・演劇ユニット・テクグループそれぞれの学生達が自力で対外的イベントを構成・展開しうる水準を目指すために、テレビドラマの制作現場でプロデューサーとしての実務経験を持つ教員等が指導します。											
授業計画	授業のテーマ							予習内容・時間		復習内容・時間		
	イベント研修 I に於いては、観察・実践を主とする演習を行う。											
	観察		①外部の劇団・アイドルグループ・声優事務所などの活動を SNS を活用して観察する。 ②外部団体の実際の運営方法を観察する。 ③芸能界の情報を収集する。					(イベント前) 観客への告知・会場設営・ポスター作成などの準備を行う事。(5時間)		観客への反応の分析・会場設営の実践・告知やポスターへの反応の分析を通じて次回のイベントの質の向上に役立てる。(3時間)		
	実践		①学科の公式 SHOWROOM 配信の他に、学生自身も配信を行うこと。 ②各ユニットは自主的訓練に励むこと。					(イベント後) 撤収作業や観客への対応を適切に行う事。(1時間)				
実務家教員は、各ユニットの自主性を尊重しつつ、適切な助言を与えることとする。												
成績評価基準	各グループがいかなる自主的訓練を積み重ねたか、観客にいかなる感動を与えたかの2点に於いて評価する。											
成績評価方法(割合%)	筆記試験	レポート	課題	実技	授業の取組	その他 ()						
					100							
教科書	なし							参考書	世界カワイイ革命 櫻井孝昌 著 (PHP 新書)			
課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法	イベント終了後、学生同士でディスカッションをする場を設け、総合的なフィードバックを行う。											

科目名	メイク I								担当者	南 ありさ 実務家教員				
	開講年度	2020	学年	1	開講期	後期	単位数	1		授業形態	演習	必修・選択の区分	選択	
授業の到達目標	①肌や化粧品道具について知る ②それぞれのパーツのメイクテクニックを習得 ③ナチュラル好感度の高いメイク技術を習得													
授業概要	各回、一から肌やメイクについて説明、デモンストレーション、実技、チェックを行う。													
授業計画	授業のテーマ								予習内容・時間		復習内容・時間			
	1	オリエンテーション							シラバスに目を通す (30分)		シラバス・準備物を確認 (1時間)			
	2	肌について							化粧品メーカー名を調べる (30分)		前回の内容を確認、実施 (1時間)			
	3	肌について							化粧品メーカー名を調べる (30分)		前回の内容を確認、実施 (1時間)			
	4	ベースメイク実技							ファンデーションの種類を調べる (30分)		前回の内容を確認、実施 (1時間)			
	5	ベースメイク実技							コンシーラーの種類を調べる (30分)		前回の内容を確認、実施 (1時間)			
	6	アイブロー実技							アイブローの種類を調べる (30分)		前回の内容を確認、実施 (1時間)			
	7	目元実技							アイライナーの種類を調べる (30分)		前回の内容を確認、実施 (1時間)			
	8	目元実技							前回の授業内容のプリント熟読 (30分)		前回の内容を確認、実施 (1時間)			
	9	チーク実技							チークの種類を調べる (30分)		前回の内容を確認、実施 (1時間)			
	10	口紅・仕上げ実技							仕上げに使用するアイテムを調べる (30分)		前回の内容を確認、実施 (1時間)			
	11	テーマに合わせたメイク実技							メイクプランを考える (1時間)		前回の内容を確認、実施 (1時間)			
	12	ナチュラルメイク実技							メイクプランを考える (1時間)		前回の内容を確認、実施 (1時間)			
	13	好感度の高いメイク実技							メイクプランを考える (1時間)		前回の内容を確認、実施 (1時間)			
	14	フルメイク実技							メイクプランを考える (1時間)		前回の内容を確認、実施 (1時間)			
15	まとめ							メイクプランを考える (1時間)		今までの授業を整理 (1時間)				
成績評価基準	技術はもちろんだが、実技など取組も評価する。													
成績評価方法 (割合%)	筆記試験			レポート			課題			実技		授業の取組		その他 ()
										80%		20%		
教科書	なし							参考書		<ul style="list-style-type: none"> ・メイク雑誌 (マキアなど) ・これ一冊でわかるメイク基本 (マイナビ) 				
課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法	実技試験後、その場で個々にアドバイスの時間を設ける。													

科目名	アナウンスメント I -A Announcement I -A							担当者	原田 愛子 実務家教員			
開講年度	2020	学年	1	開講期	前期	単位数	1	授業形態	演習	必修・選択の区分	選択	
授業の到達目標	アナウンスメントにおける実践を行うことで基礎から応用まで身につけることができます。発声からフリートークまであらゆるジャンルに対応できるような知識や技術を習得することで、オーディション、就職活動の面接にも役立ちます。											
授業概要	自己PR、発声、インタビュー、ナレーション、フリートーク等、マイクを使い録音しながら進めていきます。											
授業計画	授業のテーマ							予習内容・時間		復習内容・時間		
	1	自己PR・発声						早口言葉・発声 2時間		早口言葉・発声 2時間		
	2	自己PR・発声						早口言葉・発声 2時間		早口言葉・発声 2時間		
	3	インタビュー						早口言葉・発声 2時間		早口言葉・発声 2時間		
	4	インタビュー						早口言葉・発声 2時間		早口言葉・発声 2時間		
	5	原稿読み						早口言葉・発声 2時間		早口言葉・発声 2時間		
	6	天気レポート						早口言葉・発声 2時間		早口言葉・発声 2時間		
	7	天気レポート						早口言葉・発声 2時間		早口言葉・発声 2時間		
	8	ニュース						早口言葉・発声 2時間		早口言葉・発声 2時間		
	9	ニュース						早口言葉・発声 2時間		早口言葉・発声 2時間		
	10	ナレーション						早口言葉・発声 2時間		早口言葉・発声 2時間		
	11	ナレーション						早口言葉・発声 2時間		早口言葉・発声 2時間		
	12	ナレーション						早口言葉・発声 2時間		早口言葉・発声 2時間		
	13	朗読						早口言葉・発声 2時間		早口言葉・発声 2時間		
	14	朗読						早口言葉・発声 2時間		早口言葉・発声 2時間		
15	まとめ						早口言葉・発声 2時間		早口言葉・発声 2時間			
成績評価基準	課題20% 実技30% 授業の取組50%											
成績評価方法 (割合%)	筆記試験		レポート		課題		実技		授業の取組		その他 ()	
	なし		なし		20%		30%		50%			
教科書	プリント配布						参考書	アクセント辞典				
課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法	講評、解説の時間を設ける											

科目名	アナウンスメント I -A Announcement I -A							担当者	金子朋未				
開講年度	2020	学年	1	開講期	前期	単位数	1	授業形態	演習	必修・選択の区分	選択		
授業の到達目標	「映像」の世界において、言葉はもちろん、表情や動きで自己の能力を最大限発揮し、表現することができるようになる。 相手に伝わる声の大きさと、状況に応じた言葉を適切に使用することができるようになる。 テレビに映る自分がどう見えるか、その際言葉や構成が適切であったか、客観的に評価できるようになる。												
授業概要	テレビ中継でレポートとカメラの両方を経験している教員が、テレビでの自分の見せ方と表現方法について、その実務経験を活かし、カメラで写す人の気持ちを汲み取り、リポーターの立場とカメラの立場の二つの目線からレポートを構成出来るようになる為の実践的授業を行う。												
授業計画	授業のテーマ							予習内容・時間		復習内容・時間			
	1	発声、滑舌						あ行～わ行までの発声練習 (30分)		発声練習、早口言葉で滑舌練習 (30分)			
	2	ナレーション原稿の読み方						ナレーションを聴いて、そのやり方を研究する(30分)		お手本と自分の音源を聴き比べる(30分)			
	3	ナレーション原稿読み(実践)、録音						自分の声に合うナレーション原稿を見つける(30分)		ナレーション原稿読みの自主練習(30分)			
	4	録音したナレーションを聴く						ナレーション原稿読みの自主練習(30分)		ナレーション原稿読みの自主練習(30分)			
	5	テレビの映り方について						テレビのレポートを見て研究する(30分)		自分に合うファッションを考える(30分)			
	6	テレビの映り方について(自己紹介を録画する)						自己紹介内容作成(30分)		テレビのレポートを見て研究する(30分)			
	7	自己紹介 視聴						発声練習(30分)		自己紹介を練習する(30分)			
	8	レポートの構成方法						構成を意識してレポートを見る(30分)		構成方法をノートにまとめて復習(30分)			
	9	テレビのレポートでの表現方法						テレビのレポートを見る(30分)		自主練習で表現方法を復習(30分)			
	10	食レポ実践(3分バージョン)やり方						テレビで食レポを見る(30分)		目の前の食材を食レポしてみる(30分)			
	11	食レポ実践(3分バージョン)録画						食レポの構成を考える(30分)		食レポの改善点を考える(30分)			
	12	食レポ実践(3分バージョン)視聴						発声練習(30分)		テレビと自分の食レポを見比べる(30分)			
	13	レポート実践(5分バージョン)やり方						テレビのレポートをみる(30分)		レポート方法をノートにまとめて復習(30分)			
	14	レポート実践(5分バージョン)録画						発声練習(30分)		テレビのレポートを見る(30分)			
	15	レポート実践(5分バージョン)視聴						発声練習(30分)		後期の目標を考える(30分)			
成績評価基準	授業で習った発声方法をどのくらい習得できているか、滑舌よく話せるか実技試験で判断する。 毎回の授業で、テレビを観ている人に伝わる様に、話すスピードや言葉遣いをコントロールしようと努めているかどうか、また、表情や動きが豊かに表現出来ているかといった取り組みの姿勢を評価する。												
成績評価方法(割合%)	筆記試験			レポート			課題		実技		授業の取組		その他()
									40		60		
教科書							参考書	適宜紹介する。					
課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法	希望があれば、解説の時間を設ける。												

科目名	アナウンスメント I - B Announcement I - B							担当者	原田 愛子			
開講年度	2020	学年	1	開講期	後期	単位数	1	授業形態	演習	必修・選択の区分	選択	
授業の到達目標	アナウンスメントにおける実践を行うことで基礎から応用まで身につけて頂きます。発声からフリートークまであらゆるジャンルに対応できるような知識や技術を習得することでオーディション・就職活動の面接にも役立ちます。											
授業概要	発声、インタビュー、原稿読み、朗読、フリートーク等、マイクを使い録音しながら進めていきます。											
授業計画	授業のテーマ							予習内容・時間	復習内容・時間			
	1	フリートーク						早口言葉・発声 2時間	早口言葉・発声 2時間			
	2	フリートーク						早口言葉・発声 2時間	早口言葉・発声 2時間			
	3	インタビュー						早口言葉・発声 2時間	早口言葉・発声 2時間			
	4	インタビュー						早口言葉・発声 2時間	早口言葉・発声 2時間			
	5	ナレーション						早口言葉・発声 2時間	早口言葉・発声 2時間			
	6	ナレーション						早口言葉・発声 2時間	早口言葉・発声 2時間			
	7	ナレーション						早口言葉・発声 2時間	早口言葉・発声 2時間			
	8	ナレーション						早口言葉・発声 2時間	早口言葉・発声 2時間			
	9	レポート						早口言葉・発声 2時間	早口言葉・発声 2時間			
	10	レポート						早口言葉・発声 2時間	早口言葉・発声 2時間			
	11	レポート						早口言葉・発声 2時間	早口言葉・発声 2時間			
	12	レポート						早口言葉・発声 2時間	早口言葉・発声 2時間			
	13	朗読						早口言葉・発声 2時間	早口言葉・発声 2時間			
	14	朗読						早口言葉・発声 2時間	早口言葉・発声 2時間			
15	まとめ						早口言葉・発声 2時間	早口言葉・発声 2時間				
成績評価基準	受講態度50% 実技試験50%											
成績評価方法 (割合%)	筆記試験	レポート	課題	実技	授業の取組	その他 ()						
				50%	50%							
教科書	プリント配付						参考書	アクセント事典				
課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法	講評、解説の時間を設ける。											

科目名	アナウンスメント I -B Announcement I -B							担当者	金子朋未			
開講年度	2020	学年	1	開講期	後期	単位数	1	授業形態	演習	必修・選択の区分	選択	
授業の到達目標	<p>レポートで使う言葉、構成について、なぜその言葉や構成にしたのか、具体的に理由を述べられるようになる。</p> <p>レポートにおいて、電話でのアポイントメントの取り方や、実際の現場で、話が聞けそうな人を自ら予測し、インタビューさせて下さいと交渉・取材を行うことができるようになる。</p> <p>初めて話す相手に緊張感を与えない為の円滑なコミュニケーションが取れるようになる。</p>											
授業概要	<p>中継先を自ら交渉して決定し、原稿を書いてレポートしてきた教員が、初めて会う人への話し方、現場での構成の作り方について、その実務経験を活かし、どんな現場でも自分が伝えたい事を明確に決め、レポートが出来る様になる為の実践的授業を行う。</p>											
授業計画	授業のテーマ							予習内容・時間	復習内容・時間			
	1	カメラを意識したレポートのやり方						発声練習 (30分)	レポート方法をノートにまとめて復習(30分)			
	2	カメラの撮り方						映し方を意識してテレビを見る (30分)	カメラで撮影して映し方を復習 (30分)			
	3	中継先の決め方						どんな中継をしてみたいか候補を書く(30分)	テレビのレポートを見る (30分)			
	4	自分で中継先を決めてレポート (録画)						発声練習 (30分)	良かった点、悪かった点を書き出す (30分)			
	5	自分で中継先を決めてレポート (録画)						発声練習 (30分)	カメラの映し方の改善点を書き出す (30分)			
	6	自分で中継先を決めてレポート (視聴)						テレビのレポートを見る (30分)	テレビと自分のレポートを見比べる (30分)			
	7	自分で中継先を決めてレポート (視聴)						テレビのレポートを見る (30分)	テレビと自分のレポートを見比べる (30分)			
	8	テレビ原稿の見方						業界用語を調べる (30分)	台本の見方をノートにまとめる (30分)			
	9	台本付きレポートのやり方						発声練習 (30分)	台本の見方をノートにまとめる (30分)			
	10	台本付きレポートを实践 (録画)						発声練習 (30分)	レポートの構成を考える (30分)			
	11	原稿付きレポートを实践 (視聴)						原稿を覚える(30分)	レポートの改善点を書き出す (30分)			
	12	レポート (お店紹介)						お店で取材しているテレビのレポートを見る (30分)	自分ならどこを取材するか書き上げる (30分)			
	13	レポート (季節ネタ)						この時期行けそうなネタを書き出す (30分)	レポートの構成をノートに書いて復習(30分)			
	14	自分で中継先を決めてレポート (録画)						発声練習 (30分)	レポートの改善点を書き出す (30分)			
	15	自分で中継先を決めてレポート (視聴)						発声練習 (30分)	来年の目標を考える (30分)			
成績評価基準	<p>アポイントメントや事前取材において、適切なコミュニケーションが図れるか、また、そのことがレポートの内容に活かされているか、自己反省点を意識できるか、実技試験で判断する。</p> <p>また、毎回の授業でカメラマンが映しやすいかどうか、インタビュー相手や周囲の状況を考えて、立ち振る舞いや動きを取ることができているか、その取り組みの姿勢を評価する。</p>											
成績評価方法 (割合%)	筆記試験		レポート		課題		実技		授業の取組		その他 ()	
							40		60			
教科書						参考書	適宜紹介する。					
課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法	希望があれば解説の時間を設ける。											

科目名	映像演技 I						Performing Arts I		担当者	徳永玲子		
開講年度	2020	学年	1	開講期	前期	単位数	1	授業形態	演習	必修・選択の区分	選択	
授業の到達目標	美しい動き、表情を作り、演技、表現できるようになる。											
授業概要	撮影し、自分の姿を客観的に見る、演技の基礎、発声練習											
授業計画	授業のテーマ								予習内容・時間		復習内容・時間	
	1	発声 腹式呼吸・長音・短音						本を読む(30分)		感想を書く(30分)		
	2	鼻だく音										
	3	母音の無声化										
	4	アクセント										
	5	「50音のうた」朗読										
	6	「外郎売り」										
	7	漢字テスト										
	8	絵本を読む										
	9	物語を読む										
	10	エチュード										
	11	パントマイム										
	12	正当化										
	13	性格付け										
	14	観察する										
	15	「50音のうた」朗読テスト										
成績評価基準	「50音のうた」朗読											
成績評価方法(割合%)	筆記試験		レポート		課題		実技		授業の取組		その他()	
							80		20			
教科書	プリントを配布する						参考書	適宜、紹介する				
課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法	感想文を授業中に発表する。											

科目名	映像演技Ⅱ							Performing Arts Ⅱ		担当者	徳永玲子		
開講年度	2020	学年	1	開講期	後期	単位数	1	授業形態	演習	必修・選択の区分	選択		
授業の到達目標	想像力、集中力を高め、肉体を使って演技、表現できるようになる。												
授業概要	演じる模擬訓練												
授業計画	授業のテーマ							予習内容・時間		復習内容・時間			
	1	発声	芝居を見る					漢字の書き取り (30分)		採点 (30分)			
	2		宝塚音楽学校「プスの25ヶ条」										
	3	即興	笑わせる										
	4		バランス感覚										
	5		ダブルイメージ										
	6		音楽を聞きながら										
	7	エチュード	詩を朗読										
	8		短編作品										
	9		脚本を読む	絵本「あらしのよるに」									
	10			絵本「いのちをいただく」									
	11	演じる		「鶴の恩返し」									
	12			「心をぬらす雨のように」									
	13												
	14												
15			「50音のうた」	暗記朗読テスト									
成績評価基準	「50音のうた」朗読												
成績評価方法 (割合%)	筆記試験	レポート	課題	実技	授業の取組	その他 ()							
				80	20								
教科書	使用しない					参考書	適宜、紹介						
課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法	「50音のうた」朗読の発表を授業中に行う。												

科目名	演劇的所作 Theatrical Performance							担当者	吉野明日美 屋宜一隆 松林 晴彦		
開講年度	2020	学年	1	開講期	前期	単位数	1	授業形態	演習	必修・選択の区分	選択
授業の到達目標	与えられた振付を踊ることができるようになる。(吉野) 現代アクション・殺陣(時代劇)に関する基本的な知識・動作の修得(屋宜) 基礎的なSTEPを学び、自然なフォームで音を出せる様になる。定番ルーティーン(振付)の「シム・シヤム」を覚え、曲に合わせて踏める様になる。TAPでリズムを表現し、短いパフォーマンスを出来る様になる。(松林)										
授業概要	動作の基本 どんたくの振付(吉野) アクション(現代アクション・時代劇・スタントetc)の知識・技術的な内容をマットや木刀などを用いて基本的なアクションのノウハウを講義する。(屋宜) 体を使った「打楽器」としてのTAPを学びます。具体的には、「TAPの歴史」に関しての簡単な解説、及び、「シューズ」「板」についての解説を聞き理解します。また、人体の構造に基づき、無理なく体を使って強い打撃を生む為の方法を学び実践します。リズムについての理解を深める為、「楽典」の基礎も学びます。基礎的なSTEPを学び習熟し、組み合わせてルーティーン(振付)を覚えます。TAPは足を踏み鳴らすプリミティブな表現法で、人間の身体の動きが其の俣「音」に為ります。そして人と共にリズムを共有し、体感出来ます。(松林)										
授業計画	授業のテーマ							予習内容・時間		復習内容・時間	
	1	基本の動作 振付									
	2	〃 〃									
	3	〃 〃									
	4	〃 新しい動き・振付									
	5	〃 〃									
	6	アクションに関するガイダンス									
	7	基本動作(マット、受け身など)									
	8	基本動作(マット、アクロバットなど)									
	9	基本動作(突き、蹴り)									
	10	基本動作(殺陣回り)									
	11	シューズ各部の名称・基本姿勢・基礎練習・TAPの歴史・「ステップ」「ヒール」「スタンプ」									
	12	基礎練習「シャッフル」「フラップ」									
	13	基礎練習「タイムステップ」 ルーティーン(振付)「シム・シヤム」									
	14	基礎練習「タイムステップ」 ルーティーン(振付)「シム・シヤム」									
15	基礎練習・リズム表現・実技試験(パフォーマンス)・まとめ										
成績評価基準	単純な動きが正確にどれくらいできるか。(吉野) 実技はもちろんですが授業の取組や授業態度を重視(屋宜) 基本STEPが明確に再現出来ているか、また、ルーティーン(振付)を正しく覚え、曲の実速で再現出来ているか。更に、衆目を集める魅力的なパフォーマンスをした者は加点とします。(松林)										
成績評価方法(割合%)	筆記試験		レポート		課題		実技		授業の取組		その他()
							80%(吉野) 40%(屋宜) 35%(松林)		20%(吉野) 60%(屋宜)		パフォーマンス力5%(松林)
教科書	なし					参考書		基礎から始める 殺陣・アクション入門			
課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法	最終回のパフォーマンスで評価するので、それ以降のフォローは有りません										

科目名	ボーカル（声楽） I							Vocal I		担当者	林 麻 耶			
開講年度	2020	学年	1	開講期	前期	単位数	1	授業形態	演習	必修・選択の区分	選択			
授業の到達目標	歌を通して、息・声を使う音楽表現、様々な言語での表現、様々な時代や様式・作曲家による作品の魅力を知る。さらに、合唱やミュージカル作品などのアンサンブルに取り組みることにより、仲間と音楽を創り上げていくことの楽しさ、歌いながら感情表現・お芝居することの難しさや楽しさを感じていくことを目標とする													
授業概要	ソプラノ歌手である教員が、歌うために必要な身体の使い方、発声や正しい音程の表現方法、楽譜を正確に読むこと、音楽用語の意味の理解など、音楽の基礎的な部分を教えます。最終回には公開発表会をするため、そこに向けて作品を作りあげていきます。													
授業計画	授業のテーマ							予習内容・時間		復習内容・時間				
	1	自己紹介（音楽と私）						自己紹介曲を用意する（30分）		授業で学習した内容の確認、理解を深める（30分）				
	2	発声体操と発声練習・正しい姿勢						次回取り組む箇所の譜読みをし、教科書を読んでおく（30分）		授業で学習した内容の確認、理解を深める（30分）				
	3	腹式呼吸と胸式呼吸①						次回取り組む箇所の譜読みをし、教科書を読んでおく（30分）		授業で学習した内容の確認、理解を深める（30分）				
	4	腹式呼吸と胸式呼吸②						次回取り組む箇所の譜読みをし、教科書を読んでおく（30分）		授業で学習した内容の確認、理解を深める（30分）				
	5	声帯の仕組み・子音と母音						次回取り組む箇所の譜読みをし、教科書を読んでおく（30分）		授業で学習した内容の確認、理解を深める（30分）				
	6	ト音とヘ音・オーデション用紙の書き方						次回取り組む箇所の譜読みをし、教科書を読んでおく（30分）		授業で学習した内容の確認、理解を深める（30分）				
	7	二部合唱①：音程、フレーズの確認。						次回取り組む箇所の譜読みをし、教科書を読んでおく（30分）		授業で学習した内容の確認、理解を深める（30分）				
	8	二部合唱②：詩の内容、言葉の表現の研究。						次回取り組む箇所の譜読みをし、教科書を読んでおく（30分）		授業で学習した内容の確認、理解を深める（30分）				
	9	二部合唱③：各部分、各パートの音の確認。役割を理解する。						次回取り組む箇所の譜読みをし、教科書を読んでおく（30分）		授業で学習した内容の確認、理解を深める（30分）				
	10	二部合唱④：表現力を高め、仕上げる。						次回取り組む箇所の譜読みをし、教科書を読んでおく（30分）		授業で学習した内容の確認、理解を深める（30分）				
	11	西短オリジナルソング1-①：音程、フレーズの確認。						次回取り組む箇所の譜読みをし、教科書を読んでおく（30分）		授業で学習した内容の確認、理解を深める（30分）				
	12	西短オリジナルソング1-②：詩の内容、言葉の表現の研究。						次回取り組む箇所の譜読みをし、教科書を読んでおく（30分）		授業で学習した内容の確認、理解を深める（30分）				
	13	西短オリジナルソング1-③：表現力を高め、仕上げる。						次回取り組む箇所の譜読みをし、教科書を読んでおく（30分）		授業で学習した内容の確認、理解を深める（30分）				
	14	公開発表会リハーサル、仕上げ						次回取り組む箇所の譜読みをし、教科書を読んでおく（30分）		授業で学習した内容の確認、理解を深める（30分）				
15	まとめ、公開発表会						録画・録音をして客観的な見え方を研究する（30分）		授業で学習した内容の確認、理解を深める（30分）					
成績評価基準	到達目標に基づき、平常の授業への取り組みと、積極的な姿勢を総合的に評価する。													
成績評価方法（割合％）	筆記試験			レポート			課題			実技		授業の取組		その他（ ）
										50		50		
教科書	コーラス・トレーニング2（サーベル）						参考書		プリントを配布する					
課題（試験、レポート等）に対するフィードバックの方法	発表の機会を得た後は、振り返り、感想を述べあうと共に、今後の課題を確認する。（音源や映像などで）													

科目名	ボーカル（声楽）Ⅱ						Vocal Ⅱ		担当者	林 麻 耶				
開講年度	2020	学年	1	開講期	後期	単位数	1	授業形態	演習	必修・選択の区分	選択			
授業の到達目標	歌を通して、息・声を使う音楽表現、様々な言語での表現、様々な時代や様式・作曲家による作品の魅力を知る。さらに、合唱やミュージカル作品などのアンサンブルに取り組むことにより、仲間と音楽を創り上げていくことの楽しさ、歌いながら感情表現・お芝居することの難しさや楽しさを感じていくことを目標とする													
授業概要	ソプラノ歌手である教員が、歌うために必要な身体の使い方、発声や正しい音程の表現方法、楽譜を正確に読むこと、音楽用語の意味の理解など、音楽の基礎的な部分を教えます。最終回には1・2年生合同の発表会をするため、そこに向けて作品を作りあげていきます。													
授業計画	授業のテーマ							予習内容・時間		復習内容・時間				
	1	西短オリジナルソング2-①：音程、フレーズの確認。					次回取り組む箇所の譜読みをし、教科書を読んでおく(30分)		授業で学習した内容の確認、理解を深める(30分)					
	2	西短オリジナルソング2-②：詩の内容、言葉の表現の研究。					次回取り組む箇所の譜読みをし、教科書を読んでおく(30分)		授業で学習した内容の確認、理解を深める(30分)					
	3	西短オリジナルソング2-③：表現力を高め、仕上げる。					次回取り組む箇所の譜読みをし、教科書を読んでおく(30分)		授業で学習した内容の確認、理解を深める(30分)					
	4	ミュージカル Duo ①：音程、フレーズの確認。					自分が歌うミュージカルソングの内容（作曲者、作詞者、初演、ミュージカル名、役名、あらすじ、歌詞の内容、歌われる場面）等を調べておく。複数で歌唱するデュエット、トリオ等を取り組むときは、授業以外に相手との練習時間を取り予習をして臨むこと。(30分)		授業で学習した内容の確認、理解を深める(30分)					
	5	ミュージカル Duo ②：詩の内容、言葉の表現の研究。							授業で学習した内容の確認、理解を深める(30分)					
	6	ミュージカル Duo ③：配役決め、相応しい動きを考える							授業で学習した内容の確認、理解を深める(30分)					
	7	ミュージカル Duo ④：表現力を高め、仕上げる。							授業で学習した内容の確認、理解を深める(30分)					
	8	ミュージカル DVD 鑑賞（前半）							授業で学習した内容の確認、理解を深める(30分)					
	9	ミュージカル DVD 鑑賞（後半）・ミュージカルシーン①：音程確認							授業で学習した内容の確認、理解を深める(30分)					
	10	ミュージカルシーン②：音程、フレーズの確認。							授業で学習した内容の確認、理解を深める(30分)					
	11	ミュージカルシーン③：配役決め、各役の練習							授業で学習した内容の確認、理解を深める(30分)					
	12	ミュージカルシーン④：詩の内容、言葉の表現の研究。							授業で学習した内容の確認、理解を深める(30分)					
	13	ミュージカルシーン⑤：表現力を高め、仕上げる。							授業で学習した内容の確認、理解を深める(30分)					
	14	合同発表会リハーサル、仕上げ							授業で学習した内容の確認、理解を深める(30分)					
15	まとめ、合同発表会					録画・録音をして客観的な見え方を研究する(30分)			授業で学習した内容の確認、理解を深める(30分)					
成績評価基準	到達目標に基づき、平常の授業への取り組みと、積極的な姿勢を総合的に評価する。													
成績評価方法（割合％）	筆記試験	レポート	課題	実技	授業の取組	その他（ ）								
				50	50									
教科書	コーラス・トレーニング2（サーベル）					参考書	プリントを配布する							
課題（試験、レポート等）に対するフィードバックの方法	発表の機会を得た後は、振り返り、感想を述べあうと共に、今後の課題を確認する。（音源や映像などで）													

科目名	ダンス表現研究 I Study of Dance Expression I							担当者	松熊真未 実務家教員					
開講年度	2020	学年	1	開講期	前期	単位数	1	授業形態	演習	必修・選択の区分	実務・選択			
授業の到達目標	現代リズムダンスにおける様々な表現方法を学び、それを取り入れた振付を踊ることが出来るようになること。リズム感を身につけ、音に合わせた身体表現が出来るようになること。自身の身体を的確にコントロールし、ステージでの魅せ方を自主的に研究できるようになること。													
授業概要	ダンスインストラクターやアーティストバックダンサーの実務経験を持つ教員が、身体表現の幅を広げステージで表現するための実践的授業を行う。また、踊るために必要な身体づくりのためのトレーニングの指導を行う。													
授業計画	授業のテーマ							予習内容・時間		復習内容・時間				
	1	オリエンテーション、ダンスの基礎ストレッチ練習					好きなアーティストのパフォーマンスを研究する(30分)		授業で習った動きを自主練習する(30分)					
	2	ダンスの基礎練習(ストレッチ・筋力トレーニング・アイソレーション)					指定したダンス動画を視聴し、その動き特徴をまとめる(30分)							
	3	現代的なリズムのダンス①(ヒップホップのリズムトレーニングなど)												
	4	現代的なリズムのダンス②(ヒップホップの基礎ステップなど)												
	5	現代的なリズムのダンス③(ヒップホップの基礎・振付など)												
	6	現代的なリズムのダンス④(基礎～応用の振付け)												
	7	創作活動の基礎(グループ分け・構成)												
	8	作品創作①												
	9	作品創作②												
	10	作品創作③												
	11	作品創作④												
	12	作品創作⑤												
	13	自己表現力を育てる(ウォーキング・ポージング・表情研究)												
	14	実技試験リハーサル												
	15	まとめ・発表												
成績評価基準	授業で習った様々なステップや振付をどれくらい習得できているか、音楽に合わせた表現が出来ているか実技試験で判断する。 毎回の授業で集中し自身の身体をコントロールしようと努めているかどうか、その取り組みの姿勢を評価する。													
成績評価方法(割合%)	筆記試験			レポート			課題			実技		授業の取組		その他()
										40		60		
教科書	なし						参考書	ダンサーなら知っておきたい「トレーニング」のこと 水村真由美 著						
課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法	実技試験のビデオ撮影を行い、今後の課題や改善点を一人ずつフィードバックする時間を設ける。													

科目名	ダンス表現研究Ⅱ Study of Dance Expression Ⅱ						担当者	松熊真未 実務家教員			
開講年度	2020	学年	1	開講期	後期	単位数	1	授業形態	演習	必修・選択の区分	実務・選択
授業の到達目標	ダンス表現研究Ⅰで習得した内容をさらに深める。現代リズムダンスにおける様々な表現方法を学び、それを取り入れた振付を踊ることが出来るようになること。リズム感を身につけ、音に合わせた身体表現が出来るようになること。自身の身体を的確にコントロールし、ステージでの魅せ方を自主的に研究できるようになること。										
授業概要	ダンスインストラクターやアーティストバックダンサーの実務経験を持つ教員が、身体表現の幅を広げステージで表現するための実践的授業を行う。また、踊るために必要な身体づくりのためのトレーニングの指導を行う。										
授業計画	授業のテーマ						予習内容・時間		復習内容・時間		
	1	前期の振り返り					好きなアーティストのパフォーマンスを研究する(30分)		授業で習った動きを自主練習する(30分)		
	2	ダンスの基礎練習(筋力トレーニング・体幹トレーニングなど)					指定したダンス動画を視聴し、その動き特徴をまとめる(30分)				
	3	現代的なリズムのダンス①(ヒップホップの基礎ステップ)									
	4	現代的なリズムのダンス②(ヒップホップの基礎ステップ応用)									
	5	現代的なリズムのダンス③(ヒップホップの基礎ステップ)									
	6	現代的なリズムのダンス④(ヒップホップの基礎ステップ応用)									
	7	作品創作①(グループ分け・構成・振付・発表)									
	8	作品創作②(個人の作品作り・プログラミング)									
	9	自己表現力を育てる①(感情表現・空間の使い方・魅せ方)									
	10	自己表現力を育てる②(現代的な音楽に合わせて振付)									
	11	作品創作①									
	12	作品創作②									
	13	作品創作③									
	14	作品創作④(実技試験リハーサル)									
	15	まとめ									
成績評価基準	授業で習った様々なステップや振付をどれくらい習得できているか、音楽に合わせた表現が出来ているか実技試験で判断する。 毎回の授業で集中し自身の身体をコントロールしようと努めているかどうか、その取り組みの姿勢を評価する。										
成績評価方法(割合%)	筆記試験		レポート		課題		実技		授業の取組		その他()
							40		60		
教科書	なし					参考書	ダンサーなら知っておきたい「トレーニング」のこと 水村真由美 著				
課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法	実技試験のビデオ撮影を行い、今後の課題や改善点を一人ずつフィードバックする時間を設ける。										

科目名	洋舞特演 I - A For Dance Professional&Advanced I - A							担当者	宮 谷 未知子 実務家教員				
開講年度	2020	学年	1	開講期	前期	単位数	1	授業形態	演習	必修・選択の区分	実務・選択		
授業の到達目標	ステージパフォーマンスの基本となる JAZZ ダンスの基礎的な動きを一通り経験し、身体の使い方を覚える。 はじめは思い通りに身体が動かないかもしれないが、まずは自身の身体と向き合いコントロールしようとする姿勢を身につける。												
授業概要	ダンスインストラクターやアーティストバックダンサーの実務経験を持つ教員が、身体表現の幅を広げステージで表現するための実践的授業を行う。また、踊るために必要な身体づくりのためのトレーニング指導を行う。												
授業計画	授業のテーマ							予習内容・時間		復習内容・時間			
	1	はじめに（ダンスレッスンを受講するにあたっての注意点）							好きなアーティストのパフォーマンスを研究する（30分）		授業で習った動きを自主練習する（30分）		
	2	基本的な動き 1（ロールアップ、ロールダウン）							指定したダンス動画を視聴し、動きの特徴を分析する（30分）				
	3	基本的な動き 2（ボールド・ブラ、プリエ、タンジュ）											
	4	基本的な動き 3（ルルベバランス、パッセバランス）											
	5	基本的な動き 4（アイソレーション）											
	6	基本的な動き 5（フラットバック、サイドストレッチ）											
	7	基本的な動き 6（ドルフィン）											
	8	基本的な動き 7（パドブレ・ターン）											
	9	基本的な動き 8（クロスフロア）											
	10	基本的な動きを組み合わせたコンビネーション 1											
	11	基本的な動きを組み合わせたコンビネーション 2											
	12	基本的な動きを組み合わせたコンビネーション 3											
	13	基本的な動きを組み合わせたコンビネーション 4											
	14	実技テスト・ビデオ撮影											
	15	フィードバック・まとめ											
成績評価基準	授業で習った様々な動きや振付をどれくらい習得できているか実技試験で判断する。 毎回の授業で集中し自身の身体をコントロールしようとするかどうかが、その取り組みの姿勢を評価する。												
成績評価方法 (割合%)	筆記試験			レポート			課題		実技		授業の取組		その他 ()
									30		70		
教科書	なし						参考書	「ダンス解剖学」 ジャッキー・グリーン・ハース著 武田淳也 監訳					
課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法	実技試験のビデオ撮影を行い、今後の課題や改善点を一人ずつフィードバックする時間を設ける。												

科目名	洋舞特演 I - B For Dance Professional&Advanced I -B							担当者	宮 谷 未知子 実務家教員				
開講年度	2020	学年	1	開講期	後期	単位数	1	授業形態	演習	必修・選択の区分		実務・選択	
授業の到達目標	洋舞特演 I - A で習得した動きから、さらに発展させていく。ステージパフォーマンスの基本となる JAZZ ダンスの基礎的な動きを一通り経験し、身体の使い方を覚える。はじめは思い通りに身体が動かないかもしれないが、まずは自身の身体と向き合いコントロールしようとする姿勢を身につける。												
授業概要	ダンスインストラクターやアーティストバックダンサーの実務経験を持つ教員が、身体表現の幅を広げステージで表現するための実践的授業を行う。また、踊るために必要な身体づくりのためのトレーニング指導を行う。												
授業計画	授業のテーマ							予習内容・時間		復習内容・時間			
	1	前期の振り返り					好きなアーティストのパフォーマンスを研究する(30分)		授業で習った動きを自主練習する(30分)				
	2	基本的な動き 1 (プリエの復習)					指定したダンス動画を視聴し、動きの特徴を分析する(30分)						
	3	基本的な動き 2 (ターンアウトでのタンジュ、ジュッテ)											
	4	基本的な動き 3 (ロン・ド・ジャンプ・ア・テール)											
	5	基本的な動き 4 (フォンデュ、デヴェロッパ)											
	6	基本的な動き 5 (アラバスク)											
	7	基本的な動き 6 (バットマン)											
	8	基本的な動き 7 (シェネ・ターン)											
	9	基本的な動き 8 (クロスフロア)											
	10	基本的な動きを組み合わせたコンビネーション 1											
	11	基本的な動きを組み合わせたコンビネーション 2											
	12	基本的な動きを組み合わせたコンビネーション 3											
	13	基本的な動きを組み合わせたコンビネーション 4											
	14	実技テスト・ビデオ撮影											
	15	フィードバック・まとめ											
成績評価基準	授業で習った様々なステップや振付をどれくらい習得できているか実技試験で判断する。毎回の授業で集中し自身の身体をコントロールしようと努めているかどうか、その取り組みの姿勢を評価する。												
成績評価方法(割合%)	筆記試験		レポート		課題		実技		授業の取組		その他()		
							30		70				
教科書	なし					参考書	「ダンス解剖学」 ジャッキー・グリーン・ハース著 武田淳也 監訳						
課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法	実技試験のビデオ撮影を行い、今後の課題や改善点を一人ずつフィードバックする時間を設ける。												

科目名	モデルストリート I Model Street I							担当者	川野 聡子 実務家教員			
開講年度	2020	学年	1年	開講期	前期	単位数	1	授業形態	演習	必修・選択の区分	選択	
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・姿勢が美しくなる ・基礎のウォーキングを身に付けることができる ・リズム感や表情力を養うことができる 											
授業概要	<p>プロモデルレッスンコーチがモデルの経験を生かし、モデルウォーキングを学びます。 自分の体のクセを知り、改善に向け体作りをしながら、様々なテーマや音楽、シチュエーションによって異なるウォーキングや表現方法を取得します。</p>											
授業計画	授業のテーマ							予習内容・時間	復習内容・時間			
	1	体のくせを知る						ストレッチ・筋トレ (30分)	姿勢を意識する (30分)			
	2	基礎① ストレッチ・姿勢・ウォーキング基礎						ストレッチ・筋トレ (30分)	姿勢を意識する (30分)			
	3	基礎② ストレッチ・姿勢・ウォーキング・ターン						ストレッチ・筋トレ (30分)	ターンの練習 (30分)			
	4	基礎③ ストレッチ・ウォーキング・ターン						ストレッチ・筋トレ (30分)	ターンの練習 (30分)			
	5	基礎④ ストレッチ・ウォーキング・ポージング						ストレッチ・筋トレ (30分)	ターンの練習 (30分)			
	6	基礎⑤ ストレッチ・ウォーキング・ポージング						ストレッチ・筋トレ (30分)	ポーズの練習 (30分)			
	7	基礎⑥ ストレッチ・ウォーキング・ポージング・表情						ストレッチ・筋トレ (30分)	表情の練習 (30分)			
	8	基礎⑦ ストレッチ・ウォーキング・ポージング・表情						ストレッチ・筋トレ (30分)	表情の練習 (30分)			
	9	基礎⑧ ストレッチ・ウォーキング・フォーメーション						ストレッチ・筋トレ (30分)	ポーズ、表情の練習 (30分)			
	10	基礎⑨ ストレッチ・ウォーキング・フォーメーション						ストレッチ・筋トレ (30分)	ポーズ、表情の練習 (30分)			
	11	フロアショー						ストレッチ・筋トレ (30分)	ウォーキング+ターン (30分)			
	12	フロアショー						ストレッチ・筋トレ (30分)	ウォーキング+ターン (30分)			
	13	ステージショー						ストレッチ・筋トレ (30分)	ウォーキング+ターン (30分)			
	14	ステージショー						ストレッチ・筋トレ (30分)	ウォーキング+ターン (30分)			
15	まとめ						ストレッチ・筋トレ (30分)	ウォーキング+ターン (30分)				
成績評価基準	実技試験の結果により評価する											
成績評価方法 (割合%)	筆記試験		レポート		課題		実技		授業の取組		その他 ()	
							80		20			
教科書	使用しない					参考書	使用しない					
課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法	試験のフィードバックとして、講評や解説の時間を設ける。											

科目名	マナーと表現 Manner and Exprssion							担当者	本 多 美智子		
開講年度	2020	学年	1	開講期	前期	単位数	1	授業形態	演習	必修・選択の区分	選択
授業の到達目標	マナーは、知識や技能だけで推し量れるものではありません。長い年月をかけてつくられてきた作法、ルール、しきたりを正確に学び理解する事が何故大切なのか。本講座では、社会人として必要なマナーの分野を取り上げ、現代の社会問題と併せて考えていきます。 曖昧になりやすい知識をしっかりと習得することを目標とします。										
授業概要	プライベートマナーやパブリックマナーについて、解説し、備品を使いながら作法も定着します。知識の習得のために「確認プリント」を行い、知識と振る舞いの修養を積みます。										
授業計画	授業のテーマ							予習内容・時間	復習内容・時間		
	1	オリエンテーション 授業の進め方、評価、取り組みについて						授業の予習(30分)	授業の復習 (30分)		
	2	マナーとは何か 歴史と意味						授業の予習(30分)	授業の復習 (30分)		
	3	好印象を与えるコミュニケーション						授業の予習(30分)	授業の復習 (30分)		
	4	婚のしきたり						授業の予習(30分)	授業の復習 (30分)		
	5	葬のしきたり						授業の予習(30分)	授業の復習 (30分)		
	6	和食のマナー						授業の予習(30分)	授業の復習 (30分)		
	7	洋食のマナー						授業の予習(30分)	授業の復習 (30分)		
	8	ビジネスマナー						授業の予習(30分)	授業の復習 (30分)		
	9	言葉遣いと話し方						授業の予習(30分)	授業の復習 (30分)		
	10	服装のマナー						授業の予習(30分)	授業の復習 (30分)		
	11	贈答のしきたり						授業の予習(30分)	授業の復習 (30分)		
	12	手紙のマナー						授業の予習(30分)	授業の復習 (30分)		
	13	洋食実践						授業の予習(30分)	授業の復習 (30分)		
	14	▼						授業の予習(30分)	授業の復習 (30分)		
15	まとめ						授業の予習(30分)	授業の復習 (30分)			
成績評価基準	期中評価 分野毎の確認テスト、実技による										
成績評価方法 (割合%)	筆記試験	レポート	課題	実技	授業の取組	その他 ()					
	なし	20	20	20	40						
教科書	「マナー&プロトコルの基礎知識」						参考書	適宜紹介します			
課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法	<ul style="list-style-type: none"> ・期中試験はそのつど解説する。 ・レポート、課題は回収後にコメントする。 										

科目名	MC トーク I				MC talk II				担当者	林 亜美 実務家教員				
	開講年度	2020	学年	1	開講期	前期	単位数	1		授業形態	演習	必修・選択の区分	選択	
授業の到達目標	はきはきと相手に伝わりやすくしゃべることができる。TPO に合わせた言葉使いやしゃべり方ができる。													
授業概要	本校の非常勤講師を5年前から拝任。大学在学中から、福岡のテレビ局でリポーター経験をしたのち長崎文化放送で記者・アナウンサーとして4年勤務。退社後はRKBのニュースアナウンサーや天気コーナー、情報バラエティ番組などを担当。以上の経験を活かし、発声・発音の基礎から実際に使用した原稿を使い司会の実践をする。授業では、与えられた原稿に取り組みだけでなく、原稿の作成やインタビューなど自身で考えてもらいます。													
授業計画	授業のテーマ								予習内容・時間		復習内容・時間			
	1	自己紹介							自己紹介を考える (1時間)					
	2	発声・発音									発声・活舌(1時間)			
	3	天気リポート									天気リポート(1時間)			
	4	↓									天気リポート(1時間)			
	5	↓									天気リポート(1時間)			
	6	↓									天気リポート(1時間)			
	7	フリートーク									フリートーク(1時間)			
	8	↓									フリートーク(1時間)			
	9	↓									フリートーク(1時間)			
	10	自己PR							自己PRを考える (30分)		自己PR(30分)			
	11	↓									自己PR(1時間)			
	12	↓									自己PR(1時間)			
	13	↓									自己PR(1時間)			
	14	試験準備									試験準備(1時間)			
15	まとめ									振り返り(1時間)				
成績評価基準	試験結果。授業での講評に対しての復讐がきちんとできているか。													
成績評価方法 (割合%)	筆記試験			レポート			課題			実技		授業の取組		その他()
										50		50		
教科書	NHK 日本語発音アクセント新辞典 (NHK 出版)							参考書						
課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法	試験のフィードバックとして、講評や解説の時間を設ける。													

科目名	MC トーク II							MC talk II	担当者	林 亜美 実務家教員		
開講年度	2020	学年	1	開講期	後期	単位数	1	授業形態	演習	必修・選択の区分	選択	
授業の到達目標	はきはきと相手に伝わりやすく話せる。TPO に合わせた言葉使いや話し方ができる。											
授業概要	本校の非常勤講師を5年前から拝任。大学在学中から、福岡のテレビ局でリポーター経験をしたのち長崎文化放送で記者・アナウンサーとして4年勤務。退社後はRKBのニュースアナウンサーや天気コーナー、情報バラエティ番組などを担当。以上の経験を活かし、発声・発音の基礎から実際に使用した原稿を使い司会の実践をする。授業では、与えられた原稿に取り組みだけでなく、原稿の作成やインタビューなど自身で考えてもらいます。											
授業計画	授業のテーマ							予習内容・時間		復習内容・時間		
	1	発声・発音						発声・発音 (30分)		発声・発音 (30分)		
	2	お祭り司会								お祭り司会 (1時間)		
	3	↓								お祭り司会 (1時間)		
	4	↓								お祭り司会 (1時間)		
	5	↓								お祭り司会 (1時間)		
	6	↓								お祭り司会 (1時間)		
	7	式典司会								式典司会 (1時間)		
	8	↓								式典司会 (1時間)		
	9	↓								式典司会 (1時間)		
	10	↓								式典司会 (1時間)		
	11	食りポ								食りポ (1時間)		
	12	↓								食りポ (1時間)		
	13	↓								食りポ (1時間)		
	14	試験準備								試験準備 (1時間)		
15	まとめ								振り返り (1時間)			
成績評価基準	試験結果。授業での講評に対する復習がきちんとできているか。											
成績評価方法 (割合%)	筆記試験		レポート		課題		実技		授業の取組		その他 ()	
							50		50			
教科書	NHK 日本語発音アクセント新辞典 (NHK 出版)						参考書					
課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法	試験のフィードバックとして、講評や解説の時間を設ける。											

科目名	アフレコ I Post Recording I							担当者	小 鶴 史 江				
開講年度	2020	学年	1年	開講期	前期	単位数	1	授業形態	演習	必修・選択の区分	選択		
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・マイク前での発声方法を身につける。 ・文章から作品をイメージすることができる。 ・マイク前での演技に慣れる。 ・声のみを使う表現ができる。 												
授業概要	声優として収録や撮影の現場を経験してきた教員が、学び体験したできごとを例として挙げながら、実際の現場に立つにあたって必要なマイク前表現の基本的技術を学びます。												
授業計画	授業のテーマ							予習内容・時間	復習内容・時間				
	1	オリエンテーション（個々の目標の確認）／基礎力の確認							自己の目標の確認（30分）	本日課題の音読（30分）			
	2	表現力のトレーニング（CM、朗読、ナレーション、科白など）							既読作品の朗読（30分）	本日課題の音読（30分）			
	3												
	4												
	5												
	6												
	7												
	8												
	9												
	10												
	11												
	12												
	13												
	14	試験・習得技術と必要技術の確認											
15	総括・まとめ・ふり返り												
成績評価基準	作品に対し、どのような完成形をイメージしているのか、それを実行するために工夫していること、やろうと試みたことを評価する。												
成績評価方法（割合％）	筆記試験		レポート		課題		実技		授業の取組		その他（魅力）		
	0		0		0		70		20		10		
教科書	なし						参考書	「NHK 日本語発声アクセント新辞典(NHK出版)」					
課題（試験、レポート等）に対するフィードバックの方法	毎回の課題に対し、個々への評価及び問題点とその改善案を提案する。												

科目名	アフレコⅡ							Post Recording Ⅱ		担当者	小 鶴 史 江		
開講年度	2020	学年	1年	開講期	後期	単位数	1	授業形態	演習	必修・選択の区分	選択		
授業の到達目標	・文章から作品の完成形をイメージすることができる。 ・自分らしさ（個性）を発掘し、表現に活かす。 ・アフレコの基礎を学ぶ。												
授業概要	声優として収録や撮影の現場を経験してきた教員が、学び体験したできごとを例として挙げながら、実際の現場に立つにあたって必要な『台詞（科白）』表現の基本的技術を学びます。 様々な分野の作品に触れていただき、表現の幅を広げていきます。												
授業計画	授業のテーマ							予習内容・時間		復習内容・時間			
	1	オリエンテーション（個々の目標の確認）／基礎力の確認							自己の目標の確認（30分）		本日課題の音読（30分）		
	2	表現力のトレーニング（CM、朗読、ナレーション、科白など）							既読作品の朗読（30分）		本日課題の音読（30分）		
	3												
	4												
	5												
	6												
	7												
	8												
	9												
	10												
	11												
	12	アフレコ表現のトレーニング											
	13												
	14	試験・習得技術と必要技術の確認											
15	総括・まとめ・ふり返り												
成績評価基準	作品に対し、どのような完成形をイメージしているのか、それを実行するために工夫していること、やろうと試みたことを評価する。												
成績評価方法（割合％）	筆記試験		レポート		課題		実技		授業の取組		その他（魅力）		
	0		0		0		70		20		10		
教科書	なし						参考書	「NHK 日本語発声アクセント新辞典(NHK 出版)」					
課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法	毎回の課題に対し、個々への評価及び問題点とその改善案を提案する。												

科目名	ラジオ番組制作演習 I Training of Radio Program creation I							担当者	金子朋未			
開講年度	2020	学年	1	開講期	通年 (前期)	単位数	2	授業 形態	演習	必修・選択 の区分	選択	
授業の 到達目標	声だけで表現する「ラジオ」において、見えないものを想像できるように、適切な言葉で表現できるようになる。 現場の状況に応じた言葉遣い、声色で表現ができるようになる。 ラジオ番組はどのような構成で作られているのか、どのようなテンポで話すのか自主的に聞いて研究し、自分なりのラジオコーナーを作って応用できるようになる。											
授業概要	ラジオ番組で、自分で取材先を見つけ原稿を書き、レポートを行っている教員が、中継先への交渉から、トーク内容の構成まで、その実務経験を活かし、相手と円滑にコミュニケーションを取り、自分が伝えたいことを明確に表現することができるための実践的授業を行う。また、しゃべる際に適した発声方法を指導する。											
授業計画	授業のテーマ							予習内容・時間	復習内容・時間			
	1	発声、ラジオのQシートの見方						ラジオを聴く(30分)	ラジオ番組の構成を復習する(30分)			
	2	発声、マイクの特徴について						発声練習(30分)	聞いたことのないラジオ番組を聴く(30分)			
	3	ラジオCMのやり方						ラジオCMを聴き比べる(30分)	CM原稿を読んで復習する(30分)			
	4	ラジオCM原稿読み(実践)						ラジオCMを聴き比べる(30分)	読み方の改善点をノートに書く(30分)			
	5	フリートークのやり方						ラジオを聴く(30分)	発声練習(30分)			
	6	フリートーク(録音&聞く)						フリートークの内容を決める(30分)	ラジオのフリートークを聴く(30分)			
	7	ラジオでの描写方法						ラジオを聴いて描写方法を研究する(30分)	家にあるものを描写する(30分)			
	8	ラジオでの描写(実践)						録音内容の練習(30分)	授業と別のものを描写する(30分)			
	9	ラジオレポートのやり方(季節ネタ)						ラジオのレポートを聴く(30分)	やってみよう季節ネタを探す(30分)			
	10	ラジオレポートの実践(季節ネタ)						ラジオのレポートを聴く(30分)	レポートの改善点を書き出す(30分)			
	11	ラジオレポートのやり方(お店紹介)						お店の描写方法を考えて書き出す(30分)	自分のレポートの改善点をやり直す(30分)			
	12	ラジオレポートの実践(お店紹介)						発声練習(30分)	自分のレポートの改善点をやり直す(30分)			
	13	ラジオ番組の構成方法						好きなラジオ番組の構成を調べる(30分)	構成を意識しながらラジオを聴く(30分)			
	14	自分でラジオ番組を構成する						構成を意識してラジオを聴く(30分)	自作ラジオの改善点を書き出す(30分)			
	15	自作のラジオ番組を録音する						発声練習(30分)	後期の目標をノートに書く(30分)			
成績評価基準	授業で習った発声方法をどのくらい習得できているか、滑舌良く話せるか実技試験で判断する。 毎回の授業で、ラジオで、見えないものを表現豊かに伝えるための言葉を覚え、選ぶと努めているかどうか、その取り組みの姿勢を評価する。											
成績評価方法 (割合%)	筆記試験		レポート		課題		実技		授業の取組		その他()	
							40		60			
教科書							参考書	適宜紹介する。				
課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法	希望があれば解説の時間を設ける。											

科目名	ラジオ番組制作演習 I Training of Radio Program creation I							担当者	金子朋未				
開講年度	2020	学年	1	開講期	通年 (後期)	単位数	2	授業 形態	演習	必修・選択 の区分	選択		
授業の 到達目標	声だけで表現する「ラジオ」において、見えないものを想像できるように、適切な言葉で表現できるようになる。 現場の状況に応じた言葉遣い、声色で表現ができるようになる。 ラジオ番組はどのような構成で作られているのか、どのようなテンポで話すのか自主的に聞いて研究し、自分なりのラジオコーナーを作って応用できるようになる。												
授業概要	ラジオ番組で、自分で取材先を見つけ原稿を書き、レポートを行っている教員が、中継先への交渉から、トーク内容の構成まで、その実務経験を活かし、相手と円滑にコミュニケーションを取り、自分が伝えたいことを明確に表現することができるための実践的授業を行う。また、しゃべる際に適した発声方法を指導する。												
授業計画	授業のテーマ							予習内容・時間	復習内容・時間				
	1	レポートの構成方法、アポの取り方					ラジオを聴く(30分)		ラジオ番組の構成を書き出し復習する(30分)				
	2	写真の場所に行ったつもりでレポートするやり方					発声練習(30分)		聞いたことのないラジオ番組を聴く(30分)				
	3	写真の場所に行ったつもりでレポートする(録音&聴く)					発声練習(30分)		写真を見てレポートする(30分)				
	4	自分で中継先を決めてレポート(録音)					中継先を決める(30分)		レポートの構成をノートに書き出す(30分)				
	5	自分で中継先を決めてレポート(録音)					ラジオを聴いて描写方法を研究する(30分)		レポートの改善点を書き出す(30分)				
	6	自分で中継先を決めてレポート(聴く)					発声練習(30分)		自分とプロのレポートを聴き比べる(30分)				
	7	自分で中継先を決めてレポート(聴く)					発声練習(30分)		改善点をノートに書き出す(30分)				
	8	販促中継の打ち合わせ方法					ラジオのレポートを聴く(30分)		販促とフリーの違いをノートに書く(30分)				
	9	販促中継の構成方法					ラジオのレポートを聴く(30分)		発声練習(30分)				
	10	販促中継(録音)					発声練習(30分)		自分のレポートの改善点を書き出す(30分)				
	11	販促中継(聴く)					発声練習(30分)		自分のレポートの改善点を書き出す(30分)				
	12	オリジナル番組作りの構成方法					好きなラジオ番組の構成を調べる(30分)		構成を意識しながらラジオを聴く(30分)				
	13	オリジナル番組を構成する					自作ラジオの構成をノートに書く(30分)		自作ラジオの改善点を復習する(30分)				
	14	オリジナル番組(録音)					発声練習(30分)		ラジオを聴く(30分)				
	15	オリジナル番組(聴く)					発声練習(30分)		来年の目標をノートに書く(30分)				
成績評価基準	現場の状況に応じた言葉遣いや声色を選び、使い分けることができているか、構成やテンポは適切か、実技試験で判断する。 毎回の授業で、ラジオで、見えないものを表現豊かに伝えるための言葉を覚え、選ぶと努めているかどうか、その取り組みの姿勢を評価する。												
成績評価方法 (割合%)	筆記試験			レポート			課題		実技		授業の取組		その他()
									40		60		
教科書								参考書	適宜紹介する。				
課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法	希望があれば解説の時間を設ける。												

科目名	PV制作演習							PV-Practioce		担当者	今木 清志 宮谷未知子 実務家教員							
開講年度	2020	学年	2	開講期		通年(前期)		単位数	2	授業形態	演習	必修・選択の区分		専門・選択				
授業の到達目標	学生全員が、映像の企画・演出・出演・撮影・編集に総合的にかかわる事によって、演技者の立場からの景色だけでなく制作全体の立場からの景色を見る能力の質を獲得する。																	
授業概要	テレビドラマの制作現場でプロデューサーとしての実務経験を持つ教員が、その経験を活かし映像制作の企画から演出、撮影や編集の方法を指導する。チームごとにテーマを設定し、テーマに沿った映像作品の制作を行う。																	
授業計画	授業のテーマ							予習内容・時間			復習内容・時間							
	1	オリエンテーション							映像表現に関する本を自由選んで読んでおくこと(30分)			自分の映像に必要な材料を集める(30分)						
	2	グループ分け、企画全体会議																
	3	映像テーマごとの計画1																
	4	映像テーマごとの計画2																
	5	撮影・編集																
	6																	
	7																	
	8																	
	9																	
	10																	
	11																	
	12																	
	13																	
	14		グループごとの作品相互鑑賞会															
15		まとめ																
成績評価基準	チームでの映像制作となるため、それぞれの役割を果たし、チームの映像制作に貢献しているかどうかで判断する。																	
成績評価方法(割合%)	筆記試験			レポート			課題			実技			授業の取組			その他()		
							30						70					
教科書	なし							参考書	「映像演出の教科書」 著書：藍河 兼一 出版：玄光社 MOOK									
課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法	発表した映像作品に対し、講評の時間を設けます。																	

科目名	PV制作演習							PV-Practioce	担当者	今木 清志 宮谷未知子 実務家教員		
開講年度	2020	学年	2	開講期	通年 (後期)	単位数	2	授業 形態	演習	必修・選択 の区分	専門・選択	
授業の 到達目標	学生全員が、映像の企画・演出・出演・撮影・編集に総合的にかかわる事によって、演技者の立場からの景色だけでなく制作全体の立場からの景色を見る能力の質を獲得する。											
授業概要	テレビドラマの制作現場でプロデューサーとしての実務経験を持つ教員が、映像制作の企画から演出、撮影や編集の方法を指導する。チームごとにテーマを設定し、テーマに沿った映像作品の制作を行う。											
授業計画	授業のテーマ								予習内容・時間		復習内容・時間	
	1	オリエンテーション							映像表現に関する本を自由選 んで読んでおくこと(30分)		自分の映像に必要な 材料を集める(30分)	
	2	グループ分け、企画全体会議										
	3	映像テーマごとの計画1										
	4	映像テーマごとの計画2										
	5	撮影・編集										
	6											
	7											
	8								▼ PV、映画等を鑑賞し、映 像の研究すること(30分)			
	9											
	10											
	11											
	12											
	13											
	14	▼ グループごとの作品相互鑑賞会										
15	まとめ											
成績評価基準	チームでの映像制作となるため、それぞれの役割を果たし、チームの映像制作に貢献しているかどうかで判断する。											
成績評価方法 (割合%)	筆記試験		レポート		課題		実技		授業の取組		その他()	
					30				70			
教科書	なし						参考書	「映像演出の教科書」 著書：藍河 兼一 出版：玄光社 MOOK				
課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法	発表した映像作品に対し、講評の時間を設けます。											

科目名	プロジェクト・プランニング Project Planning							担当者	BUI THI THU SANG 今木 清志 宮谷未知子				
	開講年度	2020	学年	1年	開講期	通年 (前期)	単位数		2	授業 形態	演習	必修・選択 の区分	選択
授業の到達目標	この授業は未来教育の手法と呼ばれる「プロジェクト学習」を活用し、学生自身が学びたいことや叶えたい夢を実現させるために様々な段階を想定し、各段階で教員の指導を受けながら自分達で体験し、「生きる心」及び「生きる力」を育成することを目標とする。「プロジェクト学習」を通して、学生が様々な人とコミュニケーションが取れるようになり、あるニーズに応じた企画が立案でき、その内容について明確に説明でき、実施の際に起こった問題を解決できるようになり、最後に自分の成長をまとめるポートフォリオを作成することができる。												
授業概要	前期は「プロジェクト学習」の基本と手法を理解しながら、各自や各チームのプロジェクトを計画する。後期は計画したプロジェクトの実施に向かって、仕事分担や宣伝について学んだ後、プロジェクトの実施の準備や参加者募集を行い、最後に自分の成長を分析する。												
授業計画	授業のテーマ							予習内容・時間		復習内容・時間			
	1	「プロジェクト」とは						将来・夢を説明する (30分)		なぜそうしたいか (30分)			
	2	「プロジェクト学習」の基本						短大でやるべきことをリストアップする(30分)		気になる課題をリストアップする(30分)			
	3	フェーズ①「準備」						短大で解決したい課題を選択する(30分)		課題について調べる(30分)			
	4	ディスカッション						課題解決について調べる(30分)		ディスカッションをまとめる(30分)			
	5	フェーズ②「ビジョン・ゴール」						目的を説明する(30分)		目標を考える(30分)			
	6	ディスカッション						目標を説明する(30分)		目標の確認(30分)			
	7	フェーズ③「計画」						自分のスケジュールを確認する(30分)		計画について考える(30分)			
	8	チームワーク						計画を作成する(30分)		計画を確認する(30分)			
	9	フェーズ④「情報・解決策」						具体的なアイデアを考える(30分)		参加資料を調べる(30分)			
	10	ディスカッション						参加資料をまとめる(30分)		計画を修正する(30分)			
	11	フェーズ⑤「制作」						発表の仕方について考える(30分)		発表の内容をまとめる(30分)			
	12	チームワーク						発表の流れを考える(30分)		発表を工夫する(30分)			
	13	フェーズ⑥「プレゼンテーション」						作品を確認する(30分)		発表の原稿を作成する(30分)			
	14	発表会						リハーサル(30分)		感想を書く(30分)			
15	フェーズ⑦「再構築」						計画の変更について考える(30分)		再構築(30分)				
成績評価基準	学生は最後までやろうとしているかどうか。プロジェクトを進行するため、関係者とコミュニケーションを取っているかどうか。論理性がある企画ができたか。ポートフォリオを作成できたか。												
成績評価方法 (割合%)	筆記試験			レポート			課題		実技		授業の取組		その他()
							50%				50%		
教科書	使用しない						参考書		「プロジェクト学習の基本と手法」 鈴木敏恵著(教育出版)				
課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法	課題とポートフォリオは一週間内にコメントをつけて返却する。												

科目名	プロジェクト・プランニング Project Planning							担当者 BUI THI THU SANG 今木 清志・宮谷未知子					
	開講年度	2020	学年	1年	開講期	通年 (後期)	単位数	2	授業 形態	演習	必修・選択 の区分	選択	
授業の到達目標	この授業は未来教育の手法と呼ばれる「プロジェクト学習」を活用し、学生自身が学びたいことや叶えたい夢を実現させるために様々な段階を想定し、各段階で教員の指導を受けながら自分達で体験し、「生きる心」及び「生きる力」を育成することを目標とする。「プロジェクト学習」を通して、学生が様々な人とコミュニケーションが取れるようになり、あるニーズに応じた企画が立案でき、その内容について明確に説明でき、実施の際に起こった問題を解決できるようになり、最後に自分の成長をまとめるポートフォリオを作成することができる。												
授業概要	前期は「プロジェクト学習」の基本と手法を理解しながら、各自や各チームのプロジェクトを計画する。後期は計画したプロジェクトの実施に向かって、仕事分担や宣伝について学んだ後、プロジェクトの実施の準備や参加者募集を行い、最後に自分の成長を分析する。												
授業計画	授業のテーマ							予習内容・時間		復習内容・時間			
	16	宣伝について						プロジェクトの内容・アピールポイント確認(30分)		宣伝資料作成(30分)			
	17	宣伝資料作成						宣伝資料作成(30分)		宣伝資料作成(30分)			
	18	現状報告・問題対応①						現状確認(30分)		問題解決(30分)			
	19	現状報告・問題対応②						現状確認(30分)		問題解決(30分)			
	20	現状報告・問題対応③						現状確認(30分)		問題解決(30分)			
	21	現状報告・問題対応④						現状確認(30分)		問題解決(30分)			
	22	現状報告・問題対応⑤						現状確認(30分)		問題解決(30分)			
	23	現状報告・問題対応⑥						現状確認(30分)		題解決(30分)			
	24	現状報告・問題対応⑦						現状確認(30分)		問題解決(30分)			
	25	現状報告・問題対応⑧						現状確認(30分)		問題解決(30分)			
	26	ポートフォリオ修正①						授業計画確認(30分)		ポートフォリオ修正(30分)			
	27	ポートフォリオ修正②						ポートフォリオ修正(30分)		ポートフォリオ修正(30分)			
	28	フェーズ⑧「成長確認」						ポートフォリオ修正(30分)		成長報告書作成(30分)			
	29	成長報告書作成②						成長報告書作成(30分)		成長報告書作成(30分)			
	30	ポートフォリオ工夫						ポートフォリオ修正(30分)		ポートフォリオ工夫(30分)			
成績評価基準	学生は最後までやろうとしているかどうか。プロジェクトを進行するため、関係者とコミュニケーションを取っているかどうか。論理性がある企画ができたか。ポートフォリオを作成できたか。												
成績評価方法 (割合%)	筆記試験			レポート			課題		実技		授業の取組		その他()
							50%				50%		
教科書	使用しない						参考書		「プロジェクト学習の基本と手法」 鈴木敏恵著(教育出版)				
課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法	課題とポートフォリオは一週間内にコメントをつけて返却する。												

科目名	オーディション対策 I Practice in Audition I						担当者	川野 聡子 実務家教員					
開講年度	2020	学年	1年	開講期	後期	単位数	1	授業形態	演習	必修・選択の区分	選択		
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・オーディションの内容、対策を考えられるようになる ・内容に合わせ、自己PRがスムーズに出来る様になる ・自己プロデュース能力を高めることができる ・表情・表現力を高めることができるようになる 												
授業概要	プロモデルレッスンコーチがモデルの経験を生かし、芸能界で行われる様々なオーディションに対応できるように、オーディションの内容や役柄に合わせ、自己PR、話し方から実技までを実施します。												
授業計画	授業のテーマ							予習内容・時間		復習内容・時間			
	1	自己紹介					自己紹介文の作成 (30分)		自己紹介文の修正 (30分)				
	2	オーディション基礎① オーディションの内容とした準備					自己紹介の練習 (30分)		目標設定 (30分)				
	3	オーディション基礎② 表情トレーニング・笑顔の表現					表情トレーニング (30分)		笑顔の練習 (30分)				
	4	オーディション基礎③ 表情トレーニング・笑顔の表現					表情トレーニング (30分)		笑顔の練習 (30分)				
	5	オーディション基礎④ 自己PR					自己PRの作成 (30分)		自己PRの修正 (30分)				
	6	オーディション基礎⑤ 自己PR					自己PRの練習 (30分)		自己PRの練習 (30分)				
	7	オーディション基礎⑥ 撮影について					姿勢、表情の見直し (30分)		表情の練習 (30分)				
	8	オーディション基礎⑦ オーディション (演技)					発声練習 (30分)		演技の練習 (30分)				
	9	オーディション基礎⑧ オーディション (演技)					発声練習 (30分)		演技の練習 (30分)				
	10	オーディション基礎⑨ オーディション (演技)					発声練習 (30分)		演技の練習 (30分)				
	11	オーディション基礎⑩ オーディション (演技)					発声練習 (30分)		演技の練習 (30分)				
	12	オーディション基礎⑪ オーディション (演技)					発声練習 (30分)		演技の練習 (30分)				
	13	オーディション基礎⑫ オーディション (撮影)					表情・ポーズの練習 (30分)		表情・ポーズの練習 (30分)				
	14	オーディション基礎⑬ オーディション (撮影)					表情・ポーズの練習 (30分)		表情・ポーズの練習 (30分)				
15	まとめ					自己PRの練習 (30分)		総体的な見直し (30分)					
成績評価基準	実技試験の結果により評価する												
成績評価方法 (割合%)	筆記試験			レポート			課題		実技		授業の取組		その他 ()
									80		20		
教科書	使用しない						参考書		使用しない				
課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法	試験のフィードバックとして、講評や解説の時間を設ける。												

科目名	キャリア研究 I						Career Study I		担当者	高 向 有 理			
開講年度	2020	学年	1	開講期	前期	単位数	1	授業形態	演習	必修・選択の区分	実務・選択		
授業の到達目標	<p>この授業は日本での就職を希望する留学生を対象としています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本企業の雇用システムについて理解し説明することができる。 ・就職活動スケジュールを理解し自分なりの年間予定表を作成することができる。 ・基本的なマナーやコミュニケーションスキルを理解し、ロールプレイで実演できる。 ・履歴書やエントリーシート、志望動機などを日本語で作成することができる。 												
授業概要	日本の就職活動は海外と異なり独特の採用計画と選考方法をとっています。新卒一括採用・合同説明会・エントリーシートなど、留学生にはわかりにくい日本ならではの就職活動について説明します。1年後に始まる就職活動に備えて、自己分析・業界研究・企業研究のしかたを学びます。												
授業計画	授業のテーマ						予習内容・時間		復習内容・時間				
	1	授業の進め方 日本の雇用システムと就活スケジュール					就活ハンドブック該当ページ予習・30分		個人年間スケジュール作成・60分				
	2	外国人の就労について（ビザの種類） 先輩の就職先					就労ビザについて調べる・30分		配布プリントの復習・30分				
	3	業界・業種・企業研究					就活ハンドブック該当ページ予習・30分		興味がある業界と企業を調べて小レポート・30分				
	4	職種研究					就活ハンドブック該当ページ予習・30分		興味がある職種を知らべて小レポート・30分				
	5	グループディスカッション・発表					ディスカッションのテーマ準備・30分		発表内容不足点小レポート・30分				
	6	自己分析・自己PR					就活ハンドブック該当ページ予習・30分		自己分析・PR完成・60分				
	7	発表					発表の準備・60分		発表の不足点小レポート・30分				
	8	履歴書の書き方（PC・手書き）					履歴書準備・60分		履歴書完成・60分				
	9	エントリーシートの書き方（PC）					エントリーシート準備・60分		エントリーシート完成・60分				
	10	マナー①身だしなみ					就活ハンドブック該当ページ予習・30分		身だしなみ不足点小レポート・30分				
	11	マナー②コミュニケーション					就活ハンドブック該当ページ予習・30分		気付き小レポート・30分				
	12	面接①個人					面接準備・30分		面接気付き小レポート・30分				
	13	面接②集団					面接準備・30分		面接気付き小レポート・30分				
	14	面接③グループディスカッション					グループディスカッション準備・60分		GD気付き小レポート・30分				
	15	プレゼンテーション（具体的な就活への取り組み方）					プレゼンテーション準備・120分		授業まとめ・30分				
成績評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・日本企業の雇用システムについて自分の言葉で説明し、自分の就活スケジュールを作成できるか。（小レポート提出） ・履歴書完成とエントリーシートの過去・現在に関する記述が完成しているか。（それぞれ提出） ・マナーを理解し、各種面接に取り組むことができるか。（面接練習） ・自分の不足部分を都度反省し記述できるか。（小レポートおよびまとめレポート） ・具体的な就活への取り組みを発表できるか。（プレゼンテーション） 												
成績評価方法（割合％）	筆記試験			レポート			課題		実技		授業の取組		その他（ ）
							30%				40%		30%
教科書	進路指導部より配布される就職活動ハンドブック						参考書		適宜指示します。				
課題（試験、レポート等）に対するフィードバックの方法	毎回の小レポート、履歴書、エントリーシートは添削して返却しますので、必ず修正してください。面接練習とプレゼンテーションについては授業中にフィードバックします。												

科目名	宣材制作演習 I A Practice for making yourProfile I							担当者	今木 清志 宮谷未知子 実務家教員			
開講年度	2020	学年	1	開講期	前期	単位数	1	授業形態	演習	必修・選択の区分	必修	
授業の到達目標	タレント・モデル・女優・声優の世界で行われる様々なオーディションに対応できるように学生を指導し、学生各個人がオーディションを受ける際に、主催事務所がいかなる新人を求めているのかの判断ができ、相手が興味を持てるような魅力ある自己PRが出来るようになること。											
授業概要	芸能界に入るためには、芸能プロダクションが主催する事務所オーディションに合格ねせばなりません。本学科に開講されている「オーディション対策」「MCトーク」「アナウンスメント」「映像演技」「PV制作演習」「ラジオ番組制作演習」「モデルストリート」「アフレコ」「ダンス表現研究」などと連動した科目であり、テレビドラマの制作現場でプロデューサーとしての実務経験を持つ教員が総合的に魅力ある自己PRができるよう指導します。											
授業計画	授業のテーマ							予習内容・時間		復習内容・時間		
	宣材制作演習 I に於いては、観察・実践を主とする演習を行う。											
	観察	①オーディション情報を調査・収集する。 ②各芸能事務所の傾向を調査する。 ③非常勤講師から各業界の情報を収集する。						(オーディション前) 服装・メイク・言葉遣い・話し方・特技などに関するアドバイスを受け、魅力ある自己PRができるよう研究する。(5時間)		オーディション会場の雰囲気・質問された事柄などを他の学生や後輩へ伝える。(5時間)		
	実践	①入学当初から1か月に一回ずつ、宣材を撮影する。 ②自身や他の学生、それぞれの変化を見届け、服装や表情などへのアドバイスを受ける。						(オーディション後) オーディション会場の雰囲気・質問された事柄などをまとめる。(5時間)				
実務家教員は、各ユニットの自主性を尊重しつつ、適切な助言を与えることとする。												
成績評価基準	本学科の教員が、あたかも芸能事務所の面接官になったとの想定の上で、個人を厳しく評価する。											
成績評価方法(割合%)	筆記試験		レポート		課題		実技		授業の取組		その他()	
							50		50			
教科書	なし						参考書	「可愛く美しく撮るための究極メソッド」 HASEO 著 玄光社				
課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法	オーディション終了後、学生同士でディスカッションをする場を設け、総合的なフィードバックを行う。											

科目名	日本国憲法 Constitution of Japan							担当者	李 鍾 成		
開講年度	2020	学年	2	開講期	後期	単位数	2	授業形態	講義	必修・選択の区分	選択
授業の到達目標	①日本国憲法に関する基本的知識を多角的に習得すること。 ②日本国憲法に基づいた、国民の権利と政府の役割について理解すること。										
授業概要	総論、人権論、統治機構論という、憲法学を構成する三つの要素について、主に人権論を中心に授業を行います。また、メディア・プロモーション学を学ぶ学生にとって必要な表現の自由について学びます。その際、我々の生活にかかわる身近な事例を取り上げることで、理論と実践の両方について学習します。										
授業計画	授業のテーマ							予習内容・時間	復習内容・時間		
	1	ガイダンス					憲法講義テーマに関連する新聞記事の熟読 (2時間)	配布プリントの再読 (2時間)			
	2	憲法とは何か					憲法講義テーマに関連する新聞記事の熟読 (2時間)	配布プリントの再読 (2時間)			
	3	民主主義における憲法					憲法講義テーマに関連する新聞記事の熟読 (2時間)	配布プリントの再読 (2時間)			
	4	人権の享有主体					憲法講義テーマに関連する新聞記事の熟読 (2時間)	配布プリントの再読 (2時間)			
	5	象徴天皇制					憲法講義テーマに関連する新聞記事の熟読 (2時間)	配布プリントの再読 (2時間)			
	6	日本国憲法の三大原理 (国民主権・基本的人権の尊重・平和主義)					憲法講義テーマに関連する新聞記事の熟読 (2時間)	配布プリントの再読 (2時間)			
	7	法の下の平等					憲法講義テーマに関連する新聞記事の熟読 (2時間)	配布プリントの再読 (2時間)			
	8	幸福追求権、自己決定権					憲法講義テーマに関連する新聞記事の熟読 (2時間)	配布プリントの再読 (2時間)			
	9	人権の分類 (自由権・社会権・参政権・国務請求権)					憲法講義テーマに関連する新聞記事の熟読 (2時間)	配布プリントの再読 (2時間)			
	10	思想良心の自由、表現の自由、信教の自由					憲法講義テーマに関連する新聞記事の熟読 (2時間)	配布プリントの再読 (2時間)			
	11	経済的自由権、身体的自由権					憲法講義テーマに関連する新聞記事の熟読 (2時間)	配布プリントの再読 (2時間)			
	12	社会権、生存権					憲法講義テーマに関連する新聞記事の熟読 (2時間)	配布プリントの再読 (2時間)			
	13	教育を受ける権利、労働基本権					憲法講義テーマに関連する新聞記事の熟読 (2時間)	配布プリントの再読 (2時間)			
	14	三権分立 (国会・内閣・裁判所)					憲法講義テーマに関連する新聞記事の熟読 (2時間)	配布プリントの再読 (2時間)			
	15	まとめ					憲法講義テーマに関連する新聞記事の熟読 (2時間)	配布プリントの再読 (2時間)			
成績評価基準	成績は、①日本国憲法に関する基本的知識を多角的に習得しているかどうか、②日本国憲法に基づいた、国民の権利と政府の役割について理解しているかどうか、の二点から評価します。										
成績評価方法 (割合%)	筆記試験	レポート	課題	実技	授業の取組	その他 ()					
	80				20						
教科書	プリントを配布します。					参考書	斎藤一久・堀口悟郎『図録日本国憲法』(弘文堂、2018年)。				
課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法	課題についての解説の時間を設けます。										

2年

科目名	社会学							Sociology		担当者	木下宏一		
開講年度	2020	学年	2	開講期	後期	単位数	2	授業形態	講義	必修・選択の区分	選択		
授業の到達目標	<p>一、社会学的なものの方・考え方を身に付け、それを論理的かつ明快な文章で表現出来るようになる。 二、社会学の基礎的な知識を習得し、その意義と目的性を系統立てて説明出来るようになる。 三、現代日本社会が抱える諸問題に自分なりの見解を持ち、それを他者と「共有可能」な言葉で議論出来るようになる。</p>												
授業概要	<p>社会学は、現代の「社会 (Society)」における様々な問題や集団の現象の本質を「どのようにとらえるか」を学ぶもので、遠からず「社会人」となる皆さんにとって必要不可欠な素養です。授業では、社会学の重要なテーマ(文明、情報化社会、現代人の死生観、優生学、脳死、宗教、正義、戦争、権力、労働、等々)を毎回一つずつ取り上げます。具体的には、パワーポイントを使用し、スライドに沿って講義を進めます。理解を深めるため、随時その回のテーマに関連した歴史映像や映画の一場面をDVDで鑑賞します。また習熟度を確認するため、第10回目に中間試験を実施します。</p>												
授業計画	授業のテーマ							予習内容・時間		復習内容・時間			
	1	政治学とは何か					インターネットで「社会学」を検索し大体の概要をつかんでおく(2時間)		ノートの整理(2時間)				
	2	日本政治史概観					前回の授業の終わりで指示された参考図書の熟読(2時間)		ノートの整理(2時間)				
	3	中国政治史概観					前回の授業の終わりで指示された参考図書の熟読(2時間)		ノートの整理(2時間)				
	4	欧米政治史概観					前回の授業の終わりで指示された参考図書の熟読(2時間)		ノートの整理(2時間)				
	5	独裁者の論理と心理、小テスト					前回の授業の終わりで指示された参考図書の熟読(2時間)		ノートの整理(2時間)				
	6	20世紀の政治体制① 第一次世界大戦まで					前回の授業の終わりで指示された参考図書の熟読(2時間)		ノートの整理(2時間)				
	7	20世紀の政治体制② ファシズムの台頭					前回の授業の終わりで指示された参考図書の熟読(2時間)		ノートの整理(2時間)				
	8	20世紀の政治体制③ 共産主義の伸長					前回の授業の終わりで指示された参考図書の熟読(2時間)		ノートの整理(2時間)				
	9	20世紀の政治体制④ 第二次世界大戦以降					前回の授業の終わりで指示された参考図書の熟読(2時間)		ノートの整理(2時間)				
	10	ユートピアとディストピア、小テスト					前回の授業の終わりで指示された参考図書の熟読(2時間)		ノートの整理(2時間)				
	11	政治責任と戦争責任—ニュルンベルク裁判と東京裁判					前回の授業の終わりで指示された参考図書の熟読(2時間)		ノートの整理(2時間)				
	12	政治学と哲学—M・ハイデガーの場合					前回の授業の終わりで指示された参考図書の熟読(2時間)		ノートの整理(2時間)				
	13	日本的社会と政治、小テスト					前回の授業の終わりで指示された参考図書の熟読(2時間)		ノートの整理(2時間)				
	14	現代日本政治の課題と展望					前回の授業の終わりで指示された参考図書の熟読(2時間)		ノートの整理(2時間)				
	15	まとめ、期末試験					前回の授業の終わりで指示された参考図書の熟読(2時間)		ノートの整理(2時間)				
成績評価基準	<p>まず、中間試験として課すレポート(社会性を持った映像作品を鑑賞し、その感想を書く)において、社会学的なものの方・考え方が論述のなかに反映されているかを評価します。その上で、期末試験(筆記試験、ノートのみ持ち込み可)において、社会学の基礎的な知識がどれだけ習得出来ているか、社会学の意義と目的性をきちんと理解出来ているかを評価します。</p>												
成績評価方法(割合%)	筆記試験			レポート			課題		実技		授業の取組		その他()
	60%			40%									
教科書	使用しない。					参考書		毎回授業の終わりに、次の回までに読んでおくべき参考図書を指示します。					
課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法	<p>中間試験(レポート)については、次の回(第11回)の冒頭で講評します。</p>												

科目名	英会話 I English conversation class 1st semester							担当者	Sato Chiristel			
開講年度	2020	学年	2	開講期	前期	単位数	1	授業形態	演習	必修・選択の区分	選択	
授業の到達目標	Students develop confidence and fluency as they try to improve their English skills. Students will learn to ask questions to be able to interact with others about various subjects. Students will learn to answer in complete sentences, and carry on a conversation with others.											
授業概要	To improve English skills students will be using fun & lively exercises & fluency-building activities. Students will learn phrases that are often found in English conversations & develop vocabulary. Students should learn to have a simple conversation with a foreigner. They should learn to speak about themselves, their hobbies, talents, dreams, plans for their.											
授業計画	授業のテーマ							予習内容・時間		復習内容・時間		
	1	Class introduction, Meeting & Greeting People (Unit 1)					Short introduction Family, Plans, Hobbies (1 h)					
	2	Present Tense Questions & Answers (Unit 1)					Write 3 sentences in Present Tense (pg.4) (1 h)					
	3	Past Tense Questions & Answers, Showing interest (Unit 2)					Write 3 sentences in Past Tense (pg.8) (1 h)					
	4	Talking about the Past (Unit 2)					Fill out the questions on pg.11 (1 h)					
	5	Expressing Frequency, Talking about News (Unit 3)					Use the words always, often, never in a sentence (pg.14) (1 h)					
	6	Using "How ... ?" Questions (Unit 3)					Write 3 sentences using 'How' (pg.16) (1 h)					
	7	Making Plans, Saying no to Invitations (Unit 4)					Invite a friend to a party, pls write an invitation (1 h)					
	8	Talking about Activities (Unit 4)					Talk about an activity you enjoy (1 h)					
	9	Expressing likes and Dislikes (Unit 5)					Write about 2 dishes you like to cook (1 h)					
	10	Ordering in a Restaurant (Unit 5)					Fill out the questions on pg.29 (1 h)					
	11	Future Tense Questions & Answers, Agreeing & Disagreeing (Unit 6)					Talk about a plan for the future (1 h)					
	12	Expressing certainty & Uncertainty (Unit 6)					Study the word Bank on pg.36 (1 h)					
	13	Talking about Location (Unit 7)/Review for the test					Explain the route from your home to school (1 h)					
	14	Written/Verbal Test					Review for your test (1 h)					
	15	return test results, answer questions learn a song					write down questions you have (1 h)					
成績評価基準	・ Tests, check their written homework & papers they write in class. ・ I let them work in pairs (2-3 people) & 'perform', I will ask them questions in class.											
成績評価方法 (割合%)	筆記試験	レポート	課題	class notes	実技	授業の取組	その他 (Homework)					
	30%		10%		40%	10%	10%					
教科書	Classbook : "Take it Easy" by Herman Bartelen					参考書 Reference book	occasionally extra work or grammarsheets (dependant on the students needs)					
課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法	I correct spelling, grammar & if writing is original (witty) I reward the test / report / or any other writings with an extra point.											

科目名	英会話Ⅱ English conversation class 2nd semester							担当者	Sato Christel			
開講年度	2020	学年	2	開講期	後期	単位数	1	授業形態	演習	必修・選択の区分	選択	
授業の到達目標	Students develop confidence & fluency as they try to ask & answer questions, talk about themselves, their habits & customs & plans & asking questions in class.											
授業概要	We will improve English skills using fun & lively exercises & activities & work in small teams. Students should feel confident to ask questions & answers them in English, will learn to express opinions, discuss, events & learn storytelling.											
授業計画	授業のテーマ							予習内容・時間		復習内容・時間		
	1	Entertainment Asking for & giving information (Unit 8)					Answer, the question What do you do for entertainment? (1 h)					
	2	Staying Healthy Describing Routines (Unit 9)					Answers the question on paper & What do you do to stay healthy? (1 h)					
	3	Using Numbers Giving Instructions (Unit 9)					Fill out the Questions on pg.53(1 h)					
	4	Describing People (Unit 10)					Describe one of your family members? (1 h)					
	5	Describing Personality (Unit 10)					Fill out the questions on pg.59 (1 h)					
	6	Storytelling Past Progressive Tense Questions (Unit 11)					What were you doing on the weekend? (1 h)					
	7	Reacting to Events (Unit 11)					Describe an event when you felt excited (1 h)					
	8	Telling stories (Unit 11)					Prepare a short story (1 h)					
	9	Asking for and giving Advice (Unit 12)					What do you think about your environment (read pg.67) (1 h)					
	10	Expression Opinions (Unit 12)					What do you think about iphones in class (1 h)					
	11	Discussing Issues (Unit 12)					Study the word bank on pg.72 (1 h)					
	12	Practice test					Prepare / review for you test (1 h)					
	13	Writing personal stories					Write a short story about your childhood (1 h)					
	14	Test					Review (1 h)					
15	Return tests & answers questions, learn a song					If you have questions pls write them down (1 h)						
成績評価基準												
成績評価方法 (割合%)	筆記試験		レポート		課題		実技		授業の取組		その他 ()	
	30%				10%		40%		10%		10%	
教科書	Classbook: "Take it Easy" by Herman Bartelen					参考書	occasionally extra work or grammarsheets (dependant on the students needs)					
課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法	I correct spelling, grammar & if writings are original (witty) I reward the test / report / or any other writings with an extra point.											

科目名	中国語 I							Chinese	担当者	藤井芳子		
開講年度	2020	学年	2	開講期	前期	単位数	1	授業形態	演習	必修・選択の区分	選択	
授業の到達目標	中国の文化や歴史に興味を持つ。日本語とは異なる漢字（簡体字）を正確に知り、正しい文字を書く事により、筆談ができる様にする。 文字を書くだけでなく、正しい発音ができ、聴き取りもできる事を目標とする。											
授業概要	中国語でコミュニケーションを取る為に、必要な事を学ぶ。 中国旅行をして会話を楽しんだり、将来の仕事に生かせる様、又、検定受験も視野に入れて学ぶ。											
授業計画	授業のテーマ							予習内容・時間	復習内容・時間			
	1	オリエンテーション（中国について）						テキストに目を通す（2時間10分）	中国の文化・歴史（2時間10分）			
	2	第1課（中国語の基本を知る）						テキストに目を通す（2時間10分）	四声（2時間10分）			
	3	自分の氏名の中国語読みを知る						テキストに目を通す（2時間10分）	母音（2時間10分）			
	4	第2課（発音の基礎）						テキストに目を通す（2時間10分）	子音（2時間10分）			
	5	第3課（数を学ぶ）						テキストに目を通す（2時間10分）	声調符号の記入（2時間10分）			
	6	簡単なあいさつについて						自分の氏名を言う練習（2時間10分）	あいさつを覚える（2時間10分）			
	7	第4課（自己紹介の練習）						自分の氏名を言う練習（2時間10分）	課題提出①（2時間10分）			
	8	第5課（疑問詞について）						テキストに目を通す（2時間10分）	提出物の訂正（2時間10分）			
	9	第6課（年齢・日付の練習）						テキストに目を通す（2時間10分）	課題提出②（2時間10分）			
	10	第7課（指示代名詞について）						テキストに目を通す（2時間10分）	提出物の訂正（2時間10分）			
	11	第8課（時間と量詞について）						テキストに目を通す（2時間10分）	課題提出③（2時間10分）			
	12	第9課（前置詞、通貨について）						テキストに目を通す（2時間10分）	提出物の訂正（2時間10分）			
	13	第10課（完了の「了」と文末の「了」）						テキストに目を通す（2時間10分）	前期の復習（2時間10分）			
	14	前期総復習						疑問点を確認（2時間10分）	前期の復習（2時間10分）			
	15	期末試験										
成績評価基準	①課題（練習問題）の提出と間違い箇所の訂正をきちんとする。 ②正しい発音で、中国語が読める。 ③簡単な会話ができ、聴き取りができる。											
成績評価方法（割合％）	筆記試験	レポート	課題	実技	授業の取組	その他（ ）						
	（期末）50％		（提出物）30％	（発声）10％	（態度）10％							
教科書	中国語への道（株金星堂一近きより遠きへ）					参考書	簡体字練習帳（アスク出版）					
課題（試験、レポート等）に対するフィードバックの方法	与えられた課題のプリントに記入の上、提出する。 採点・訂正されたプリントの見直しと、再提出により、確実に習得する。											

科目名	中国語Ⅱ							Chinese	担当者	藤井芳子		
開講年度	2020	学年	2	開講期	後期	単位数	1	授業形態	演習	必修・選択の区分	選択	
授業の到達目標	中国の文化や歴史に興味を持つ。日本語とは異なる漢字（簡体字）を正確に知り、正しい文字を書く事により、筆談ができる様にする。 文字を書くだけでなく、正しい発音ができ、聞き取りもできる事を目標とする。											
授業概要	中国語でコミュニケーションを取る為に必要な事を学ぶ。 中国旅行をして会話を楽しんだり、将来の仕事に生かせる様、又、検定受験も視野に入れて学ぶ。											
授業計画	授業のテーマ							予習内容・時間	復習内容・時間			
	1	前期の復習						テキストに目を通す（2時間10分）	期末試験見直し（2時間10分）			
	2	四声とピンインの練習						テキストに目を通す（2時間10分）	発音練習（2時間10分）			
	3	第10課の復習（長文を読む）						テキストに目を通す（2時間10分）	課題提出①（2時間10分）			
	4	第11課（文法を学ぶ）						テキストに目を通す（2時間10分）	提出物の訂正（2時間10分）			
	5	第12課（文法を学ぶ）						テキストに目を通す（2時間10分）	文法の復習（2時間10分）			
	6	自己紹介の練習						自分の名前の発音練習（2時間10分）	発音練習（2時間10分）			
	7	第13課（文法を学ぶ）						テキストに目を通す（2時間10分）	課題提出②（2時間10分）			
	8	長文を読む練習						テキストに目を通す（2時間10分）	提出物の訂正（2時間10分）			
	9	第14課（文法を学ぶ）						テキストに目を通す（2時間10分）	課題提出③（2時間10分）			
	10	長文を読む練習						テキストに目を通す（2時間10分）	提出物の訂正（2時間10分）			
	11	第15課（文法を学ぶ）						テキストに目を通す（2時間10分）	発音練習（2時間10分）			
	12	第16課（文法を学ぶ）						テキストに目を通す（2時間10分）	発音練習（2時間10分）			
	13	発展練習問題（難しい問題をやる）						発展問題に挑戦（2時間10分）	後期の復習（2時間10分）			
	14	後期総復習						疑問点を確認（2時間10分）	後期の復習（2時間10分）			
15	期末試験											
成績評価基準	①課題（練習問題）の提出と間違い箇所の訂正をきちんとする。 ②正しい発音で中国語が読める ③簡単な会話ができ、聞き取りができる。											
成績評価方法（割合）	筆記試験	レポート	課題	実技	授業の取組	その他（ ）						
	（期末）50%		（提出物）30%	（発声）10%	（態度）10%							
教科書	中国語への道（榎金星堂一近きより遠きへ）						参考書	簡体字練習帳（アスク出版）				
課題（試験、レポート等）に対するフィードバックの方法	与えられた課題のプリントに記入の上、提出する。 採点・訂正されたプリントの見直しと、再提出により、確実に習得する。											

科目名	茶道文化Ⅱ Culture of Tea Ceremony Ⅱ							担当者	石川 嘉子 実務家教員			
開講年度	2020	学年	2	開講期	前期	単位数	1	授業形態	演習	必修・選択の区分	選択	
授業の到達目標	もてなす側と客が更に感謝の心を身につけるようになる 日本の伝統茶道が日常生活に役に立つことに気づくようになる 礼儀正しくなる											
授業概要	千利休の教え 和・お互い同志が仲良く和し合うこと 敬・尊敬の敬でお互い同志が敬い合い自らを慎むこと 清・清らかという意味見た目だけではなく心の清らかさをさします 寂・どんな時にも動じない心のこと											
授業計画	授業のテーマ							予習内容・時間		復習内容・時間		
	1	運び薄茶点前（前半）まで（風炉） 花と花入					帛紗たたみ方 30分		帛紗たたみ方 30分			
	2	運び薄茶点前（前半）まで（風炉） 花と花入					帛紗たたみ方 30分		帛紗たたみ方 30分			
	3	運び薄茶点前（前半）まで（風炉） 花と花入					帛紗たたみ方 30分		帛紗たたみ方 30分			
	4	運び薄茶点前（前半）まで（風炉） 終了まで 花と花入					帛紗たたみ方 30分		帛紗たたみ方 30分			
	5	運び薄茶点前（前半）まで（風炉） 終了まで 花と花入					帛紗たたみ方 30分		帛紗たたみ方 30分			
	6	運び薄茶点前（炉） 道具の位置 花と花入					帛紗たたみ方 30分		帛紗たたみ方 30分			
	7	運び薄茶点前（炉） 道具の位置 花と花入					帛紗たたみ方 30分		帛紗たたみ方 30分			
	8	運び薄茶点前（炉） 道具の位置 花と花入					帛紗たたみ方 30分		帛紗たたみ方 30分			
	9	運び薄茶点前 点前の前半まで 花と花入					帛紗たたみ方 30分		帛紗たたみ方 30分			
	10	運び薄茶点前 点前の前半まで 花と花入					帛紗たたみ方 30分		帛紗たたみ方 30分			
	11	運び薄茶点前 点前の前半まで 花と花入					帛紗たたみ方 30分		帛紗たたみ方 30分			
	12	運び薄茶点前 点前の終了まで 花と花入					帛紗たたみ方 30分		帛紗たたみ方 30分			
	13	運び薄茶点前 点前の終了まで 花と花入					帛紗たたみ方 30分		帛紗たたみ方 30分			
	14	薄茶点前（炉） 棚の説明・扱い方 花と花入					帛紗たたみ方 30分		帛紗たたみ方 30分			
	15	薄茶点前（炉） お茶会形式で仕上げます					帛紗たたみ方 30分		帛紗たたみ方 30分			
成績評価基準	実技を40% 授業の取組を60%											
成績評価方法（割合%）	筆記試験	レポート	課題	実技	授業の取組	その他（ ）						
				40	60							
教科書	帛紗セット一式 約¥3,700					参考書	「裏千家茶道」 千宗室・千支室監修 (学校茶道教本編集委員会)					
課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法	裏千家「学校茶道つどいの茶会」等の参加を目標とする											

科目名	上級読解 I Advanced reading comprehension I							担当者	井上理恵子 早水昌子			
開講年度	2020	学年	2	開講期	2020年度 前期	単位数	1	授業 形態	演習	必修・選択 の区分	基礎・選択	
授業の 到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・文の中身や骨組み、あとに続く内容などについて判断し、文章を理解するために応用することができる。 ・未習単語や専門用語のある文章でも諦めずに、類推して読むことができる。 ・文章の内容を系統立てて理解し、内容を理解する上で必要な情報を汲み取ることができる。 ・日本語能力試験を目標とした読解力を習得することで、正確に、速く、日本語の文章を読むことができる。 											
授業概要	日本語能力試験のN2～N1レベルを目標とした読解力を上げるための練習を行います。ポイント別学習や模擬問題での練習を行うことで、日本語能力試験の読解を解くために必要な読解力を学び、最終的な実力につながるように対策を行います。授業は課題のプリントの解説を主に行うため、予習として課題を解いた上で授業を受け、授業の内容を覚えているうちに復習を行って、次回の課題に取り組みようにしてください。課題を忘れること、プリントを忘れることなどがないように自己管理を行ってください。											
授業計画	授業のテーマ							予習内容・時間	復習内容・時間			
	1	授業の進め方、内容理解短文・中文N2						科目内容の確認 (30分)	授業内容の復習 (30分)			
	2	内容理解短文・中文N2						課題プリント2枚 (30分)	授業内容の復習 (30分)			
	3	内容理解短文・中文N2						課題プリント2枚 (30分)	授業内容の復習 (30分)			
	4	内容理解中文・統合理解N2						課題プリント2枚 (30分)	授業内容の復習 (30分)			
	5	主張理解・情報検索N2						課題プリント2枚 (30分)	授業内容の復習 (30分)			
	6	主張理解・情報検索N2						課題プリント2枚 (30分)	授業内容の復習 (30分)			
	7	内容理解短文・中文N1						課題プリント2枚 (30分)	授業内容の復習 (30分)			
	8	内容理解短文・中文N1						課題プリント2枚 (30分)	授業内容の復習 (30分)			
	9	内容理解短文・中文N1						課題プリント2枚 (30分)	授業内容の復習 (30分)			
	10	内容理解中文・長文N1						課題プリント2枚 (30分)	授業内容の復習 (30分)			
	11	模擬試験						模擬試験についての予習 (30分)	模擬試験についての復習 (30分)			
	12	模擬試験フィードバック・解説						課題プリント2枚 (30分)	授業内容の復習 (30分)			
	13	内容理解長文・統合理解・主張理解・情報検索N1						課題プリント2枚 (30分)	授業内容の復習 (30分)			
	14	統合理解・主張理解・情報検索N1						課題プリント2枚 (30分)	授業内容の復習 (30分)			
15	まとめ						まとめについての予習 (30分)	まとめについての復習 (30分)				
成績評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・文章を理解するために、文の中身や骨組み、あとに続く内容などについて判断することの応用ができ、自分の意見や見解を述べることができる。 ・未習単語や専門用語のある文章でも諦めずに読むことができ、類推して内容を正しく理解することができる。 ・試験のときは、速く正確に試験時間内に問題を解き終わり、自主的に確認作業を行うことができる。 											
成績評価方法 (割合%)	筆記試験	レポート	課題	実技	授業の取組	その他 ()						
	40	0	30	0	30	0						
教科書	プリントを配布する。						参考書	日本語能力試験N1、N2試験に出る読解				
課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法	課題のプリントは、次の授業時に解説する。理解度を確かめるために適宜小テストを実施し、2週間以内に添削して返却する。											

科目名	上級読解Ⅱ Advanced reading comprehension Ⅱ							担当者	井上理恵子 早水昌子			
開講年度	2020	学年	2	開講期	2020年度 後期	単位数	1	授業 形態	演習	必修・選択 の区分	基礎・選択	
授業の 到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・文の中身や骨組み、あとに続く内容などについて判断し、文章を理解するために応用することができる。 ・未習単語や専門用語のある文章でも諦めずに、類推して読むことができる。 ・文章の内容を系統立てて理解し、内容を理解する上で必要な情報を汲み取ることができる。 ・日本語能力試験を目標とした読解力を習得することで、正確に、速く、日本語の文章を読むことができる。 											
授業概要	日本語能力試験のN2～N1レベルを目標とした読解力を上げるための練習を行います。ポイント別学習や模擬問題での練習を行うことで、日本語能力試験の読解を解くために必要な読解力を学び、最終的な実力につながるように対策を行います。授業は課題のプリントの解説を主に行うため、予習として課題を解いた上で授業を受け、授業の内容を覚えているうちに復習を行って、次の課題に取り組みようにしてください。課題を忘れること、プリントを忘れることなどがないように自己管理を行ってください。											
授業計画	授業のテーマ							予習内容・時間	復習内容・時間			
	1	授業の進め方、内容理解中文N2／短文N1							科目内容の確認 (30分)	授業内容の復習 (30分)		
	2	内容理解中文N2／短文N1							課題プリント2枚 (30分)	授業内容の復習 (30分)		
	3	内容理解中文N2／短文N1							課題プリント2枚 (30分)	授業内容の復習 (30分)		
	4	内容理解中文N2／短文・中文N1							課題プリント2枚 (30分)	授業内容の復習 (30分)		
	5	内容理解中文・長文N1							課題プリント2枚 (30分)	授業内容の復習 (30分)		
	6	内容理解中文・長文N1							課題プリント2枚 (30分)	授業内容の復習 (30分)		
	7	内容理解中文・長文・統合理解N1							課題プリント2枚 (30分)	授業内容の復習 (30分)		
	8	統合理解・主張理解N1							課題プリント2枚 (30分)	授業内容の復習 (30分)		
	9	統合理解・主張理解N1							課題プリント2枚 (30分)	授業内容の復習 (30分)		
	10	主張理解・情報検索N1							課題プリント2枚 (30分)	授業内容の復習 (30分)		
	11	模擬試験							模擬試験についての予習 (30分)	模擬試験についての復習 (30分)		
	12	模擬試験フィードバック・解説							課題プリント2枚 (30分)	授業内容の復習 (30分)		
	13	情報検索N1・日本語能力試験対策まとめ							課題プリント2枚 (30分)	授業内容の復習 (30分)		
	14	情報検索N1・日本語能力試験対策まとめ							課題プリント2枚 (30分)	授業内容の復習 (30分)		
15	まとめ							まとめについての予習 (30分)	まとめについての復習 (30分)			
成績評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・文章を理解するために、文の中身や骨組み、あとに続く内容などについて判断することの応用ができ、自分の意見や見解を述べることができる。 ・未習単語や専門用語のある文章でも諦めずに読むことができ、類推して内容を正しく理解することができる。 ・試験のときは、速く正確に試験時間内に問題を解き終わり、自主的に確認作業を行うことができる。 											
成績評価方法 (割合%)	筆記試験	レポート	課題	実技	授業の取組	その他 ()						
	40	0	30	0	30	0						
教科書	プリントを配布する。							参考書	日本語能力試験N1、N2試験に出る読解			
課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法	課題のプリントは、次の授業時に解説する。理解度を確かめるために適宜小テストを実施し、2週間以内に添削して返却する。											

科目名	検定文法Ⅱ-A Grammar for Certification Test Ⅱ-A							担当者	高 藤 純 子 早 水 昌 子			
開講年度	2020	学年	2	開講期	前期	単位数	1	授業形態	演習	必修・選択の区分	選択	
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 日本語能力検定試験N2の合格 N2文法を使って、正しい文を作り、積極的にコミュニケーションができるレベルに到達する。 よく似た文法を比較し、正しく説明できるようにする。 聴解、読解に使われている文法を抜き出し、応用可能な範囲を広げる。 											
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> 週1回の授業で新規文型4～5つ、復習の文型を2,3つ取り上げ、接続の形・基本的な意味の理解を深める。 聴解・読解に実際に問題として使われている文法項目を抜き出し、テスト出題の具体例を確認するなどの工夫を行う 											
授業計画	授業のテーマ							予習内容・時間	復習内容・時間			
	1	第7週1日目						7週1日目の予習30分	7週1日目の復習30分			
	2	第7週2日目						7週2日目の予習30分	7週2日目の復習30分			
	3	第7週3日目						7週3日目の予習30分	7週3日目の復習30分			
	4	第7週4日目						7週4日目の予習30分	7週4日目の復習30分			
	5	第7週5日目						7週5日目の予習30分	7週5日目の復習30分			
	6	第8週1日目						8週1日目の予習30分	8週1日目の復習30分			
	7	第8週2日目						8週2日目の予習30分	8週2日目の復習30分			
	8	第8週3日目						8週3日目の予習30分	8週3日目の復習30分			
	9	第8週4日目						8週4日目の予習30分	8週4日目の復習30分			
	10	第8週5日目						8週5日目の予習30分	8週5日目の復習30分			
	11	模擬テスト						9週目の予習30分	7. 8週の復習30分			
	12	第9週1日目						9週1日目の予習30分	9週1日目の復習30分			
	13	第9週2,3日目						9週2. 3日目の予習30分	9週2. 3日目の復習30分			
	14	第9週4,5日目						9週4. 5日目の予習30分	9週4. 5日目の復習30分			
15	総復習						7週～9週の予習30分	総復習				
成績評価基準	<ul style="list-style-type: none"> 期末テストで6割以上、毎回の小テストでは8,9割の定着を目指す。 授業中は学生の積極的な発言を評価する。 											
成績評価方法(割合%)	筆記試験	レポート	課題	実技	授業の取組	その他						
	40%		30%		30%							
教科書	45日で基礎からわかるN2文法総まとめ						参考書					
課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法	毎回、復習の小テストを実施、間違いの多かった問題を取り上げ、再度フィードバックする。											

科目名	検定文法Ⅱ-B Grammar for Certification Test Ⅱ-B							担当者	高藤純子 早水昌子			
開講年度	2020	学年	2	開講期	後期	単位数	1	授業形態	演習	必修・選択の区分	基礎・選択	
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・正しく聞く、読む、話す、書くための基礎として文法を勉強し、必要な情報を受け取ったり、自分の言いたいことを相手に伝えたりするために、文法を使用することができる。 ・前置詞、接続詞などを含む文法の表現を繰り返し練習することで、実力をつけ、使いこなせるようになることで、日本語を理解し、表現することができる。 ・文法を整理して理解し、日本語の正しい運用を行うことができる。 											
授業概要	日本語能力試験のN2を含むN1レベルの文法を理解して正しく運用することを目標とした練習を行います。N2～N1レベルの文法や、前置詞・接続詞などをあわせて学ぶことで、日本語能力試験の文法の問題を解くために必要な表現などを学び、最終的な実力につながるように対策を行います。授業は課題を予習した上で受け、授業の内容を覚えているうちに復習を行って、次の課題に取り組むようにしてください。課題を忘れること、プリントを忘れることなどがないように自己管理を行ってください。											
授業計画	授業のテーマ							予習内容・時間		復習内容・時間		
	1	授業の進め方、耳から覚える文法トレーニングUnit01、TRY!					科目内容の確認 (30分)		第1回の復習(30分)			
	2	耳から覚える文法トレーニングUnit02、TRY!					授業内容の予習 (30分)		第2回の復習(30分)			
	3	耳から覚える文法トレーニングUnit03、TRY!					授業内容の予習 (30分)		第3回の復習(30分)			
	4	耳から覚える文法トレーニングまとめ1、TRY!					授業内容の予習 (30分)		第4回の復習(30分)			
	5	耳から覚える文法トレーニングUnit04、TRY!					授業内容の予習 (30分)		第5回の復習(30分)			
	6	耳から覚える文法トレーニングUnit05、TRY!					授業内容の予習 (30分)		第6回の復習(30分)			
	7	耳から覚える文法トレーニングUnit06、TRY!					授業内容の予習 (30分)		第7回の復習(30分)			
	8	耳から覚える文法トレーニングまとめ2、TRY!					授業内容の予習 (30分)		第8回の復習(30分)			
	9	耳から覚える文法トレーニングUnit07、TRY!					授業内容の予習 (30分)		第9回の復習(30分)			
	10	耳から覚える文法トレーニングUnit 8、TRY!					授業内容の予習 (30分)		第10回の復習(30分)			
	11	模擬試験					模擬試験についての予習 (30分)		模擬試験についての復習 (30分)			
	12	模擬試験フィードバック・解説					授業内容の予習 (30分)		第12回の復習(30分)			
	13	耳から覚える文法トレーニングUnit 9、TRY!					授業内容の予習 (30分)		第13回の復習(30分)			
	14	耳から覚える文法トレーニングまとめ3、TRY!					授業内容の予習 (30分)		第14回の復習(30分)			
15	まとめ					まとめについての予習 (30分)		まとめについての復習 (30分)				
成績評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・日本語を正しく運用するための文法を学び、理解することで、使用場面などを意識した日本語に応用し、文法を選択することができる。 ・表現の練習を繰り返し行うことで、自らの実力につなげ、文法の使用を正しく行うことができる。 ・基礎の枠組みとしての文法を把握し、理解した上で、文法の表現の操作を行うことができる。 											
成績評価方法(割合%)	筆記試験		レポート		課題		実技		授業の取組		その他()	
	40		0		30		0		30		0	
教科書	プリントを配布する。					参考書		<ul style="list-style-type: none"> ・耳から覚える日本語能力試験文法トレーニングN2 ・TRY! N2、N1 				
課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法	理解度を確かめるために適宜小テストを実施し、2週間以内に添削して返却する。											

科目名	検定文字語彙Ⅱ-A							Vocabralies		担当者	高藤純子 永吉美知子			
開講年度	2020	学年	2	開講期	前期	単位数	1	授業形態	演習	必修・選択の区分	選択			
授業の到達目標	1 日本語能力試験N2レベルの語彙を習得して、N2に合格する 2 N2レベルで使われる語彙を、生活場面と関連付けて説明する。語彙を性質別に分類して弁別する 3 生活場面の中の話題を選び、N2語彙を使用、適切なコミュニケーションができる内容をスピーチする 4 最初例文を模倣することで、助詞・用法・関連語彙をおぼえ、最終的に作文を書くことで自分の意見を表現する													
授業概要	週1課（平均60語彙）を一週間を目安に進める。進出語彙を使った文の作成を行う。毎回小テストを行うので 当然十分な予習復習の自宅学習が必要とされる。 また能力試験前は、過去問題や模擬テストを行う。													
授業計画	授業のテーマ							予習内容・時間		復習内容・時間				
	1	オリエンテーション・教科書配布							1章1課 人間 1時間		導入 30分			
	2	1章 1課 人間							1章2課 人間 30分		1章1課 30分			
	3	1章 2課 人間 小テスト							1章3課 人間 30分		1章2課 30分			
	4	1章 3課 人間 小テスト							2章1課 生活 30分		1章3課 30分			
	5	2章 1課 食生活 小テスト							2章2課 家事 30分		2章1課 30分			
	6	2章 2課 家事 小テスト							2章3課 健康 30分		2章2課 30分			
	7	2章 3課 健康 小テスト							3章 趣味 30分		2章3課 30分			
	8	3章 趣味 小テスト							4章 1課 30分		3章 30分			
	9	4章 1課 旅行 小テスト							4章 2課 30分		4章1課 30分			
	10	4章 2課 自然 小テスト							過去問 30分		4章2課 30分			
	11	N2 過去問解説 過去問宿題							過去問宿題 30分		過去問 30分			
	12	模擬テスト							5章1課2課 30時間		過去問 30分			
	13	5章 1, 2課 仕事 小テスト							6章 1課 30分		5章1, 2課 30分			
	14	6章 1課 メディア							6章 2課 30分		6章 1課 30分			
15	総括 期末テスト							7章 30分		6章 2課 30分				
成績評価基準	前回の講義内容に対する小テストを行い定着度を測る。語彙の読みだけでなく 特に副詞、形容詞の正確な運用を高めるため 短文作成に重点を置く。明瞭な発音ができるように音読は授業中に必ず課す													
成績評価方法(割合%)	筆記試験			レポート			課題			実技		授業の取組		その他(小テスト)
	60											20		20
教科書	新完全マスター語彙 N2							参考書		ハンドアウト、能力試験過去問				
課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法	試験の翌週返却時にFBを行い知識の定着を促進する													

科目名	検定文字語彙Ⅱ-B Kanji and Vocabulary Ⅱ-B							担当者	高藤純子 永吉美知子			
開講年度	2020	学年	2	開講期	後期	単位数	1	授業形態	演習	必修・選択の区分	選択	
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・日本語能力試験N1, N2レベルの合格 ・語彙を意味とマッチングさせるだけでなく、文章の中で適切な解釈ができるようにする。 ・聴解、読解に使われている語彙を抜き出し、細かい意味の違いを比較、分類し、応用できるようにする。 											
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・N2レベルの意味、使い方を分類、比較しながら進める。 ・N1レベルの漢字の読みの徹底。 ・分野別に関連語彙を増やす。 											
授業計画	授業のテーマ							予習内容・時間	復習内容・時間			
	1	新完全マスター N1 第一部 第1章						第1章の予習・30分	第1章の復習・30分			
	2	新完全マスター N1 第一部 第2章						第2章の予習・30分	第2章の復習・30分			
	3	新完全マスター N1 第一部 第3章第4章						第3. 4章の予習・30分	第3. 4章の復習・30分			
	4	新完全マスター N1 第一部 第5章第6章						第5.6章の予習・30分	第5.6章の復習・30分			
	5	新完全マスター N1 第一部 第7章						第7章の予習・30分	第7章の復習・30分			
	6	新完全マスター N1 第一部 第8章						第8章の予習・30分	第8章の復習・30分			
	7	新完全マスター N1 第一部 第9章						第9章の予習・30分	第9章の復習・30分			
	8	新完全マスター N1 第二部 第1章						第1章の予習・30分	第1章の復習・30分			
	9	新完全マスター N1 第二部 第2章						第2章の予習・30分	第2章の復習・30分			
	10	新完全マスター N1 第二部 第3章						第3章の予習・30分	第3章の復習・30分			
	11	新完全マスター N1 第二部 第4章						第4章の予習・30分	第4章の復習・30分			
	12	模擬テスト						第6章の予習・30分	第1部の復習・30分			
	13	新完全マスター N1 第二部 第5章						第5章の予習・30分	第5章の復習・30分			
	14	新完全マスター N1 第二部 第6章						第6章の予習・30分	第6章の復習・30分			
15	新完全マスター N1 第二部 第7章						第7章の予習・30分	第7章の予習・60分				
成績評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・期末テストで6割以上、毎回の小テストでは8.9割の定着を目指す。 ・授業中は学生の積極的な発言を評価する。 											
成績評価方法 (割合%)	筆記試験	レポート	課題	実技	授業の取組	その他(小テスト)						
	60%				20%	20%						
教科書	新完全マスター語彙N1						参考書					
課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法	毎回、復習の小テストを実施、間違いの多かった問題を取り上げ、再度フィードバックする。											

科目名	政治とメディア Politics and Media							担当者	今木清志 実務家教員		
開講年度	2020	学年	2	開講期	前期	単位数	2	授業形態	講義	必修・選択の区分	選択
授業の到達目標	(1)政治とメディアの現状を説明できる (2)政治とメディアの関係の課題を説明できる (3)政治に対するメディアの役割とは何かを説明できる										
授業概要	私たちの生活のあり方は、政治とメディアの両方に影響されている。主権者としての私たちは、政治とメディアの関わり合いについて知り、主体的に対応していく必要がある。 この授業では、東京のテレビ局の社員として長年の間、様々な分野のテレビの仕事を経験してきた教員が、プロデューサーとして多数の番組を制作してきた実務経験を活かし、実際のメディアの現場の状況を踏まえながら、政治とメディアの関係を題材とする様々な映像作品を用いて、政治に対するメディアの現状や課題、役割について論じる。										
授業計画	授業のテーマ							予習内容・時間	復習内容・時間		
	1	ガイダンス（講義の概要） 政治とメディアの関係とは？						テレビ・新聞の政治ニュースについて見解をまとめる（2時間）	授業内容を文章にまとめる（2時間）		
	2	〈日本政治入門〉ドラマ『アメリカに負けなかった男〜バカヤロー総理 吉田茂〜』（2020年）をもとに日本の政治を考える①						テレビ・新聞の政治ニュースについて見解をまとめる（2時間）	授業内容を文章にまとめる（2時間）		
	3	〈日本政治入門〉ドラマ『アメリカに負けなかった男〜バカヤロー総理 吉田茂〜』（2020年）をもとに日本の政治を考える②						テレビ・新聞の政治ニュースについて見解をまとめる（2時間）	授業内容を文章にまとめる（2時間）		
	4	〈日本政治入門〉ドラマ『アメリカに負けなかった男〜バカヤロー総理 吉田茂〜』（2020年）をもとに日本の政治を考える③						テレビ・新聞の政治ニュースについて見解をまとめる（2時間）	授業内容を文章にまとめる（2時間）		
	5	〈メディアとファシズム〉[NHKスペシャル映像の世紀第4集ヒトラーの野望]（1995年）をもとにメディアとファシズムの関係を考える						テレビ・新聞の政治ニュースについて見解をまとめる（2時間）	授業内容を文章にまとめる（2時間）		
	6	〈メディアとファシズム〉[NHKスペシャル 新・映像の世紀 第3集 時代は独裁者を求めた]（2015年）をもとにメディアとファシズムの関係を考える						テレビ・新聞の政治ニュースについて見解をまとめる（2時間）	授業内容を文章にまとめる（2時間）		
	7	〈メディアとファシズム〉 映画『夜と霧』（1955年）をもとにメディアとファシズムについて考える						テレビ・新聞の政治ニュースについて見解をまとめる（2時間）	授業内容を文章にまとめる（2時間）		
	8	〈メディアの世界大戦〉 映画『チャップリンの独裁者』（1940年）をもとに民主主義を考える①						テレビ・新聞の政治ニュースについて見解をまとめる（2時間）	授業内容を文章にまとめる（2時間）		
	9	〈メディアの世界大戦〉 映画『チャップリンの独裁者』（1940年）をもとに民主主義を考える②						テレビ・新聞の政治ニュースについて見解をまとめる（2時間）	授業内容を文章にまとめる（2時間）		
	10	〈メディアの世界大戦〉 映画『チャップリンの独裁者』（1940年）をもとに民主主義を考える③						テレビ・新聞の政治ニュースについて見解をまとめる（2時間）	授業内容を文章にまとめる（2時間）		
	11	〈政治とメディア〉映画『記者たち—衝撃と畏怖の真実』（2019年）をもとに政治に対するメディアの役割を考える①						テレビ・新聞の政治ニュースについて見解をまとめる（2時間）	授業内容を文章にまとめる（2時間）		
	12	〈政治とメディア〉映画『記者たち—衝撃と畏怖の真実』（2019年）をもとに政治に対するメディアの役割を考える②						テレビ・新聞の政治ニュースについて見解をまとめる（2時間）	授業内容を文章にまとめる（2時間）		
	13	〈政治と映像〉[NHKスペシャル新・映像の世紀第6集あなたのワンカットが世界を変える]（2016年）から政治と映像の関係を考える①						テレビ・新聞の政治ニュースについて見解をまとめる（2時間）	授業内容を文章にまとめる（2時間）		
	14	〈政治と映像〉[NHKスペシャル新・映像の世紀第6集あなたのワンカットが世界を変える]（2016年）から政治と映像の関係を考える②						テレビ・新聞の政治ニュースについて見解をまとめる（2時間）	授業内容を文章にまとめる（2時間）		
	15	総括 政治とメディアの関係とは						これまでの授業内容について見解をまとめる（2時間）	これまでの授業内容をまとめる（2時間）		
成績評価基準	(1)政治とメディアの現状について正確に説明できているか評価する (2)政治とメディアの課題について正確に説明できているか評価する (3)政治に対するメディアの役割について正確に説明できているか評価する										
成績評価方法 (割合%)	筆記試験		レポート		課題		実技		授業の取組		その他(リアクションペーパー)
	30%								30%		40%
教科書	使用しない					参考書		適宜紹介する			
課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法	講評や解説の時間を設ける										

科目名	近代日本政治思想史 A History of political thought in Modern Japan							担当者	木下 宏 一			
開講年度	2020	学年	2	開講期	前期	単位数	2	授業形態	講義	必修・選択の区分	選択	
授業の到達目標	<p>一、幕末以降の日本について偏らない歴史認識を身に付け、それを論理的かつ明快な文章で表現出来るようになる。</p> <p>二、近代日本政治思想史の基本的な流れをつかみ、各時代の主要な政治思想の本質を把握出来るようになる。</p> <p>三、歴史の連続性のなかで自己および自己の置かれた時代状況を意識出来るようになる。</p>											
授業概要	近代日本政治思想史は、幕末以降の日本の歴史（政治史）を、そこに生きた人間のさまざまな知の営みを軸にとらえる学問です。授業では、幕末、明治、大正、昭和と、通時的に日本の政治思想を検討していきます。具体的には、パワーポイントを使用し、スライドに沿って講義を進めます。理解を深めるため、随時その回のテーマに関連した歴史映像や映画の一場面をDVDで鑑賞します。また習熟度を確認するため、第12回に中間試験を実施します。											
授業計画	授業のテーマ							予習内容・時間		復習内容・時間		
	1	近代日本政治思想史とは何か					高校『日本史』の教科書の明治以降の項目を読んでおく。(2時間)		ノートの整理(2時間)			
	2	近代日本への道①—関ヶ原の戦いと江戸幕藩体制					前回の授業の終わりで指示された参考図書の熟読(2時間)		ノートの整理(2時間)			
	3	近代日本への道②—国学と尊王思想					前回の授業の終わりで指示された参考図書の熟読(2時間)		ノートの整理(2時間)			
	4	近代日本の政治思想①—開国・攘夷から明治維新へ					前回の授業の終わりで指示された参考図書の熟読(2時間)		ノートの整理(2時間)			
	5	近代日本の政治思想②—民権と国権					前回の授業の終わりで指示された参考図書の熟読(2時間)		ノートの整理(2時間)			
	6	近代日本の政治思想③—日清・日露戦役とナショナリズム					前回の授業の終わりで指示された参考図書の熟読(2時間)		ノートの整理(2時間)			
	7	近代日本の政治思想④—大正デモクラシー					前回の授業の終わりで指示された参考図書の熟読(2時間)		ノートの整理(2時間)			
	8	近代日本の政治思想⑤—社会主義と共産主義					前回の授業の終わりで指示された参考図書の熟読(2時間)		ノートの整理(2時間)			
	9	近代日本の政治思想⑥—超国家主義					前回の授業の終わりで指示された参考図書の熟読(2時間)		ノートの整理(2時間)			
	10	近代日本の政治思想⑦—昭和初期の国家改造運動					前回の授業の終わりで指示された参考図書の熟読(2時間)		ノートの整理(2時間)			
	11	近代日本の政治思想⑧—総力戦の思想					前回の授業の終わりで指示された参考図書の熟読(2時間)		ノートの整理(2時間)			
	12	太平洋戦争への思想的道程、中間試験					前回の授業の終わりで指示された参考図書の熟読(2時間)		ノートの整理(2時間)			
	13	近代日本の政治思想⑨—国体と八月の革命					前回の授業の終わりで指示された参考図書の熟読(2時間)		ノートの整理(2時間)			
	14	近代日本の政治思想⑩—保守主義と戦後の日本政治					前回の授業の終わりで指示された参考図書の熟読(2時間)		ノートの整理(2時間)			
	15	まとめ、期末試験					前回の授業の終わりで指示された参考図書の熟読(2時間)		ノートの整理(2時間)			
成績評価基準	まず、中間試験として課すレポート(太平洋戦争開戦前後を扱った映像作品を鑑賞し、その感想を書く)において、偏らない歴史認識が論述のなかに反映されているかを評価します。その上で、期末試験(筆記試験、ノートのみ持ち込み可)において、近代日本政治思想史の基本的な流れをつかめているか、また各時代の主要な政治思想の本質を把握出来ているかを評価します。											
成績評価方法(割合%)	筆記試験		レポート		課題		実技		授業の取組		その他()	
	60%		40%									
教科書	使用しない。					参考書		毎回授業の終わりに、次の回までに読んでおくべき参考図書を指示します。				
課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法	中間試験(レポート)については、次の回(第13回)の冒頭で講評します。											

科目名	知的財産法 Intellectual property Law							担当者	甲能新児 実務家教員			
開講年度	2020	学年	2	開講期	前期	単位数	2	授業形態	講義	必修・選択の区分	選択	
授業の到達目標	我が国の著作権法の概括的理解を得て、アーティスト・プレイヤーとしての活動の武器とする。											
授業概要	講師作成のレジメと事例を使用して、講義形式と演習形式を併用する。											
授業計画	授業のテーマ							予習内容・時間		復習内容・時間		
	1	著作権の基礎					レジメの通読（2時間10分）		レジメ・ノートの整理（2時間10分）			
	2	著作権法の概説					レジメの通読（2時間10分）		レジメ・ノートの整理（2時間10分）			
	3	著作権法の概説					レジメの通読（2時間10分）		レジメ・ノートの整理（2時間10分）			
	4	著作権法の概説					レジメの通読（2時間10分）		レジメ・ノートの整理（2時間10分）			
	5	テレビ番組の企画					レジメの通読（2時間10分）		レジメ・ノートの整理（2時間10分）			
	6	テレビ番組の企画					レジメの通読（2時間10分）		レジメ・ノートの整理（2時間10分）			
	7	映画の商品化					レジメの通読（2時間10分）		レジメ・ノートの整理（2時間10分）			
	8	映画の商品化					レジメの通読（2時間10分）		レジメ・ノートの整理（2時間10分）			
	9	シンガーソングライターの権利					レジメの通読（2時間10分）		レジメ・ノートの整理（2時間10分）			
	10	脚本家の権利					レジメの通読（2時間10分）		レジメ・ノートの整理（2時間10分）			
	11	俳優の権利					レジメの通読（2時間10分）		レジメ・ノートの整理（2時間10分）			
	12	各種出演契約の権利・義務					レジメの通読（2時間10分）		レジメ・ノートの整理（2時間10分）			
	13	パブリシティ権					レジメの通読（2時間10分）		レジメ・ノートの整理（2時間10分）			
	14	著作権侵害対策のまとめ					レジメの通読（2時間10分）		レジメ・ノートの整理（2時間10分）			
15	筆記試験											
成績評価基準	上記到達目標の達成度を授業態度と筆記試験で評価する。											
成績評価方法（割合％）	筆記試験		レポート		課題		実技		授業の取組		その他（ ）	
	60%								40%			
教科書	エンターテインメント法務 Q&A 民事法研究会					参考書	よくわかる音楽著作権ビジネス 安藤和宏					
課題（試験、レポート等）に対するフィードバックの方法	授業の応答											

科目名	ジャーナリズム論 Journalism Studies						担当者	今木清志 実務家教員			
開講年度	2020	学年	2	開講期	前期	単位数	2	授業形態	講義	必修・選択の区分	選択
授業の到達目標	(1)ジャーナリズムの現状を説明できる (2)ジャーナリズムの課題を説明できる (3)ジャーナリズムの役割とは何かを説明できる										
授業概要	社会・経済・政治の出来事の背景にある真実を伝えるジャーナリズムは、健全な民主主義社会に欠かせない。 この授業では、東京のテレビ局の社員として長年の間、様々な分野のテレビの仕事を経験してきた教員が、プロデューサーとして多数の番組を制作してきた実務経験を活かし、実際のジャーナリズムの現場の状況を踏まえながら、ジャーナリズムを題材とする様々な映像作品を用いて、ジャーナリズムの現状や課題、役割について論じる。										
授業計画	授業のテーマ						予習内容・時間		復習内容・時間		
	1	ガイダンス（講義の概要） ジャーナリズムとは何か？				テレビ・新聞のニュースに目を通して見解をまとめる（2時間）		授業内容を文章にまとめる（2時間）			
	2	〈事件報道とジャーナリズム〉 映画『日本の黒い夏―冤罪』（2000年）をもとに事件報道を考える①				テレビ・新聞のニュースに目を通して見解をまとめる（2時間）		授業内容を文章にまとめる（2時間）			
	3	〈事件報道とジャーナリズム〉 映画『日本の黒い夏―冤罪』（2000年）をもとに事件報道を考える②				テレビ・新聞のニュースに目を通して見解をまとめる（2時間）		授業内容を文章にまとめる（2時間）			
	4	〈事件報道とジャーナリズム〉 映画『日本の黒い夏―冤罪』（2000年）をもとに事件報道を考える③				テレビ・新聞のニュースに目を通して見解をまとめる（2時間）		授業内容を文章にまとめる（2時間）			
	5	〈事故・災害報道とジャーナリズム〉 ドラマ『クラマーズ・ハイ』（2005年）をもとに事故・災害報道を考える①				テレビ・新聞のニュースに目を通して見解をまとめる（2時間）		授業内容を文章にまとめる（2時間）			
	6	〈事故・災害報道とジャーナリズム〉 ドラマ『クラマーズ・ハイ』（2005年）をもとに事故・災害報道を考える②				テレビ・新聞のニュースに目を通して見解をまとめる（2時間）		授業内容を文章にまとめる（2時間）			
	7	〈事故・災害報道とジャーナリズム〉 ドラマ『クラマーズ・ハイ』（2005年）をもとに事故・災害報道を考える③				テレビ・新聞のニュースに目を通して見解をまとめる（2時間）		授業内容を文章にまとめる（2時間）			
	8	〈事故・災害報道とジャーナリズム〉 ドラマ『クラマーズ・ハイ』（2005年）をもとに事故・災害報道を考える④				テレビ・新聞のニュースに目を通して見解をまとめる（2時間）		授業内容を文章にまとめる（2時間）			
	9	〈戦争報道とジャーナリズム〉ドラマ『輝ける瞬間―コンバットカメラマン沢田教一の愛と青春』（1999年）をもとに戦争報道を考える①				テレビ・新聞のニュースに目を通して見解をまとめる（2時間）		授業内容を文章にまとめる（2時間）			
	10	〈戦争報道とジャーナリズム〉ドラマ『輝ける瞬間―コンバットカメラマン沢田教一の愛と青春』（1999年）をもとに戦争報道を考える②				テレビ・新聞のニュースに目を通して見解をまとめる（2時間）		授業内容を文章にまとめる（2時間）			
	11	〈戦争報道とジャーナリズム〉ドラマ『輝ける瞬間―コンバットカメラマン沢田教一の愛と青春』（1999年）をもとに戦争報道を考える③				テレビ・新聞のニュースに目を通して見解をまとめる（2時間）		授業内容を文章にまとめる（2時間）			
	12	〈政治報道とジャーナリズム〉映画『ペンタゴン・ペーパーズ／最高機密文書』（2017年）をもとに政治報道を考える①				テレビ・新聞のニュースに目を通して見解をまとめる（2時間）		授業内容を文章にまとめる（2時間）			
	13	〈政治報道とジャーナリズム〉映画『ペンタゴン・ペーパーズ／最高機密文書』（2017年）をもとに政治報道を考える②				テレビ・新聞のニュースに目を通して見解をまとめる（2時間）		授業内容を文章にまとめる（2時間）			
	14	〈政治報道とジャーナリズム〉映画『ペンタゴン・ペーパーズ／最高機密文書』（2017年）をもとに政治報道を考える③				テレビ・新聞のニュースに目を通して見解をまとめる（2時間）		授業内容を文章にまとめる（2時間）			
	15	総括 ジャーナリズムとは何か				これまでの授業内容について見解をまとめる（2時間）		これまでの授業内容をまとめる（2時間）			
成績評価基準	(1)ジャーナリズムの現状について正確に説明できているか評価する (2)ジャーナリズムの課題について正確に説明できているか評価する (3)ジャーナリズムの役割について正確に説明できているか評価する										
成績評価方法（割合％）	筆記試験		レポート		課題		実技		授業の取組		その他(リアクションペーパー)
	30%								30%		40%
教科書	使用しない				参考書		適宜紹介する				
課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法	講評や解説の時間を設ける										

科目名	表現と身体論 Expression&Body theory							担当者	宮 谷 未知子 実務家教員			
開講年度	2020	学年	2	開講期	後期	単位数	2	授業形態	講義	必修・選択の区分	専門・選択	
授業の到達目標	<p>身体の構造について理解を深めるとともに、様々な文化の身体表現に触れながら、表現活動に対する視野を広げる。 身体とところの繋がりを考え、表現とは何かという大きなテーマについて様々な角度から検討し、発言できるようにする。</p>											
授業概要	<p>ダンスインストラクターやアーティストバックダンサーの経験を持つ教員が、身体の構造や使い方について解説する。 また様々な国の身体表現の文化を紹介を通し、表現活動全般における広い視野を身につけていく。</p>											
授業計画	授業のテーマ							予習内容・時間		復習内容・時間		
	1	オリエンテーション						自身で身体に関する本を自由選んで読んでおくこと(2時間)		授業内容の復習、レポート作成(2時間)		
	2	自分の身体への理解1										
	3	自分の身体への理解2										
	4	自分の身体への理解3						身体の各部位(骨格)の名称を調べる(2時間)				
	5	ボディ・マッピングについて1										
	6	ボディ・マッピングについて2						身体の各部位(筋肉)の名称を調べる(2時間)				
	7	ボディ・マッピングについて3										
	8	ボディ・マッピングについて4						指定した地域の特徴や文化的背景について調べる(2時間)				
	9	様々な国のダンス文化を知る1 (東南アジア)										
	10	様々な国のダンス文化を知る2 (中東)										
	11	様々な国のダンス文化を知る3 (ヨーロッパ)										
	12	様々な国のダンス文化を知る4 (アフリカ)										
	13	様々な国のダンス文化を知る5 (日本の伝統芸能)										
	14	身体とところの繋がりについて考える(ボディ・ワークについて)						ボディ・ワークのうち、一つを選択しその成立を調べる(2時間)				
15	課題レポート・まとめ						これまでの講義について自分の意見をまとめる(2時間)					
成績評価基準	<p>自身の身体について積極的に興味・関心を持ち、様々なジャンルの表現活動に目を向け、その中に共通する表現力の高さや豊かさを自分なりに考察することができるかどうかで判断します。授業毎にレポートを提出し、その内容にて評価を行います。</p>											
成績評価方法(割合%)	筆記試験		レポート		課題		実技		授業の取組		その他()	
			60						40			
教科書	資料配布					参考書		「ボディ・マッピング：だれでも知っておきたいからだのこと」 バーバラ・コナブル、エイミー・ライカー 著				
課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法	<p>提出したレポートに対し、講評の時間を設けます。</p>											

科目名	エスニシティ研究 (アジア) A study of Ethnicity (Asia)							担当者	海村 佳 惟				
開講年度	2020	学年	2年	開講期	前期	単位数	2単位	授業形態	講義	必修・選択の区分	専門・選択		
授業の到達目標	<p>本授業の到達目標はアジアの諸国におけるエスニシティの研究を通して、①アジア諸国の民族、社会や文化の相違と共通点を見つけ、理解すること。②アジアへの理解が深まり、円滑なコミュニケーションが取れるようになること。③アジア諸国を知ることによって自国の特徴などを再認識することができる。これからのグローバルな世界の舞台で活躍できるような知識と教養を楽しく身につけることができる。</p>												
授業概要	<p>日本をはじめとするアジアの代表的な10ヶ国のエスニシティを研究する。代表的な10ヶ国の基本状況、風土、信仰宗教、民族構成、風俗風習や文化背景を分かりやすく理解してもらう。それぞれの国の日本との相違点と共通点を各自考えて、発表してもらう。授業の最初では各自調べた一週間のニュースを発表してもらう。先入観を捨て、それぞれの国の最新国情、文化などを学生に提示し、常に最新を情報を学生とともに確認し、グローバルな時代での多文化共生と理解を一緒に考えていく。</p>												
授業計画	授業のテーマ							予習内容・時間		復習内容・時間			
	1	エスニシティについて					国際化、共生、エスニシティそして日本社会という文章を熟読し、理解する(2時間)		熟読した文章と授業内容を照らし合わせ、理解する(2時間)				
	2	アジアのエスニシティについて					アジア諸国の民族風土について調べる(2時間)		授業内容の整理(2時間)				
	3	日本のエスニシティ研究					日本各地の風俗風習などを調べる(2時間)		授業内容の整理(2時間)				
	4	中国のエスニシティ研究Ⅰ					中国北部の風俗風習などを調べる(2時間)		授業内容の整理(2時間)				
	5	中国のエスニシティ研究Ⅱ					中国南部の風俗風習などを調べる(2時間)		授業内容の整理(2時間)				
	6	韓国のエスニシティ研究					韓国の風俗風習などを調べる(2時間)		授業内容の整理(2時間)				
	7	インドネシアのエスニシティ研究					インドネシアの風俗風習などを調べる(2時間)		授業内容の整理(2時間)				
	8	ベトナムのエスニシティ研究					ベトナムの風俗風習などを調べる(2時間)		授業内容の整理(2時間)				
	9	インドのエスニシティ研究					インドの風俗風習などを調べる(2時間)		授業内容の整理(2時間)				
	10	マレーシアのエスニシティ研究					マレーシアの風俗風習などを調べる(2時間)		授業内容の整理(2時間)				
	11	シンガポールのエスニシティ研究					シンガポールの風俗風習などを調べる(2時間)		授業内容の整理(2時間)				
	12	フィリピンのエスニシティ研究					フィリピンの風俗風習などを調べる(2時間)		授業内容の整理(2時間)				
	13	タイのエスニシティ研究					タイの風俗風習などを調べる(2時間)		授業内容の整理(2時間)				
	14	総括、まとめ1					日本からベトナムまでの授業内容を整理する(2時間)		各国と日本との相違点と共通点をまとめる(2時間)				
15	総括、まとめ2					インドからタイまでの授業内容を整理する(2時間)		各国と日本との相違点と共通点をまとめる(2時間)					
成績評価基準	到達目標①は30%、②は30%、③は40%とする。												
成績評価方法(割合%)	筆記試験			レポート			課題		実技		授業の取組		その他()
	40%						30%				30%		
教科書	資料配布						参考書		『現代社会とエスニシティ』綾部 恒雄 弘文堂				
課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法	授業最初の時間に調べた課題を発表し、全員で話し合う。												

科目名	日本語教授法 I Teaching Method of Japanese I							担当者	黒瀬菜々 実務家教員				
開講年度	2020	学年	2	開講期	前期	単位数	2	授業形態	講義	必修・選択の区分	選択		
授業の到達目標	1. 日本語初級の文法表現について、要点を理解しつつ他者に分かりやすく説明できるようになる。 2. 日本語を含めた外国語のさまざまな教授法を体験しながら理解し、自らの語学学習にも活かせるようにする。 3. 他者の前で分かりやすく話す言い方や態度を身につけ、実践する。												
授業概要	この科目は留学生向けの内容です。日本語を学んだ留学生は、将来日本語教師として教壇に立つだけではなく、会社の社員に日本語を教える可能性も十分考えられます。また、教授法や指導法を学ぶことによって自らの日本語学習を振り返る機会にもなります。この授業では、初級の日本語文法を中心にその用法や注意点などを確認しつつ、どのような伝え方であれば伝わりやすいのか、どのような教授法が適しているのか、参加者全員で考えながら主体的に授業に臨むことを期待します。												
授業計画	授業のテーマ							予習内容・時間	復習内容・時間				
	1	オリエンテーション／さまざまな日本語教授法（アプローチとメソッド）						初級文法を復習しておく（2時間）	配布資料熟読（2時間）				
	2	日本語教材の分析と活用／「やさしい日本語」について						自身の日本語テキストの前書き部分を読んで理解（2時間）	配布資料熟読（2時間）				
	3	初級日本語指導（第1課～第7課）						該当項目について予習し、意味や用法をよく理解（2時間）	配布資料熟読（2時間）				
	4	初級日本語指導（第8課～第13課）						該当項目について予習し、意味や用法をよく理解（2時間）	配布資料熟読（2時間）				
	5	初級日本語指導（第14課～第16課）						該当項目について予習し、意味や用法をよく理解（2時間）	配布資料熟読（2時間）				
	6	初級日本語指導（第17課～第19課）						該当項目について予習し、意味や用法をよく理解（2時間）	配布資料熟読（2時間）				
	7	初級日本語指導（第20課～第22課）						該当項目について予習し、意味や用法をよく理解（2時間）	配布資料熟読（2時間）				
	8	初級日本語指導（第23課～第25課）						該当項目について予習し、意味や用法をよく理解（2時間）	配布資料熟読（2時間）				
	9	初級日本語指導（第26課～第28課）						該当項目について予習し、意味や用法をよく理解（2時間）	配布資料熟読（2時間）				
	10	初級日本語指導（第29課～第30課）						該当項目について予習し、意味や用法をよく理解（2時間）	配布資料熟読（2時間）				
	11	初級日本語指導（第31課～第36課）						該当項目について予習し、意味や用法をよく理解（2時間）	配布資料熟読（2時間）				
	12	初級日本語指導（第37課～第39課）						該当項目について予習し、意味や用法をよく理解（2時間）	配布資料熟読（2時間）				
	13	初級日本語指導（第40課～第45課）						該当項目について予習し、意味や用法をよく理解（2時間）	配布資料熟読（2時間）				
	14	初級日本語指導（第46課～第48課）						該当項目について予習し、意味や用法をよく理解（2時間）	配布資料熟読（2時間）				
	15	まとめと期末試験						試験に向けて授業内容を整理しておく（3時間）	解説を読み理解（1時間）				
成績評価基準	1. 各回グループ内において担当箇所を発表し、その分かりやすさや理解度を相互評価、長所や改善点などを指摘しあう。 2. 紹介される学習メソッドの体験などに積極的に参加し、その効果等について意見を述べること。 3. 発表時には初級学習者にとってわかりやすい「やさしい日本語」と、はっきりとした発音を心がけて話すこと。												
成績評価方法（割合）	筆記試験			レポート			課題		実技		授業の取組		その他（ ）
	30%						20%				50%		
教科書	『みんなの日本語Ⅰ第2版』（スリーエーネットワーク） 『みんなの日本語Ⅱ第2版』（スリーエーネットワーク）					参考書	『新・はじめての日本語教育2 日本語教育の基礎知識』高見澤孟著（アスク）						
課題（試験、レポート等）に対するフィードバックの方法	コメントをつけて返却												

科目名	日本語教授法Ⅱ Teaching Method of Japanese Ⅱ						担当者	黒瀬菜々 実務家教員					
開講年度	2020	学年	2	開講期	後期	単位数	2	授業形態	講義	必修・選択の区分	選択		
授業の到達目標	1. 日本語中上級の文法表現について、要点を理解しつつ他者に分かりやすく説明できるようになる。 2. 日本語を含めた外国語のさまざまな教授法を体験しながら理解し、自らの語学学習にも活かせるようにする。 3. 他者の前で分かりやすく話す言い方や態度を身につけ、実践する。												
授業概要	この科目は留学生向けの内容です。この授業では、中上級の日本語文法を中心にその用法や注意点などを確認しつつ、どのような伝え方であれば伝わりやすいのか、どのような教授法が適しているのか、参加者全員で考えながら主体的に授業に臨むことを期待します。また、読解や聴解、会話の力を伸ばしながら、教授法や指導法に関する知識を得ることを目指します。												
授業計画	授業のテーマ						予習内容・時間		復習内容・時間				
	1	オリエンテーション／中上級					中級文法を復習しておく（2時間）		配布資料熟読（2時間）				
	2	中上級指導（N2文法①）／日本語の聴解					自身の日本語テキストの前書き部分を読んで理解（2時間）		配布資料熟読（2時間）				
	3	中上級指導（N2文法①）／日本語の聴解					該当項目について予習し、意味や用法をよく理解（2時間）		配布資料熟読（2時間）				
	4	中上級指導（N2文法①）／日本語の聴解					該当項目について予習し、意味や用法をよく理解（2時間）		配布資料熟読（2時間）				
	5	中上級指導（N2文法①）／日本語の聴解					該当項目について予習し、意味や用法をよく理解（2時間）		配布資料熟読（2時間）				
	6	中上級指導（N2文法①）／日本語の読解					該当項目について予習し、意味や用法をよく理解（2時間）		配布資料熟読（2時間）				
	7	中上級指導（N2文法①）／日本語の読解					該当項目について予習し、意味や用法をよく理解（2時間）		配布資料熟読（2時間）				
	8	中上級指導（N2文法①）／日本語の読解					該当項目について予習し、意味や用法をよく理解（2時間）		配布資料熟読（2時間）				
	9	中上級指導（N2文法①）／日本語の会話					該当項目について予習し、意味や用法をよく理解（2時間）		配布資料熟読（2時間）				
	10	中上級指導（N2文法①）／日本語の会話					該当項目について予習し、意味や用法をよく理解（2時間）		配布資料熟読（2時間）				
	11	中上級指導（N2文法①）／日本語の会話					該当項目について予習し、意味や用法をよく理解（2時間）		配布資料熟読（2時間）				
	12	中上級指導（N2文法①）／日本語の記述					該当項目について予習し、意味や用法をよく理解（2時間）		配布資料熟読（2時間）				
	13	中上級指導（N2文法①）／日本語の記述					該当項目について予習し、意味や用法をよく理解（2時間）		配布資料熟読（2時間）				
	14	中上級指導（N2文法①）／日本語の記述					該当項目について予習し、意味や用法をよく理解（2時間）		配布資料熟読（2時間）				
	15	まとめと期末試験					試験に向けて授業内容を整理しておく（3時間）		解説を読み理解（1時間）				
成績評価基準	1. 各回グループ内において担当箇所を発表し、その分かりやすさや理解度を相互評価、長所や改善点などを指摘しあう。 2. 紹介される学習メソッドの体験などに積極的に参加し、その効果等について意見を述べること。 3. 発表時には日本語学習者にとってわかりやすい「やさしい日本語」と、はっきりとした発音を心がけていること。												
成績評価方法（割合％）	筆記試験			レポート			課題		実技		授業の取組		その他（ ）
	30%						20%				50%		
教科書	適宜プリントを配布する						参考書		『日本語教師の7つ道具シリーズ③ 作文授業の作り方』大森雅美・鴻野豊子著（アルク）他				
課題（試験、レポート等）に対するフィードバックの方法	コメントをつけて返却												

2年

科目名	日本語教授法Ⅲ							担当者	未定			
開講年度	2020	学年	2	開講期	後期	単位数	2	授業形態	講義	必修・選択の区分	選択	
授業の到達目標												
授業概要												
授業計画	授業のテーマ							予習内容・時間	復習内容・時間			
	1											
	2											
	3											
	4											
	5											
	6											
	7											
	8											
	9											
	10											
	11											
	12											
	13											
	14											
	15											
成績評価基準												
成績評価方法 (割合%)	筆記試験	レポート	課題	実技	授業の取組	その他 ()						
教科書							参考書					
課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法												

科目名	日本語教授法Ⅳ							担当者	未定			
開講年度	2020	学年	2	開講期	後期	単位数	2	授業形態	講義	必修・選択の区分	選択	
授業の到達目標												
授業概要												
授業計画	授業のテーマ							予習内容・時間	復習内容・時間			
	1											
	2											
	3											
	4											
	5											
	6											
	7											
	8											
	9											
	10											
	11											
	12											
	13											
	14											
	15											
成績評価基準												
成績評価方法 (割合%)	筆記試験	レポート	課題	実技	授業の取組	その他 ()						
教科書								参考書				
課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法												

科目名	ゼミナール Seminar							担当者	徳永玲子					
開講年度	2020	学年	2	開講期		通年(前期)		単位数	2	授業形態	演習	必修・選択の区分	選択	
授業の到達目標	卒業公演を創ります。													
授業概要	脚本を創作、読み合わせ、立ち稽古を行い、朗読劇、芝居を創る													
授業計画	授業のテーマ							予習内容・時間		復習内容・時間				
	1	演出							卒業公演の参考となる書籍、映画、ビデオ観劇を行うこと(30分)		鑑賞記録を綴ること(30分)			
	2	司会												
	3													
	4													
	5													
	6													
	7													
	8													
	9	卒業公演の構成・演出・脚本制作							卒業公演の構成・演出・台本を書いておくこと(30分)		卒業公演の構成・演出・台本を推敲すること(30分)			
	10													
	11													
	12													
	13													
	14													
15	レポート提出													
成績評価基準	結婚式、披露宴の演出、司会に関するレポート													
成績評価方法(割合%)	筆記試験			レポート			課題			実技		授業の取組		その他()
				80								20		
教科書	使用しない							参考書	適宜紹介します					
課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法	講評や解説、コメントを付けてレポートを返却する													

科目名	ゼミナール							Seminar		担当者	徳永玲子		
開講年度	2020	学年	2	開講期	通年 (後期)	単位数	2	授業 形態	演習	必修・選択 の区分	選択		
授業の 到達目標	卒業公演を創ります。												
授業概要	脚本を創作、読み合わせ、立ち稽古を行い、朗読劇、芝居を創る												
授業計画	授業のテーマ							予習内容・時間		復習内容・時間			
	1	読み合わせ					卒業公演の参考となる書籍、映画、ビデオ観劇を行うこと (30分)		鑑賞記録を綴ること (30分)				
	2	立ち稽古											
	3												
	4												
	5												
	6												
	7												
	8												
	9						卒業公演の構成・演出・台本を書いておくこと (30分)		卒業公演の構成・演出・台本を推敲すること (30分)				
	10												
	11												
	12												
	13												
	14												
15	発表												
成績評価基準	結婚式、披露宴の演出、司会に関するレポート												
成績評価方法 (割合%)	筆記試験		レポート		課題		実技		授業の取組		その他 ()		
			80						20				
教科書	使用しない					参考書	適宜紹介します						
課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法	講評や解説、コメントを付けてレポートを返却する												

科目名	ゼミナール Seminar							担当者	今木清志 実務家教員								
開講年度	2020	学年	2	開講期		通年(前期)		単位数	2	授業形態		演習		必修・選択の区分		選択	
授業の到達目標	(1)日本のテレビドラマの歴史について説明できる (2)日本のテレビドラマについて、制作された時代の社会状況と関連づけて説明できる (3)テレビドラマの放つメッセージを読み解くことができる																
授業概要	テレビドラマは時代を映す鏡である。 この授業では、東京のテレビ局の社員として長年、様々な分野のテレビの仕事を経験してきた教員が、プロデューサーとして多数のドラマを制作してきた実務経験を活かし、実際のドラマ制作の現場の状況を踏まえながら、様々なテレビドラマの映像を用いて、日本のテレビドラマの歴史や、制作された時代の社会状況との関連について分析し、テレビドラマの放つメッセージを論じる。																
授業計画	授業のテーマ							予習内容・時間			復習内容・時間						
	1	ガイダンス（講義の概要） 日本のテレビドラマの歴史について					周辺作品や放送中のドラマを積極的に視聴する（2時間）			授業内容を文章にまとめる（2時間）							
	2	テレビドラマ史① 創成期〈1950年代～60年代〉(1)					周辺作品や放送中のドラマを積極的に視聴する（2時間）			授業内容を文章にまとめる（2時間）							
	3	テレビドラマ史② 創成期〈1950年代～60年代〉(2)					周辺作品や放送中のドラマを積極的に視聴する（2時間）			授業内容を文章にまとめる（2時間）							
	4	テレビドラマ史③ 第1期黄金時代〈1970年代〉(1)					周辺作品や放送中のドラマを積極的に視聴する（2時間）			授業内容を文章にまとめる（2時間）							
	5	テレビドラマ史④ 第1期黄金時代〈1970年代〉(2)					周辺作品や放送中のドラマを積極的に視聴する（2時間）			授業内容を文章にまとめる（2時間）							
	6	テレビドラマ史⑤ 第1期黄金時代〈1970年代〉(3)					周辺作品や放送中のドラマを積極的に視聴する（2時間）			授業内容を文章にまとめる（2時間）							
	7	テレビドラマ史⑥ 第1期黄金時代〈1970年代〉(4)					周辺作品や放送中のドラマを積極的に視聴する（2時間）			授業内容を文章にまとめる（2時間）							
	8	テレビドラマ史⑦ 第1期黄金時代〈1970年代〉(5)					周辺作品や放送中のドラマを積極的に視聴する（2時間）			授業内容を文章にまとめる（2時間）							
	9	テレビドラマ史⑧ 第1期黄金時代〈1970年代〉(6)					周辺作品や放送中のドラマを積極的に視聴する（2時間）			授業内容を文章にまとめる（2時間）							
	10	テレビドラマ史⑨ トレンディドラマの時代〈1980年代〉(1)					周辺作品や放送中のドラマを積極的に視聴する（2時間）			授業内容を文章にまとめる（2時間）							
	11	テレビドラマ史⑩ トレンディドラマの時代〈1980年代〉(2)					周辺作品や放送中のドラマを積極的に視聴する（2時間）			授業内容を文章にまとめる（2時間）							
	12	テレビドラマ史⑪ トレンディドラマの時代〈1980年代〉(3)					周辺作品や放送中のドラマを積極的に視聴する（2時間）			授業内容を文章にまとめる（2時間）							
	13	テレビドラマ史⑫ トレンディドラマの時代〈1980年代〉(4)					周辺作品や放送中のドラマを積極的に視聴する（2時間）			授業内容を文章にまとめる（2時間）							
	14	テレビドラマ史⑬ トレンディドラマの時代〈1980年代〉(5)					周辺作品や放送中のドラマを積極的に視聴する（2時間）			授業内容を文章にまとめる（2時間）							
	15	テレビドラマ史⑭ トレンディドラマの時代〈1980年代〉(6)					周辺作品や放送中のドラマを積極的に視聴する（2時間）			授業内容を文章にまとめる（2時間）							
成績評価基準	(1)日本のテレビドラマの歴史について正確に説明できているか評価する (2)日本のテレビドラマについて、制作された時代の社会状況と関連づけて正確に説明できているか評価する (3)テレビドラマの放つメッセージを正確に読み解くことができているか評価する																
成績評価方法(割合%)	筆記試験			レポート			課題			実技			授業の取組		その他(リアクションペーパー)		
	30%												30%		40%		
教科書	使用しない							参考書	適宜紹介する								
課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法	講評や解説の時間を設ける																

科目名	ゼミナール						Seminar		担当者	今木清志 実務家教員		
開講年度	2020	学年	2	開講期	通年 (後期)	単位数	2	授業 形態	演習	必修・選択 の区分	選択	
授業の 到達目標	(1)日本のテレビドラマの歴史について説明できる (2)日本のテレビドラマについて、制作された時代の社会状況と関連づけて説明できる (3)テレビドラマの放つメッセージを読み解くことができる											
授業概要	テレビドラマは時代を映す鏡である。 この授業では、東京のテレビ局の社員として長年、様々な分野のテレビの仕事を経験してきた教員が、プロデューサーとして多数のドラマを制作してきた実務経験を活かし、実際のドラマ制作の現場の状況を踏まえながら、様々なテレビドラマの映像を用いて、日本のテレビドラマの歴史や、制作された時代の社会状況との関連について分析し、テレビドラマの放つメッセージを論じる。											
授業計画	授業のテーマ						予習内容・時間		復習内容・時間			
	1	テレビドラマ史⑮ 第2期黄金時代〈1990年代〉(1)				周辺作品や放送中のドラマを積極的に視聴する(2時間)		授業内容を文章にまとめる(2時間)				
	2	テレビドラマ史⑯ 第2期黄金時代〈1990年代〉(2)				周辺作品や放送中のドラマを積極的に視聴する(2時間)		授業内容を文章にまとめる(2時間)				
	3	テレビドラマ史⑰ 第2期黄金時代〈1990年代〉(3)				周辺作品や放送中のドラマを積極的に視聴する(2時間)		授業内容を文章にまとめる(2時間)				
	4	テレビドラマ史⑱ 第2期黄金時代〈1990年代〉(4)				周辺作品や放送中のドラマを積極的に視聴する(2時間)		授業内容を文章にまとめる(2時間)				
	5	テレビドラマ史⑲ 第2期黄金時代〈1990年代〉(5)				周辺作品や放送中のドラマを積極的に視聴する(2時間)		授業内容を文章にまとめる(2時間)				
	6	テレビドラマ史⑳ 日常ドラマの時代〈2000年代〉(1)				周辺作品や放送中のドラマを積極的に視聴する(2時間)		授業内容を文章にまとめる(2時間)				
	7	テレビドラマ史㉑ 日常ドラマの時代〈2000年代〉(2)				周辺作品や放送中のドラマを積極的に視聴する(2時間)		授業内容を文章にまとめる(2時間)				
	8	テレビドラマ史㉒ 日常ドラマの時代〈2000年代〉(3)				周辺作品や放送中のドラマを積極的に視聴する(2時間)		授業内容を文章にまとめる(2時間)				
	9	テレビドラマ史㉓ 日常ドラマの時代〈2000年代〉(4)				周辺作品や放送中のドラマを積極的に視聴する(2時間)		授業内容を文章にまとめる(2時間)				
	10	テレビドラマ史㉔ 日常ドラマの時代〈2000年代〉(5)				周辺作品や放送中のドラマを積極的に視聴する(2時間)		授業内容を文章にまとめる(2時間)				
	11	テレビドラマ史㉕ 震災とその後〈2010年代〉(1)				周辺作品や放送中のドラマを積極的に視聴する(2時間)		授業内容を文章にまとめる(2時間)				
	12	テレビドラマ史㉖ 震災とその後〈2010年代〉(2)				周辺作品や放送中のドラマを積極的に視聴する(2時間)		授業内容を文章にまとめる(2時間)				
	13	テレビドラマ史㉗ 震災とその後〈2010年代〉(3)				周辺作品や放送中のドラマを積極的に視聴する(2時間)		授業内容を文章にまとめる(2時間)				
	14	テレビドラマ史㉘ 震災とその後〈2010年代〉(4)				周辺作品や放送中のドラマを積極的に視聴する(2時間)		授業内容を文章にまとめる(2時間)				
15	総括 日本のテレビドラマの歴史				これまでの授業内容について見解をまとめる(2時間)		これまでの授業内容をまとめる(2時間)					
成績評価基準	(1)日本のテレビドラマの歴史について正確に説明できているか評価する (2)日本のテレビドラマについて、制作された時代の社会状況と関連づけて正確に説明できているか評価する (3)テレビドラマの放つメッセージを正確に読み解くことができているか評価する											
成績評価方法 (割合%)	筆記試験		レポート		課題		実技		授業の取組		その他(リアクションペーパー)	
	30%								30%		40%	
教科書	使用しない				参考書		適宜紹介する					
課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法	講評や解説の時間を設ける											

科目名	ゼミナール Seminar							担当者	宮 谷 未知子 実務家教員			
開講年度	2020	学年	2	開講期	通年 (前期)	単位数	2	授業 形態	演習	必修・選択 の区分	専門・選択	
授業の 到達目標	からだを使った様々な表現方法に触れ、表現者のプロとしての意識を身につける。 それぞれの目標を設定し、客観的に自分を分析しながらよりよいパフォーマンスの技術を身につける。											
授業概要	ダンスインストラクターやアーティストバックダンサーの実務経験を持つ教員がし、身体の構造や使い方について解説するとともに、様々な身体文化の紹介を通し、表現活動全般における広い視野を身につけていく。											
授業計画	授業のテーマ							予習内容・時間		復習内容・時間		
	1	オリエンテーション					身体表現に関する本を自由選んで読んでおくこと (30分)		今後自分の研究に必要な材料を集める (30分)			
	2	研究テーマの設定 1										
	3	研究テーマの設定 2										
	4	研究テーマの設定 3										
	5	実務研究							取組んだ内容の練習・魅せ方の研究 (30分)			
	6											
	7											
	8						舞台公演やPV、映画等を鑑賞し、研究すること (30分)					
	9											
	10											
	11											
	12											
	13											
	14	研究テーマごとの中間発表 (パフォーマンスおよびプレゼンテーション)										
15	まとめ											
成績評価基準	自身の身体について積極的に興味・関心を持ち、様々なジャンルの表現活動に目を向け、その中に共通する表現力の高さや豊かさを自分なりに考察することができるかどうか判断します。また、それぞれの研究テーマごとのパフォーマンス発表およびプレゼンテーションの内容を評価します。											
成績評価方法 (割合%)	筆記試験		レポート		課題		実技		授業の取組		その他 ()	
			40						60			
教科書	なし					参考書	「進化するミュージカル」 小山内伸 著					
課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法	提出したレポートまたはパフォーマンスに対し、講評の時間を設けます。											

科目名	ゼミナール Seminar							担当者	宮谷 未知子 実務家教員			
開講年度	2020	学年	2	開講期	通年 (後期)	単位数	2	授業 形態	演習	必修・選択 の区分	専門・選択	
授業の 到達目標	からだを使った様々な表現方法に触れ、表現者のプロとしての意識を身につける。 それぞれの目標を設定し、客観的に自分を分析しながらよりよいパフォーマンスの技術を身につける。											
授業概要	ダンスインストラクターやアーティストバックダンサーの実務経験を持つ教員が、身体の構造や使い方について解説するとともに、様々な身体文化の紹介を通し、表現活動全般における広い視野を身につけていく。											
授業計画	授業のテーマ							予習内容・時間		復習内容・時間		
	1	オリエンテーション					身体表現に関する本を自由選 んで読んでおくこと (30分)		今後自分の研究に必要な 材料を集める (30分)			
	2	研究テーマの見直し 1										
	3	研究テーマの見直し 2										
	4	実務研究										
	5								取組んだ内容をレポート にまとめる (30分)			
	6											
	7											
	8						舞台公演やPV、映画等を鑑 賞し、研究すること (30分)					
	9											
	10											
	11											
	12											
	13											
	14	研究テーマごとの発表 (パフォーマンスおよびプレゼン テーション)										
15	まとめ											
成績評価基準	自身の身体について積極的に興味・関心を持ち、様々なジャンルの表現活動に目を向け、その中に共通する表現力の高さや豊かさを自分なりに考察することができるかどうか判断します。また、それぞれの研究テーマごとのパフォーマンス発表およびプレゼンテーションの内容を評価します。											
成績評価方法 (割合%)	筆記試験		レポート		課題		実技		授業の取組		その他 ()	
			40						60			
教科書	なし					参考書	「進化するミュージカル」 小山内伸 著					
課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法	提出したレポートに対し、講評の時間を設けます。											

科目名	ゼミナール Seminar							担当者	黒瀬菜々															
開講年度	2020	学年	2	開講期		通年(前期)		単位数	2	授業形態		演習		必修・選択の区分		必修								
授業の到達目標	1. 自らテーマを選択し、調査して発表するまでを主体的に行うようになること。 2. 「国」という視点に限らず一人一人が異なる文化があると認識しつつ、お互いに敬意を持ってコミュニケーションをとれること。 3. インタビューや発表などを通して、他者の話を「積極的に」聞けるようになること。 4. メディアを通じた情報や一般的なステレオタイプの「正しさ」について認識を持てるようになること。																							
授業概要	ゼミナールではさまざまな国からの留学生をゲストとし、その国や地域の文化、思想、習慣などについてディスカッションを行います。それにあたって、一人一人がテーマに沿って事前に調べて発表し、ディスカッション後はレポート等の形でまとめを行います。普段はテレビやインターネットなどのメディアを通じてのみ知る情報と、直接顔を合わせたコミュニケーションから得られる情報がどのように異なるのかを意識して、各回の授業にのぞんでください。																							
授業計画	授業のテーマ								予習内容・時間				復習内容・時間											
	1	オリエンテーション／事前準備 ①							インタビュー練習 (1時間)															
	2	インタビュー ①							事前調査 (30分)				インタビュー後のまとめ (30分)											
	3	発表とディスカッション ①							発表準備 (30分)				反省点のまとめ (30分)											
	4	事前準備 ②							事前調査 (30分)				インタビュー練習 (1時間)											
	5	インタビュー ②							事前調査 (30分)				インタビュー後のまとめ (30分)											
	6	発表とディスカッション ②							発表準備 (30分)				反省点のまとめ (30分)											
	7	事前準備 ③							事前調査 (30分)				インタビュー練習 (1時間)											
	8	インタビュー ③							事前調査 (30分)				インタビュー後のまとめ (30分)											
	9	発表とディスカッション ③							発表準備 (30分)				反省点のまとめ (30分)											
	10	事前準備 ④							事前調査 (30分)				インタビュー練習 (1時間)											
	11	インタビュー ④							事前調査 (30分)				インタビュー後のまとめ (30分)											
	12	発表とディスカッション ④							発表準備 (30分)				反省点のまとめ (30分)											
	13	事前準備 ⑤							事前調査 (30分)				インタビュー練習 (1時間)											
	14	インタビュー ⑤							事前調査 (30分)				インタビュー後のまとめ (30分)											
15	発表とディスカッション ⑤							発表準備 (30分)				反省点のまとめ (30分)												
成績評価基準	1. 発表に向けて自ら計画的に準備をすすめ、インタビュー等に臨むこと。 2. インタビューやディスカッションにおいて積極的に他者とコミュニケーションを図ること。 3. 質問をしたり意見を述べたりしながら、積極的に意見を聞く姿勢を示すこと。 4. レポートや課題において、インタビューやディスカッションから得た感想や意見を述べること。																							
成績評価方法(割合%)	筆記試験				レポート				課題				実技				授業の取組				その他()			
					30%				30%								40%							
教科書	なし								参考書	『異文化コミュニケーション研究法』石井敏、久米昭元編(有斐閣部ブックス)														
課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法	レポートはコメントを付けた後返却																							

科目名	ゼミナール Seminar							担当者	黒瀬 菜々		
開講年度	2020	学年	2	開講期	通年 (後期)	単位数	2	授業 形態	演習	必修・選択 の区分	必修
授業の 到達目標	1. 自らテーマを選択し、調査して発表するまでを主体的に行うようになること。 2. 「国」という視点に限らず一人一人が異なる文化にあると認識しつつ、お互いに敬意を持ってコミュニケーションをとれること。 3. インタビューや発表などを通して、他者の話を「積極的に」聞けるようになること。 4. メディアを通じた情報や一般的なステレオタイプの「正しさ」について認識を持てるようになること。										
授業概要	ゼミナールではさまざまな国からの留学生をゲストとし、その国や地域の文化、思想、習慣などについてディスカッションを行います。それにあたって、一人一人がテーマに沿って事前に調べて発表し、ディスカッション後にはレポート等の形でまとめを行います。普段はテレビやインターネットなどのメディアを通じてのみ知る情報と、直接顔を合わせたコミュニケーションから得られる情報がどのように異なるのかを意識して、各回の授業にのぞんでください。										
授業計画	授業のテーマ							予習内容・時間	復習内容・時間		
	1	オリエンテーション／事前準備 ①							インタビュー練習 (1時間)		
	2	インタビュー ①					事前調査 (30分)		インタビュー後のまとめ (30時間)		
	3	発表とディスカッション ①					発表準備 (30分)		反省点のまとめ (30分)		
	4	事前準備 ②					事前調査 (30分)		インタビュー練習 (1時間)		
	5	インタビュー ②					事前調査 (30分)		インタビュー後のまとめ (30時間)		
	6	発表とディスカッション ②					発表準備 (30分)		反省点のまとめ (30分)		
	7	事前準備 ③					事前調査 (30分)		インタビュー練習 (1時間)		
	8	インタビュー ③					事前調査 (30分)		インタビュー後のまとめ (30時間)		
	9	発表とディスカッション ③					発表準備 (30分)		反省点のまとめ (30分)		
	10	事前準備 ④					事前調査 (30分)		インタビュー練習 (1時間)		
	11	インタビュー ④					事前調査 (30分)		インタビュー後のまとめ (30時間)		
	12	発表とディスカッション ④					発表準備 (30分)		反省点のまとめ (30分)		
	13	個人発表準備 ①					PPT・レジメ作成等の発表準備 (1時間)				
	14	個人発表準備 ②					PPT・レジメ作成等の発表準備 (1時間)				
15	発表					発表準備 (30分)		反省点のまとめ (30分)			
成績評価基準	1. 発表に向けて自ら計画的に準備をすすめ、インタビュー等に臨むこと。 2. インタビューやディスカッションにおいて積極的に他者とコミュニケーションを図ること。 3. 質問をしたり意見を述べたりしながら、積極的に意見を聞く姿勢を示すこと。 4. レポートや課題において、インタビューやディスカッションから得た感想や意見を述べること。										
成績評価方法 (割合%)	筆記試験		レポート		課題		実技		授業の取組		その他 ()
			30%		30%				40%		
教科書	なし					参考書	『異文化コミュニケーション研究法』石井敏、久米昭元編 (有斐閣部ブックス)				
課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法	レポートはコメントを付けた後返却										

科目名	ゼミナール Seminar							担当者	竹之内 美樹香			
開講年度	2020	学年	2年	開講期	通年 (前期)	単位数	2	授業 形態	演習	必修・選択 の区分	必修	
授業の到達目標	<p>このゼミは大学の編入試験に合格できるレベルの日本語を最終目標とする。そのための到達目標として以下のことをできるようにする。</p> <p>1、理由や具体例を示しながら、自分の意見を正しく表現することができる。</p> <p>2、ある程度まとまりのある学術的な文章を読むことができるようになる。</p> <p>3、自分が表現したいことを正確に表現するために、正しい文法を適切に使うことができる。</p> <p>4、相手を説得できるように根拠を示しながら、自分の意見をレポート形式で書くことができる。</p>											
授業概要	<p>N2に合格するための演習を積む。その過程で到達目標に掲げる内容を習得できるようにしていく。聴解・読解をメインにN2の演習問題を繰り返し、予習として語彙を覚える。</p> <p>身近な社会問題について自分の意見をレポート形式で書く練習から始め、ある程度まとまりのある文章を構築することができるようにし、800字の記述が書けるレベルになるまで訓練する。</p>											
授業計画	授業のテーマ							予習内容・時間		復習内容・時間		
	1	N2 短文読解・聴解・語彙問題演習						授業プリント・2時間		授業プリント・2時間		
	2	N2 短文読解・聴解・語彙問題演習						授業プリント・2時間		授業プリント・2時間		
	3	N2 短文読解・聴解・語彙問題演習						授業プリント・2時間		授業プリント・2時間		
	4	N2 中文読解・聴解・語彙問題演習						授業プリント・2時間		授業プリント・2時間		
	5	N2 中文読解・聴解・語彙問題演習						授業プリント・2時間		授業プリント・2時間		
	6	N2 読解中文・聴解・語彙問題演習						授業プリント・2時間		授業プリント・2時間		
	7	N2 読解長文・聴解・語彙問題演習						授業プリント・2時間		授業プリント・2時間		
	8	N2 読解長文・聴解・語彙問題演習						授業プリント・2時間		授業プリント・2時間		
	9	N2 読解長文・聴解・文法問題演習						授業プリント・2時間		授業プリント・2時間		
	10	N2 読解情報検索・聴解・文法問題演習						授業プリント・2時間		授業プリント・2時間		
	11	N2 読解情報検索・聴解・文法問題演習						授業プリント・2時間		授業プリント・2時間		
	12	N2 読解・聴解情報検索・文法問題演習						授業プリント・2時間		授業プリント・2時間		
	13	N2 読解総合・聴解・文法問題演習						授業プリント・2時間		授業プリント・2時間		
	14	N2 読解総合・聴解・文法問題演習						授業プリント・2時間		授業プリント・2時間		
15	試験・まとめ						授業プリント・3時間		授業プリント・2時間			
成績評価基準	毎回の小テストが平常点となる。平常点と筆記試験、授業態度で評価する。											
成績評価方法 (割合%)	筆記試験			レポート			課題		実技		授業の取組	その他()
	50										50	
教科書	プリント配布						参考書		スピードマスターシリーズ 完全マスターシリーズ 日本語総まとめシリーズ			
課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法	試験内容の解説後、やり直しを提出。											

科目名	ゼミナール							Seminar		担当者	竹之内 美樹香			
開講年度	2020	学年	2年	開講期	通年 (後期)	単位数	2	授業 形態	演習	必修・選択 の区分	必修			
授業の 到達目標	<p>このゼミは大学の編入試験に合格できるレベルの日本語を最終目標とする。そのための到達目標として以下のことをできるようにする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、理由や具体例を示しながら、自分の意見を正しく表現することができる。 2、ある程度まとまりのある学術的な文章を読むことができるようになる。 3、自分が表現したいことを正確に表現するために、正しい文法を適切に使うことができる。 4、相手を説得できるように根拠を示しながら、自分の意見をレポート形式で書くことができる。 													
授業概要	<p>N2に合格するための演習を積む。その過程で到達目標に掲げる内容を習得できるようにしていく。聴解・読解をメインにN2の演習問題を繰り返し、予習として語彙を覚える。 身近な社会問題について自分の意見をレポート形式で書く練習から始め、ある程度まとまりのある文章を構築することができるようにし、800字の記述が書けるレベルになるまで訓練する。</p>													
授業計画	授業のテーマ								予習内容・時間		復習内容・時間			
	1	大学私費留学生入試問題過去問題演習・解説・やり直し							授業プリント・2時間		授業プリント・2時間			
	2	大学私費留学生入試問題過去問題演習・解説・やり直し							授業プリント・2時間		授業プリント・2時間			
	3	大学私費留学生入試問題過去問題演習・解説・やり直し							授業プリント・2時間		授業プリント・2時間			
	4	大学私費留学生入試問題過去問題演習・解説・やり直し							授業プリント・2時間		授業プリント・2時間			
	5	大学私費留学生入試問題過去問題演習・解説・やり直し							授業プリント・2時間		授業プリント・2時間			
	6	大学私費留学生入試問題過去問題演習・解説・やり直し							授業プリント・2時間		授業プリント・2時間			
	7	大学私費留学生入試問題過去問題演習・解説・やり直し							授業プリント・2時間		授業プリント・2時間			
	8	大学私費留学生入試問題過去問題演習・解説・やり直し							授業プリント・2時間		授業プリント・2時間			
	9	表・グラフ分析・新聞記事を読む／レポートを書く							授業プリント・2時間		授業プリント・2時間			
	10	表・グラフ分析・新聞記事を読む／レポートを書く							授業プリント・2時間		授業プリント・2時間			
	11	表・グラフ分析・新聞記事を読む／レポートを書く							授業プリント・2時間		授業プリント・2時間			
	12	表・グラフ分析・新聞記事を読む／レポートを書く							授業プリント・2時間		授業プリント・2時間			
	13	800字レポートを書いて、要旨を発表する							授業プリント・2時間		授業プリント・2時間			
	14	800字レポートを書いて、要旨を発表する							授業プリント・2時間		授業プリント・2時間			
15	試験・まとめ							授業プリント・3時間		授業プリント・2時間				
成績評価基準	毎回の小テストが平常点となる。平常点と筆記試験、授業態度で評価する。													
成績評価方法 (割合%)	筆記試験			レポート			課題			実技		授業の取組		その他()
	50											50		
教科書	プリント配布							参考書		『新聞で学ぶ日本語』				
課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法	試験内容の解説後、やり直しをして提出。													

科目名	イベント研修Ⅱ Training for Ivent Ⅱ							担当者	徳永 玲子 今木 清志 宮谷未知子 黒瀬 菜々 <small>実務家教員</small>			
開講年度	2020	学年	2	開講期	通年	単位数	2	授業形態	演習	必修・選択の区分	必修	
授業の到達目標	本学科はあくまで「デビューの名に値するデビューを目指す」学科である。対外的イベントを展開しうるだけの基礎的資質を有した学生に対して、ジャンル別の特訓を課し、学科主催のイベントという総合的なエンターテインメントショーを構成できる水準にまで上昇せしめることを目的とする。											
授業概要	本科目はイベント研修Ⅰの継続である。本学科は対外ライブを年3回程度開催、対外発表会を年1回開催し、ダンスユニット・声優ユニット・演劇ユニット・テクグループそれぞれの学生達が自力で対外的イベントを構成・展開しうる水準を目指すために、テレビドラマの制作現場でプロデューサーとしての実務経験を持つ教員等が指導します。											
授業計画	授業のテーマ							予習内容・時間		復習内容・時間		
	イベント研修Ⅰにおける経験をさらに深め、観察・実践を主とする演習を行う。							(イベント前) 観客への告知・会場設営 ポスター作成などの準備を行う事。(5時間)		観客への反応の分析・会場設営の実践・告知やポスターへの反応の分析を通じて次回のイベントの質の向上に役立てる。(3時間)		
	観察	①外部の劇団・アイドルグループ・声優事務所などの活動を SNS を活用して観察する。 ②外部団体の実際の運営方法を観察する。 ③芸能界の情報を収集する。										
	実践	①学科の公式 SHOWROOM 配信の他に、学生自身も配信を行うこと。 ②各ユニットは自主的訓練に励むこと。						(イベント後) 撤収作業や観客への対応を適切に行う事。(1時間)				
実務家教員は、各ユニットの自主性を尊重しつつ、適切な助言を与えることとする。												
成績評価基準	各グループがいかなる自主的訓練を積み重ねたか、観客にいかなる感動を与えたかの2点に於いて評価する。											
成績評価方法(割合%)	筆記試験	レポート	課題	実技	授業の取組	その他()						
					100							
教科書	なし						参考書	世界カワイイ革命 櫻井孝昌 著 (PHP 新書)				
課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法	イベント終了後、学生同士でディスカッションをする場を設け、総合的なフィードバックを行う。											

科目名	ボイス・トレーニング I Voice training I							担当者	林 麻 耶			
開講年度	2020	学年	2	開講期	前期	単位数	1	授業形態	演習	必修・選択の区分	選択	
授業の到達目標	より美しく響きのある音色を求めて、基本的な発声法・呼吸法を楽しく勉強する。また有名なミュージカルナンバーをソロ・デュオ・アンサンブル等いろいろな形でとり上げ、メロディ・リズム・ハーモニーを体で感じ聴き手の心に響くように歌う事を目標とする。											
授業概要	ソプラノ歌手である教員が、音程やリズムなどを正確に歌うだけでなく、歌を通して自己表現する方法・感情表現する方法など応用的な部分を教えます。最終回には公開発表会をするため、そこに向けて作品を作りあげていきます。											
授業計画	授業のテーマ							予習内容・時間	復習内容・時間			
	1	ガイダンス。1年生の時の振り返り。					次回取り組む箇所の講読みをし、教科書を読んでおく(30分)	授業で学習した内容の確認、理解を深める(30分)				
	2	二部合唱①：音程、フレーズの確認。					次回取り組む箇所の講読みをし、教科書を読んでおく(30分)	授業で学習した内容の確認、理解を深める(30分)				
	3	二部合唱②：詩の内容、言葉の表現の研究。					次回取り組む箇所の講読みをし、教科書を読んでおく(30分)	授業で学習した内容の確認、理解を深める(30分)				
	4	二部合唱③：各部分、各パートの音の確認。役割を理解する。					次回取り組む箇所の講読みをし、教科書を読んでおく(30分)	授業で学習した内容の確認、理解を深める(30分)				
	5	二部合唱④：表現力を高め、仕上げる。					次回取り組む箇所の講読みをし、教科書を読んでおく(30分)	授業で学習した内容の確認、理解を深める(30分)				
	6	ミュージカル Duo ①：音程、フレーズの確認。					自分が歌うミュージカルソングの内容(作曲者、作詞者、初演、ミュージカル名、役名、あらすじ、歌詞の内容、歌われる場面)等を調べておく。複数で歌唱するデュエット、トリオ等を取り組むときは、授業以外に相手との練習時間を取り予習をして臨むこと。(30分)	授業で学習した内容の確認、理解を深める(30分)				
	7	ミュージカル Duo ②：詩の内容、言葉の表現の研究。						授業で学習した内容の確認、理解を深める(30分)				
	8	ミュージカル Duo ③：配役決め、相応しい動きを考える						授業で学習した内容の確認、理解を深める(30分)				
	9	ミュージカル Duo ④：表現力を高め、仕上げる。						授業で学習した内容の確認、理解を深める(30分)				
	10	ミュージカルシーン①：音程、フレーズの確認。						授業で学習した内容の確認、理解を深める(30分)				
	11	ミュージカルシーン②：配役決め、各役の練習						授業で学習した内容の確認、理解を深める(30分)				
	12	ミュージカルシーン③：詩の内容、言葉の表現の研究。						授業で学習した内容の確認、理解を深める(30分)				
	13	ミュージカルシーン④：表現力を高め、仕上げる。						授業で学習した内容の確認、理解を深める(30分)				
	14	公開発表会リハーサル、仕上げ						授業で学習した内容の確認、理解を深める(30分)				
15	まとめ、公開発表会					録画・録音をして客観的な見え方を研究する(30分)		授業で学習した内容の確認、理解を深める(30分)				
成績評価基準	到達目標に基づき、平常の授業への取り組みと、積極的な姿勢を総合的に評価する。											
成績評価方法(割合%)	筆記試験	レポート	課題	実技	授業の取組	その他()						
				50	50							
教科書	コーラス・トレーニング2(サーベル)					参考書		プリントを配布する				
課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法	発表の機会を得た後は、振り返り、感想を述べあうと共に、今後の課題を確認する。(音源や映像などで)											

科目名	ボイス・トレーニングⅡ Voice training Ⅱ							担当者	林 麻 耶			
開講年度	2020	学年	2	開講期	後期	単位数	1	授業形態	演習	必修・選択の区分	選択	
授業の到達目標	より美しく響きのある音色を求めて、基本的な発声法・呼吸法を楽しく勉強する。また有名なミュージカルナンバーをソロ・デュオ・アンサンブル等いろいろな形でとり上げ、メロディ・リズム・ハーモニーを体で感じ聴き手の心に響くように歌う事を目標とする。											
授業概要	ソプラノ歌手である教員が、音程やリズムなどを正確に歌うだけでなく、歌を通して自己表現する方法・感情表現する方法など応用的な部分を教えます。最終回には1・2年生合同の発表会をするため、そこに向けて作品を作りあげていきます。											
授業計画	授業のテーマ							予習内容・時間	復習内容・時間			
	1	西短オリジナルソング3-①：音程、フレーズの確認。						次回取り組む箇所の譜読みをし、教科書を読んでおく(30分)	授業で学習した内容の確認、理解を深める(30分)			
	2	西短オリジナルソング3-②：詩の内容、言葉の表現の研究。						次回取り組む箇所の譜読みをし、教科書を読んでおく(30分)	授業で学習した内容の確認、理解を深める(30分)			
	3	西短オリジナルソング3-③：表現力を高め、仕上げる。						次回取り組む箇所の譜読みをし、教科書を読んでおく(30分)	授業で学習した内容の確認、理解を深める(30分)			
	4	ミュージカル Duo ①：音程、フレーズの確認。					自分が歌うミュージカルソングの内容(作曲者、作詞者、初演、ミュージカル名、役名、あらすじ、歌詞の内容、歌われる場面)等を調べておく。複数で歌唱するデュエット、トリオ等を取り組むときは、授業以外に相手との練習時間を取り予習をして臨むこと。(30分)	授業で学習した内容の確認、理解を深める(30分)				
	5	ミュージカル Duo ②：詩の内容、言葉の表現の研究。						授業で学習した内容の確認、理解を深める(30分)				
	6	ミュージカル Duo ③：配役決め、相応しい動きを考える						授業で学習した内容の確認、理解を深める(30分)				
	7	ミュージカル Duo ④：表現力を高め、仕上げる。						授業で学習した内容の確認、理解を深める(30分)				
	8	ミュージカル DVD 鑑賞(前半)						授業で学習した内容の確認、理解を深める(30分)				
	9	ミュージカル DVD 鑑賞(後半)・ミュージカルシーン①：音程確認						授業で学習した内容の確認、理解を深める(30分)				
	10	ミュージカルシーン②：音程、フレーズの確認。						授業で学習した内容の確認、理解を深める(30分)				
	11	ミュージカルシーン③：配役決め、各役の練習						授業で学習した内容の確認、理解を深める(30分)				
	12	ミュージカルシーン④：詩の内容、言葉の表現の研究。						授業で学習した内容の確認、理解を深める(30分)				
	13	ミュージカルシーン⑤：表現力を高め、仕上げる。						授業で学習した内容の確認、理解を深める(30分)				
	14	合同発表会リハーサル、仕上げ						授業で学習した内容の確認、理解を深める(30分)				
15	まとめ、合同発表会					録画・録音をして客観的な見え方を研究する(30分)			授業で学習した内容の確認、理解を深める(30分)			
成績評価基準	到達目標に基づき、平常の授業への取り組みと、積極的な姿勢を総合的に評価する。											
成績評価方法(割合%)	筆記試験		レポート		課題			実技		授業の取組		その他()
								50		50		
教科書	コーラス・トレーニング2(サーベル)					参考書	プリントを配布する					
課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法	発表の機会を得た後は、振り返り、感想を述べあうと共に、今後の課題を確認する。(音源や映像などで)											

科目名	アナウンスメントⅡ-A AnnouncementⅡ-A							担当者	林 亜 美				
開講年度	2020	学年	1	開講期	前期	単位数	1	授業形態	演習	必修・選択の区分	選択		
授業の到達目標	伝えたいことをニュース形式の原稿にまとめることができる。原稿を一回で聞いている人に伝わるように読むことができる。自分の表現したいことをステージで分かりやすく伝えることができる。												
授業概要	本校の非常勤講師を5年前から拝任。大学在学中から、福岡のテレビ局でリポーター経験をしたのち長崎文化放送で記者・アナウンサーとして4年勤務。退社後はRKBのニュースアナウンサーや天気コーナー、情報バラエティ番組などを担当。以上の経験を活かし、発声・活舌の基礎から復讐する。また、自分でニュース原稿を作ったり実際に使用した原稿を使い伝わる読みを学ぶ。後期では、必要な授業をヒアリングしその時の生徒に合わせた授業をします。												
授業計画	授業のテーマ							予習内容・時間		復習内容・時間			
	1	発声・発音						発声・発音 (30分)		ニュース原稿(30分)			
	2	ニュース原稿の作成と発表						発声・発音 (30分)		ニュース原稿(30分)			
	3	↓						発声・発音 (30分)		ニュース原稿(30分)			
	4	↓						発声・発音 (30分)		ニュース原稿(30分)			
	5	↓						発声・発音 (30分)		ニュース原稿(30分)			
	6	↓						発声・発音 (30分)		ニュース原稿(30分)			
	7	↓						発声・発音 (30分)		ニュース原稿(30分)			
	8	↓						発声・発音 (30分)		ニュース原稿(30分)			
	9	↓						発声・発音 (30分)		ニュース原稿(30分)			
	10	↓						発声・発音 (30分)		ニュース原稿(30分)			
	11	↓						発声・発音 (30分)		ニュース原稿(30分)			
	12	↓						発声・発音 (30分)		ニュース原稿(30分)			
	13	↓						発声・発音 (30分)		ニュース原稿(30分)			
	14	試験準備						発声・発音 (30分)		試験準備 (30分)			
15	まとめ						発声・発音 (30分)		振り返り (30分)				
成績評価基準	試験結果。授業での講評に対しての復讐がきちんとできているか。												
成績評価方法 (割合%)	筆記試験			レポート			課題		実技		授業の取組		その他 ()
									50		50		
教科書	「NHK」アクセント辞典新版						参考書						
課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法	試験のフィードバックとして、講評や解説の時間を設ける。												

科目名	アナウンスメントⅡ-B AnnouncementⅡ-B							担当者	林 亜 美				
開講年度	2020	学年	1	開講期	後期	単位数	1	授業形態	演習	必修・選択の区分	選択		
授業の到達目標	伝えたいことをニュース形式の原稿にまとめることができる。原稿を一回で聞いている人に伝わるように読むことができる。自分の表現したいことをステージで分かりやすく伝えることができる。												
授業概要	本校の非常勤講師を5年前から拝任。大学在学中から、福岡のテレビ局でリポーター経験をしたのち長崎文化放送で記者・アナウンサーとして4年勤務。退社後はRKBのニュースアナウンサーや天気コーナー、情報バラエティ番組などを担当。以上の経験を活かし、発声・活舌の基礎から復讐する。また、自分でニュース原稿を作ったり実際に使用した原稿を使い伝わる読みを学ぶ。後期では、必要な授業をヒアリングしその時の生徒に合わせた授業をします。												
授業計画	授業のテーマ							予習内容・時間		復習内容・時間			
	1	発声・発音						発声・発音 (30分)		ニュース原稿 (30分)			
	2	ニュース読み						発声・発音 (30分)		ニュース原稿 (30分)			
	3	↓						発声・発音 (30分)		ニュース原稿 (30分)			
	4	ナレーション読み						発声・発音 (30分)		ナレーション (30分)			
	5	↓						発声・発音 (30分)		ナレーション (30分)			
	6	生徒ヒアリング後、必要な授業をします						発声・発音 (30分)		授業後に指定 (30分)			
	7	↓						発声・発音 (30分)		授業後に指定 (30分)			
	8	↓						発声・発音 (30分)		授業後に指定 (30分)			
	9	↓						発声・発音 (30分)		授業後に指定 (30分)			
	10	↓						発声・発音 (30分)		授業後に指定 (30分)			
	11	↓						発声・発音 (30分)		授業後に指定 (30分)			
	12	↓						発声・発音 (30分)		授業後に指定 (30分)			
	13	ステージ企画						発声・発音 (30分)		ステージ企画 (30分)			
	14	試験準備						発声・発音 (30分)		試験準備 (30分)			
15	まとめ						発声・発音 (30分)		振り返り (30分)				
成績評価基準	試験結果。授業での講評に対しての復讐がきちんとできているか。												
成績評価方法 (割合%)	筆記試験			レポート			課題		実技		授業の取組		その他 ()
									50		50		
教科書	「NHK」アクセント辞典新版						参考書						
課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法	試験のフィードバックとして、講評や解説の時間を設ける。												

科目名	映像演技Ⅲ							Performing Arts Ⅲ		担当者	徳永玲子		
開講年度	2020	学年	2	開講期	前期	単位数	1	授業形態	演習	必修・選択の区分	選択		
授業の到達目標	より魅力的な美しい動きと声・表情で、演技・表現できるようになる。												
授業概要	演技・ポージング・司会・ナレーション・アフレコ等の訓練												
授業計画	授業のテーマ							予習内容・時間		復習内容・時間			
	1	発声 DVD「教育全集モデル編」						新聞を読む (30分)		感想を書く (30分)			
	2	発声 DVD「教育全集就活・対策編」											
	3	司会											
	4	ナレーション ニュース原稿											
	5	天気予報											
	6	インフォマーシャル											
	7	フリートーク テーマに添って											
	8	インタビュー											
	9	新聞を読み解く											
	10	朗読「たけくらべ」											
	11												
	12												
	13												
	14												
15	「外郎売り」朗読テスト												
成績評価基準	「外郎売り」朗読												
成績評価方法 (割合%)	筆記試験		レポート		課題		実技		授業の取組		その他 ()		
							80		20				
教科書	使用しない						参考書		適宜、紹介				
課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法	授業中に朗読劇の発表												

科目名	映像演技Ⅳ							Performing Arts Ⅳ		担当者	徳永玲子		
開講年度	2020	学年	2	開講期	後期	単位数	1	授業形態	演習	必修・選択の区分	選択		
授業の到達目標	作品創りに関する総合的な知識・技能の習得 就職・進学対策を始める												
授業概要	面接・オーディションで問われる能力を身に付ける												
授業計画	授業のテーマ							予習内容・時間		復習内容・時間			
	1	発声	自己PR					得意技を追求(30分)		得意技を磨く(30分)			
	2		友人を取材し、レポートする										
	3		一枚の絵、写真をレポートする										
	4		ポージング、ダンス、歌唱、朗読の撮影										
	5		映画「ローマの休日」アフレコ										
	6		シェイクスピアのセリフ										
	7		↓										
	8		↓										
	9		面接対策	質疑応答									
	10		フリートーク										
	11		価値観の確立										
	12		↓										
	13		着付け、日本舞踊										
	14		日本の伝統文化に触れる										
15		「外郎売り」暗記朗読テスト											
成績評価基準	「外郎売り」朗読												
成績評価方法(割合%)	筆記試験		レポート		課題		実技		授業の取組		その他()		
							80		20				
教科書	使用しない					参考書	適宜、紹介						
課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法	授業中に毎回「外郎売り」を朗読する。												

科目名	ボディ・メイキング I Body Making I							担当者	宮 谷 未知子 実務家教員			
開講年度	2020	学年	2	開講期	前期	単位数	1	授業形態	演習	必修・選択の区分	実務・選択	
授業の到達目標	より幅広い表現力を養うため、自身の身体と向き合い適切なコントロールができるようになる。健康でバランスのとれたプロポーションをつくるための方法を身につける。											
授業概要	ダンスやエクササイズ指導の経験を持つ教員がその実務経験を活かし、健康でバランスのとれたプロポーションづくりのためのトレーニング方法や、ストレッチ方法を指導する。											
授業計画	授業のテーマ							予習内容・時間		復習内容・時間		
	1	自分の身体の特徴を知る（アライメントチェック・自己目標の設定）					自分の理想とするプロポーションを考え画像を集める。(30分)		授業で習った動きを自主練習する(30分)			
	2	身体コントロールの基本1（骨盤のコントロール）					指定した動画を視聴し、その動き特徴を分析しまとめる(30分)					
	3	身体コントロールの基本2（背骨のコントロール）										
	4	身体コントロールの基本3（肩甲骨のコントロール）										
	5	身体コントロールの基本4（腕・脚のコントロール）										
	6	バランス感覚を身につける1（ボールエクササイズ）										
	7	バランス感覚を身につける2（ボールエクササイズ）										
	8	バランス感覚を身につける3（ボールエクササイズ）										
	9	柔軟性向上のためのストレッチ1										
	10	柔軟性向上のためのストレッチ2										
	11	柔軟性向上のためのストレッチ3										
	12	自分でエクササイズ・ストレッチプランを組み立てる1										
	13	自分でエクササイズ・ストレッチプランを組み立てる2										
	14	実技テスト・ビデオ撮影										
	15	フィードバック・まとめ										
成績評価基準	自分の身体へ真摯に向き合い、適切に身体をコントロール出来ているか評価する。また、それぞれのエクササイズやストレッチの意味を理解し、積極的に授業へ取り組んでいるかどうかを評価する。											
成績評価方法 (割合%)	筆記試験		レポート		課題		実技		授業の取組		その他()	
							30		70			
教科書	なし					参考書		新版「これ一冊できちんとわかるピラティス」 新井亜樹 監修 最強のヨガレッスン レスリー・カミノフ著				
課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法	実技試験のビデオ撮影を行い、今後の課題や改善点を一人ずつフィードバックする時間を設ける。											

科目名	ボディ・メイキングⅡ Body Making Ⅱ							担当者	宮谷 未知子 実務家教員			
開講年度	2020	学年	2	開講期	後期	単位数	1	授業形態	演習	必修・選択の区分	実務・選択	
授業の到達目標	ボディメイキングⅠで習得した動きをより深め、幅広い表現力を養うため自身の身体と向き合い適切なコントロールができるようになる。 健康でバランスのとれたプロポーションをつくるための方法を身につける。											
授業概要	ダンスやエクササイズ指導の経験を持つ教員がその実務経験を活かし、健康でバランスのとれたプロポーションづくりのためのトレーニング方法や、ストレッチ方法を指導する。											
授業計画	授業のテーマ							予習内容・時間		復習内容・時間		
	1	前期の振り返り（アライメントチェック・自己目標の見直し）					前期に決めた自己目標の見直し（30分）		授業で習った動きを自主練習する（30分）			
	2	身体コントロールの復習1					指定した動画を視聴し、その動き特徴を分析しまとめる（30分）					
	3	身体コントロールの復習2										
	4	身体コントロールの復習3										
	5	身体コントロールの復習4										
	6	バランス感覚を身につける・応用1（ボールエクササイズ）										
	7	バランス感覚を身につける・応用2（ボールエクササイズ）										
	8	バランス感覚を身につける・応用3（ボールエクササイズ）										
	9	柔軟性向上のためのストレッチ応用1										
	10	柔軟性向上のためのストレッチ応用2										
	11	柔軟性向上のためのストレッチ応用3										
	12	自分でエクササイズ・ストレッチプランを組み立てる1										
	13	自分でエクササイズ・ストレッチプランを組み立てる2										
	14	実技テスト・ビデオ撮影										
	15	フィードバック・まとめ										
成績評価基準	自分の身体へ真摯に向き合い、適切に身体をコントロール出来ているか評価する。 また、それぞれのエクササイズやストレッチの意味を理解し、積極的に授業へ取り組んでいるかどうかを評価する。											
成績評価方法 (割合%)	筆記試験		レポート		課題		実技		授業の取組		その他()	
							30		70			
教科書	なし					参考書		新版「これ一冊できちんとわかるピラティス」 新井亜樹 監修 最強のヨガレッスン レスリー・カミノフ著				
課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法	実技試験のビデオ撮影を行い、今後の課題や改善点を一人ずつフィードバックする時間を設ける。											

科目名	洋舞特演Ⅱ-A For Dance Professional&AdvancedⅡ-A							担当者	宮谷 未知子 実務家教員				
開講年度	2020	学年	2	開講期	前期	単位数	1	授業形態	演習	必修・選択の区分	実務・選択		
授業の到達目標	洋舞特演Ⅰ-A・Ⅰ-Bで習得した動きから、さらに発展させていく。ステージパフォーマンスの基本となるJAZZダンスの基礎的な動きを使った様々なコンビネーション（振付）を経験することで表現の幅を広げる。動きに感情を寄せ、音楽にあった表現の仕方を身につける。												
授業概要	ダンスインストラクターやアーティストバックダンサーの実務経験を持つ教員が、身体表現の幅を広げステージで表現するための実践的授業を行う。また、踊るために必要な身体づくりのためのトレーニング指導を行う。												
授業計画	授業のテーマ							予習内容・時間		復習内容・時間			
	1	はじめに（ダンスレッスンを受講するにあたっての注意点）					好きなアーティストのパフォーマンスを研究する(30分)		授業で習った動きを自主練習する(30分)				
	2	基本的な動きの復習1 + 踊るためのトレーニング					指定したダンス動画を視聴し、動きの特徴を分析する(30分)						
	3	基本的な動きの復習2 + 踊るためのトレーニング											
	4	基本的な動きの復習3 + 踊るためのトレーニング											
	5	基本的な動きの復習4 + 踊るためのトレーニング											
	6	基本的な動きを組み合わせたコンビネーション1											
	7	基本的な動きを組み合わせたコンビネーション2											
	8	基本的な動きを組み合わせたコンビネーション3											
	9	基本的な動きを組み合わせたコンビネーション4											
	10	コンビネーション応用（音楽に合わせた感情表現）1											
	11	コンビネーション応用（音楽に合わせた感情表現）2											
	12	コンビネーション応用（音楽に合わせた感情表現）3											
	13	コンビネーション応用（音楽に合わせた感情表現）4											
	14	実技テスト・ビデオ撮影											
	15	フィードバック・まとめ											
成績評価基準	授業で習った様々な動きや振付をどれくらい習得できているか、音楽に合わせた表現が出来ているか実技試験で判断する。 毎回の授業で集中し自身の身体をコントロールしようと努めているかどうか、その取り組みの姿勢を評価する。												
成績評価方法（割合％）	筆記試験			レポート			課題		実技		授業の取組		その他（ ）
									30		70		
教科書	なし						参考書		「ダンス解剖学」 ジャッキー・グリーン・ハース著 武田淳也 監訳				
課題（試験、レポート等）に対するフィードバックの方法	実技試験のビデオ撮影を行い、今後の課題や改善点を一人ずつフィードバックする時間を設ける。												

科目名	洋舞特演Ⅱ-B For Dance Professional&AdvancedⅡ-B							担当者	宮谷 未知子 実務家教員			
開講年度	2020	学年	2	開講期	後期	単位数	1	授業形態	演習	必修・選択の区分	実務・選択	
授業の到達目標	洋舞特演Ⅱ-Aで経験したことを通し、さらに表現を発展させていく。ステージパフォーマンスの基本となるJAZZダンスの基礎的な動きをさらに応用し、様々なコンビネーション(振付)を経験することで表現の幅を広げる。動きに感情を乗せ、音楽にあった表現の仕方を身につける。											
授業概要	ダンスインストラクターやアーティストバックダンサーの実務経験を持つ教員が、身体表現の幅を広げステージで表現するための実践的授業を行う。また、踊るために必要な身体づくりのためのトレーニング指導を行う。											
授業計画	授業のテーマ							予習内容・時間		復習内容・時間		
	1	前期の振り返り					好きなアーティストのパフォーマンスを研究する(30分)		授業で習った動きを自主練習する(30分)			
	2	基本的な動きの復習1 + 踊るためのトレーニング					指定したダンス動画を視聴し、動きの特徴を分析する(30分)					
	3	基本的な動きの復習2 + 踊るためのトレーニング										
	4	基本的な動きの復習3 + 踊るためのトレーニング										
	5	基本的な動きの復習4 + 踊るためのトレーニング										
	6	基本的な動きを組み合わせたコンビネーション1										
	7	基本的な動きを組み合わせたコンビネーション2										
	8	基本的な動きを組み合わせたコンビネーション3										
	9	基本的な動きを組み合わせたコンビネーション4										
	10	コンビネーション応用(音楽に合わせた感情表現)1										
	11	コンビネーション応用(音楽に合わせた感情表現)2										
	12	コンビネーション応用(音楽に合わせた感情表現)3										
	13	コンビネーション応用(音楽に合わせた感情表現)4										
	14	実技テスト・ビデオ撮影										
15	フィードバック・まとめ											
成績評価基準	授業で習った様々な動きや振付をどれくらい習得できているか、音楽に合わせた表現が出来ているか実技試験で判断する。 毎回の授業で集中し自身の身体をコントロールしようと努めているかどうか、その取り組みの姿勢を評価する。											
成績評価方法(割合%)	筆記試験			レポート			課題		実技		授業の取組	その他()
									30		70	
教科書	なし						参考書		「ダンス解剖学」 ジャッキー・グリーン・ハース著 武田淳也 監訳			
課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法	実技試験のビデオ撮影を行い、今後の課題や改善点を一人ずつフィードバックする時間を設ける。											

科目名	モデルストリートⅡ Model Street Ⅱ							担当者	川野 聡子 実務家教員			
開講年度	2020	学年	2年	開講期	後期	単位数	1	授業形態	演習	必修・選択の区分	選択	
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・姿勢が美しくなる ・基礎のウォーキングを身に付けることができる ・リズム感や表情力を養うことができる 											
授業概要	<p>プロモデルレッスンコーチがモデルの経験を生かし、モデルウォーキングを学びます。 自分の体のクセを知り、改善に向け体作りをしながら、様々なテーマや音楽、シチュエーションによって異なるウォーキングや表現方法を取得します。</p>											
授業計画	授業のテーマ							予習内容・時間	復習内容・時間			
	1	基礎① ストレッチ・姿勢・ウォーキング基礎					ストレッチ・筋トレ (30分)		姿勢を意識する (30分)			
	2	基礎② ストレッチ・姿勢・ウォーキング・ターン					ストレッチ・筋トレ (30分)		ターンの練習 (30分)			
	3	基礎③ ストレッチ・ウォーキング・ターン・ポージング					ストレッチ・筋トレ (30分)		ターンの練習 (30分)			
	4	基礎④ ストレッチ・ウォーキング・フォーメーション					ストレッチ・筋トレ (30分)		ターンの練習 (30分)			
	5	基礎⑤ ストレッチ・ウォーキング・フォーメーション					ストレッチ・筋トレ (30分)		ターンの練習 (30分)			
	6	基礎⑥ 小物の見せ方					ストレッチ・筋トレ (30分)		小物使いの練習 (30分)			
	7	基礎⑦ ジャケット・コートの扱い方					ストレッチ・筋トレ (30分)		ジャケット脱ぎ着の練習 (30分)			
	8	基礎⑧ ステージショー					ストレッチ・筋トレ (30分)		小物、上着の練習 (30分)			
	9	ブライダル① ドレスウォーキング・ターン					ストレッチ・筋トレ (30分)		ポーズ、表情の練習 (30分)			
	10	ブライダル② ドレスウォーキング・ターン					ストレッチ・筋トレ (30分)		ポーズ、表情の練習 (30分)			
	11	ブライダル③ ドレスエスコート					ストレッチ・筋トレ (30分)		ポーズ、表情の練習 (30分)			
	12	ブライダル④ ブライダルまとめ					ストレッチ・筋トレ (30分)		ウォーキング+ターン (30分)			
	13	着物の歩き方					ストレッチ・筋トレ (30分)		ウォーキング+ターン (30分)			
	14	着物の歩き方					ストレッチ・筋トレ (30分)		ウォーキング+ターン (30分)			
15	まとめ					ストレッチ・筋トレ (30分)		ウォーキング+ターン (30分)				
成績評価基準	実技試験の結果により評価する											
成績評価方法 (割合%)	筆記試験		レポート		課題		実技		授業の取組		その他 ()	
							80		20			
教科書	使用しない					参考書	使用しない					
課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法	試験のフィードバックとして、講評や解説の時間を設ける。											

科目名	アフレコⅢ							Post Recording Ⅲ		担当者	小 鶴 史 江			
開講年度	2020	学年	2年	開講期	前期	単位数	1	授業形態	演習	必修・選択の区分	必修	選択	選択	
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・文章から作品の完成形を複数イメージすることができる。 ・様々なキャラクターを表現する。 ・アフレコをはじめとする映像表現に声を載せることに慣れる。 ・声優業のオーディションを受けるための心構えを身につける。 													
授業概要	<p>声優として収録や撮影の現場を経験してきた教員が、学び体験したできごとを例として挙げながら、実際の現場に立つにあたって必要な技術とその応用を学びます。個人個人で異なる個性を表現していくことを学びます。</p>													
授業計画	授業のテーマ							予習内容・時間		復習内容・時間				
	1	オリエンテーション（個々の目標の確認）／基礎力の確認							自己の目標の確認（30分）		本日課題の音読（30分）			
	2	表現力のトレーニング（CM、朗読、ナレーション、科白など）							既読作品の朗読（30分）		本日課題の音読（30分）			
	3													
	4													
	5													
	6													
	7													
	8	アフレコ表現のトレーニング												
	9													
	10													
	11													
	12	個人課題のトレーニング（オーディション対策）												
	13													
	14	試験・習得技術と必要技術の確認												
15	総括・まとめ・ふり返り													
成績評価基準	<p>作品に対し、どのような完成形をイメージしているのか、それを実行するために工夫していること、やろうと試みたことを評価する。</p>													
成績評価方法（割合％）	筆記試験		レポート		課題		実技		授業の取組		その他（魅力）			
	0		0		0		70		20		10			
教科書	なし						参考書	「NHK 日本語発声アクセント新辞典(NHK出版)」						
課題（試験、レポート等）に対するフィードバックの方法	<p>毎回の課題に対し、個々への評価及び問題点とその改善案を提案する。</p>													

科目名	アフレコⅣ							Post Recording Ⅳ		担当者	小 鶴 史 江		
開講年度	2020	学年	2年	開講期	後期	単位数	1	授業形態	演習	必修・選択の区分	選択		
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・文章から作品の完成形を複数イメージすることができる。 ・個性を磨き、自分らしい表現方法を開拓する。 ・様々な作品を声のみで表現できる。 ・仕事をする上で必要な心構えと技術を身につけ、体現できる。 												
授業概要	<p>声優として収録や撮影の現場を経験してきた教員が、学び体験したできごとを例として挙げながら、実際の現場に立つにあたって必要な技術とその応用を学びます。作品を完成させる責任を感じながらも、作品として完成させることができる喜びを学びます。</p>												
授業計画	授業のテーマ								予習内容・時間		復習内容・時間		
	1	オリエンテーション（個々の目標の確認）／基礎力の確認							自己の目標の確認（30分）		本日課題の音読（30分）		
	2	表現力のトレーニング（CM、朗読、ナレーション、科白など）							既読作品の朗読（30分）		本日課題の音読（30分）		
	3	↓											
	4												
	5												
	6								個人課題のトレーニング				
	7	↓											
	8								アフレコ表現のトレーニング				
	9	↓											
	10												
	11												
	12												
	13	↓											
	14								試験・習得技術と必要技術の確認				
15	総括・まとめ・ふり返り												
成績評価基準	<p>作品に対し、どのような完成形をイメージしているのか、それを実行するために工夫していること、やろうと試みたことを評価する。</p>												
成績評価方法（割合％）	筆記試験	レポート	課題	実技	授業の取組	その他（魅力）							
	0	0	0	70	20	10							
教科書	なし							参考書	「NHK 日本語発声アクセント新辞典(NHK 出版)」				
課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法	<p>毎回の課題に対し、個々への評価及び問題点とその改善案を提案する。</p>												

科目名	ラジオ番組制作演習 Training of Radio Program creation							担当者	上田 知 佳		
開講年度	2020	学年	2	開講期	通年 (前期)	単位数	2	授業 形態	演習	必修・選択 の区分	選択
授業の 到達目標	ラジオでのレポートの仕方を学び、表現出来るようになる。										
授業概要	練習、反省を繰り返す事で、ラジオでのレポートが出来るようになる。										
授業計画	授業のテーマ							予習内容・時間	復習内容・時間		
	1	ガイダンス						好きなラジオ番組を聴いておく。(30分)	授業で学んだ事を復習、やり直し(30分)		
	2	自己PRについて。						自己PRをまとめておく(30分)	授業で学んだ事を復習、やり直し(30分)		
	3	ラジオレポート実習。(季節ネタ)						桜について描写、レポート出来るよう見てまとめておく。(30分)	授業で学んだ事を復習、やり直し(30分)		
	4	1分間スピーチ。						日々の出来事を1分間で話す練習。(30分)	授業で学んだ事を復習、やり直し(30分)		
	5	ラジオレポート実習。(季節ネタ)						あじさいについて描写レポート出来るよう見てまとめておく。(30分)	授業で学んだ事を復習、やり直し(30分)		
	6	ラジオレポート実習。(エリアの祭り)						博多どんたくについてレポート出来るよう調べる。(30分)	授業で学んだ事を復習、やり直し(30分)		
	7	ラジオレポート実習。(時事ネタ)						新聞を読み、気になる話題をまとめておく。(30分)	授業で学んだ事を復習、やり直し(30分)		
	8	ラジオレポート実習。(時事ネタ)						新聞を読み、気になる話題をまとめておく。(30分)	授業で学んだ事を復習、やり直し(30分)		
	9	ラジオレポート実習。(時事ネタ)						新聞を読み、気になる話題をまとめておく。(30分)	授業で学んだ事を復習、やり直し(30分)		
	10	ラジオレポート実習。(エリアの祭り)						山笠についてレポート出来るよう調べる。(30分)	授業で学んだ事を復習、やり直し(30分)		
	11	1分間スピーチ。						日々の出来事を1分間で話す練習(30分)	授業で学んだ事を復習、やり直し(30分)		
	12	ラジオレポート実習。(時事ネタ)						新聞を読み、気になる話題をまとめておく。(30分)	授業で学んだ事を復習、やり直し(30分)		
	13	ラジオレポート実習。(時事ネタ)						新聞を読み、気になる話題をまとめておく。(30分)	授業で学んだ事を復習、やり直し(30分)		
	14	ラジオレポート実習。(時事ネタ)						新聞を読み、気になる話題をまとめておく。(30分)	授業で学んだ事を復習、やり直し(30分)		
	15	ラジオレポート実習。(時事ネタ)						新聞を読み、気になる話題をまとめておく。(30分)	授業で学んだ事を復習、やり直し(30分)		
成績評価基準	授業への取組、日々のレポート内容から総合的に評価する。										
成績評価方法 (割合%)	筆記試験		レポート		課題		実技		授業の取組		その他()
							50%		50%		
教科書	使用しない					参考書	適宜紹介します。				
課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法	実技試験後、コメント、アドバイスをを行う。										

科目名	ラジオ番組制作演習 Training of Radio Program creation							担当者	上田 知 佳		
開講年度	2020	学年	2	開講期	通年 (後期)	単位数	2	授業 形態	演習	必修・選択 の区分	選択
授業の 到達目標	ラジオ番組を制作し、表現出来るようになる。										
授業概要	ラジオ番組を構成し、実際に自分で話し、番組を作る。										
授業計画	授業のテーマ							予習内容・時間	復習内容・時間		
	1	ラジオ番組の成り立ち。					エリアのラジオを聴いて感想を考える(2時間)		授業で学んだ事を復習、やり直し(2時間)		
	2	ラジオ番組を構成する。					エリアのラジオを聴いて感想を考える(2時間)		授業で学んだ事を復習、やり直し(2時間)		
	3	テーマに沿ってラジオ番組を構成し、パーソナリティとして伝える。					エリアのラジオを聴いて感想を考える(2時間)		授業で学んだ事を復習、やり直し(2時間)		
	4	テーマに沿ってラジオ番組を構成し、パーソナリティとして伝える。					エリアのラジオを聴き、気になる話題をまとめておく。(2時間)		授業で学んだ事を復習、やり直し(2時間)		
	5	テーマに沿ってラジオ番組を構成し、パーソナリティとして伝える。					エリアのラジオを聴き、気になる話題をまとめておく。(2時間)		授業で学んだ事を復習、やり直し(2時間)		
	6	テーマに沿ってラジオ番組を構成し、パーソナリティとして伝える。					エリアのラジオを聴き、気になる話題をまとめておく。(2時間)		授業で学んだ事を復習、やり直し(2時間)		
	7	テーマに沿ってラジオ番組を構成し、パーソナリティとして伝える。					エリアのラジオを聴き、気になる話題をまとめておく。(2時間)		授業で学んだ事を復習、やり直し(2時間)		
	8	テーマに沿ってラジオ番組を構成し、パーソナリティとして伝える。					エリアのラジオを聴き、気になる話題をまとめておく。(2時間)		授業で学んだ事を復習、やり直し(2時間)		
	9	テーマに沿ってラジオ番組を構成し、パーソナリティとして伝える。					エリアのラジオを聴き、気になる話題をまとめておく。(2時間)		授業で学んだ事を復習、やり直し(2時間)		
	10	テーマに沿ってラジオ番組を構成し、パーソナリティとして伝える。					エリアのラジオを聴き、気になる話題をまとめておく。(2時間)		授業で学んだ事を復習、やり直し(2時間)		
	11	テーマに沿ってラジオ番組を構成し、パーソナリティとして伝える。					エリアのラジオを聴き、気になる話題をまとめておく。(2時間)		授業で学んだ事を復習、やり直し(2時間)		
	12	テーマに沿ってラジオ番組を構成し、パーソナリティとして伝える。					エリアのラジオを聴き、気になる話題をまとめておく。(2時間)		授業で学んだ事を復習、やり直し(2時間)		
	13	テーマに沿ってラジオ番組を構成し、パーソナリティとして伝える。					エリアのラジオを聴き、気になる話題をまとめておく。(2時間)		授業で学んだ事を復習、やり直し(2時間)		
	14	テーマに沿ってラジオ番組を構成し、パーソナリティとして伝える。					エリアのラジオを聴き、気になる話題をまとめておく。(2時間)		授業で学んだ事を復習、やり直し(2時間)		
	15	まとめ					今までの授業内容を振り返りまとめておく。(2時間)		授業で学んだ事を復習、やり直し(2時間)		
成績評価基準	授業への取組、日々のレポート内容から、総合的に評価する。										
成績評価方法 (割合%)	筆記試験	レポート			課題		実技		授業の取組	その他()	
							50%		50%		
教科書	使用しない					参考書	適宜紹介します。				
課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法	実技試験後、コメント、アドバイスをを行う。										

科目名	オーディション対策Ⅱ Practice in Audition Ⅱ							担当者	川野 聡子 実務家教員			
開講年度	2020	学年	2年	開講期	後期	単位数	1	授業形態	演習	必修・選択の区分	選択	
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・オーディションの内容、対策を考えられるようになる ・内容に合わせ、自己PRがスムーズに出来るようになる ・自己プロデュース能力を高めることができる ・表情・表現力を高めることができるようになる 											
授業概要	プロモデルレッスンコーチがモデルの経験を生かし、芸能界で行われる様々なオーディションに対応できるよう、オーディションの内容や役柄に合わせ、自己PR、話し方から実技までを実施します。											
授業計画	授業のテーマ							予習内容・時間	復習内容・時間			
	1	自己紹介・自己PR					自己紹介文の作成 (30分)	自己紹介文の修正 (30分)				
	2	自己紹介・自己PR					自己PRの練習 (30分)	自己PRの修正 (30分)				
	3	質疑応答					質問作り (30分)	返答の見直し (30分)				
	4	表情トレーニング・笑顔の表現					表情トレーニング (30分)	笑顔の練習 (30分)				
	5	撮影①表情・ポーズ					表情トレーニング (30分)	笑顔の練習 (30分)				
	6	撮影②表情・ポーズ					姿勢、表情の見直し (30分)	表情の練習 (30分)				
	7	撮影③表情・ポーズ					ポーズの練習 (30分)	ポーズの練習 (30分)				
	8	撮影④表情・ポーズ					ポーズの練習 (30分)	ポーズの練習 (30分)				
	9	撮影⑤表情・ポーズ					ポーズの練習 (30分)	ポーズの練習 (30分)				
	10	演技①					発声練習 (30分)	演技の練習 (30分)				
	11	演技②					発声練習 (30分)	演技の練習 (30分)				
	12	演技③					発声練習 (30分)	演技の練習 (30分)				
	13	演技④					発声練習 (30分)	演技の練習 (30分)				
	14	オーディション基礎 総合					表情の練習 (30分)	表情の練習 (30分)				
15	まとめ					自己PRの練習 (30分)	総体的な見直し (30分)					
成績評価基準	実技試験の結果により評価する											
成績評価方法 (割合%)	筆記試験	レポート	課題	実技	授業の取組	その他 ()						
				80	20							
教科書	使用しない					参考書	使用しない					
課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法	試験のフィードバックとして、講評や解説の時間を設ける。											

科目名	宣材制作演習Ⅱ A Practice for making yourProfileⅡ						担当者	今木 清志 宮谷未知子 <small>実務家教員</small>			
開講年度	2020	学年	2	開講期	前期	単位数	1	授業形態	演習	必修・選択の区分	必修
授業の到達目標	タレント・モデル・女優・声優の世界で行われる様々なオーディションに対応できるように学生を指導し、学生各個人がオーディションを受ける際に、主催事務所がいかなる新人を求めているのかの判断ができ、相手が興味を持てるような魅力ある自己PRが出来るようになること。										
授業概要	本科目は宣材制作演習Ⅰの継続である。芸能界に入るためには、芸能プロダクションが主催する事務所オーディションに合格ねせばなりません。本学科に開講されている「オーディション対策」「MCトーク」「アナウンスメント」「映像演技」「PV制作演習」「ラジオ番組制作演習」「モデルストリート」「アフレコ」「ダンス表現研究」などと連動した科目であり、テレビドラマの制作現場でプロデューサーとしての実務経験を持つ教員が総合的に魅力ある自己PRができるよう指導します。										
授業計画	授業のテーマ						予習内容・時間		復習内容・時間		
	宣材制作演習Ⅰで得た経験をもとに、観察・実践を主とする演習を行う。										
	観察	①オーディション情報を調査・収集する。 ②各芸能事務所の傾向を調査する。 ③非常勤講師から各業界の情報を収集する。					(オーディション前) 服装・メイク・言葉遣い・話し方・特技などに関するアドバイスを受け、魅力ある自己PRができるよう研究する。(5時間)		オーディション会場の雰囲気・質問された事柄などを他の学生や後輩へ伝える。(5時間)		
	実践	①入学当初から1か月に一回ずつ、宣材を撮影する。 ②自身や他の学生、それぞれの変化を見届け、服装や表情などへのアドバイスを受ける。					(オーディション後) オーディション会場の雰囲気・質問された事柄などをまとめる。(5時間)				
実務家教員は、各ユニットの自主性を尊重しつつ、適切な助言を与えることとする。											
成績評価基準	本学科の教員が、あたかも芸能事務所の面接官になったとの想定の上で、個人を厳しく評価する。										
成績評価方法(割合%)	筆記試験	レポート	課題	実技	授業の取組	その他()					
				50	50						
教科書	なし			参考書	「可愛く美しく撮るための究極メソッド」 HASEO 著 玄光社						
課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法	オーディション終了後、学生同士でディスカッションをする場を設け、総合的なフィードバックを行う。										

発行日 2020年4月

発行者 西日本短期大学

〒810-0066

福岡県福岡市中央区福浜1-3-1

TEL 092-721-1141 (代表) 092-721-1152 (学務課直通)

学籍番号		氏名	
------	--	----	--

在学中の講義要項は、編入時の単位認定や資格取得時に提示を求められることがありますので、卒業後も各自保管してください。